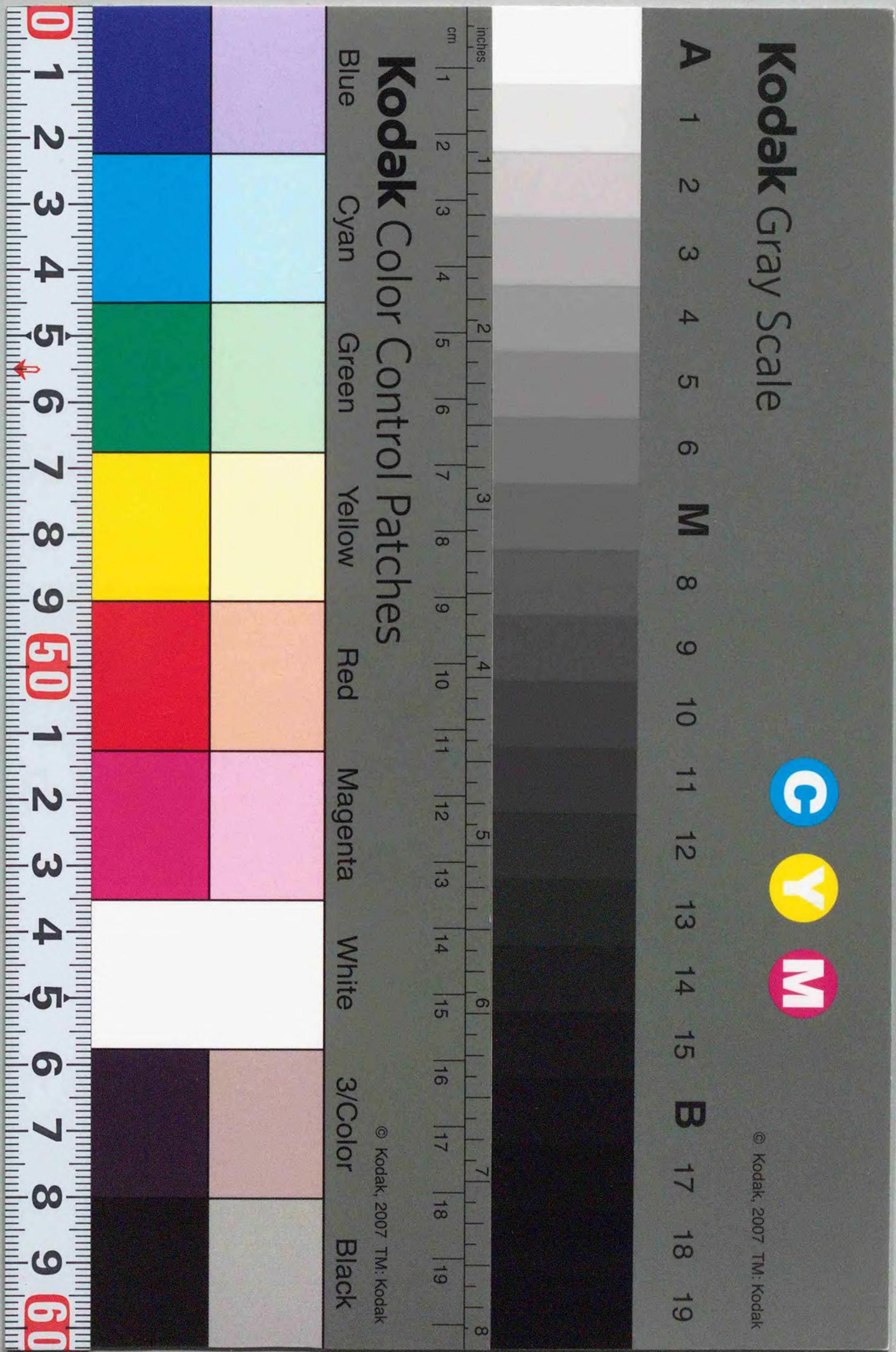


BZ-2-12
1200600137468



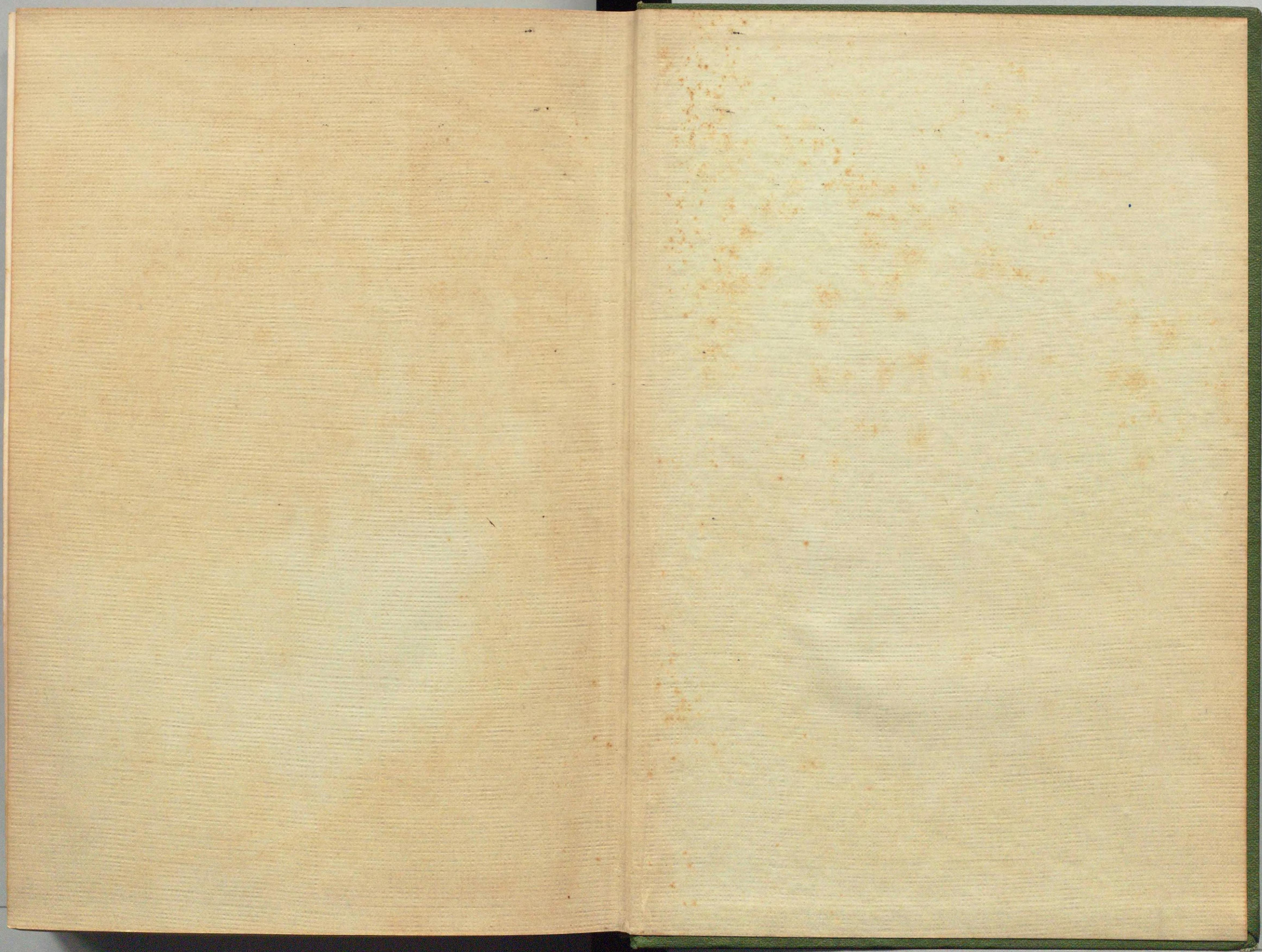
© Kodak, 2007 TM: Kodak

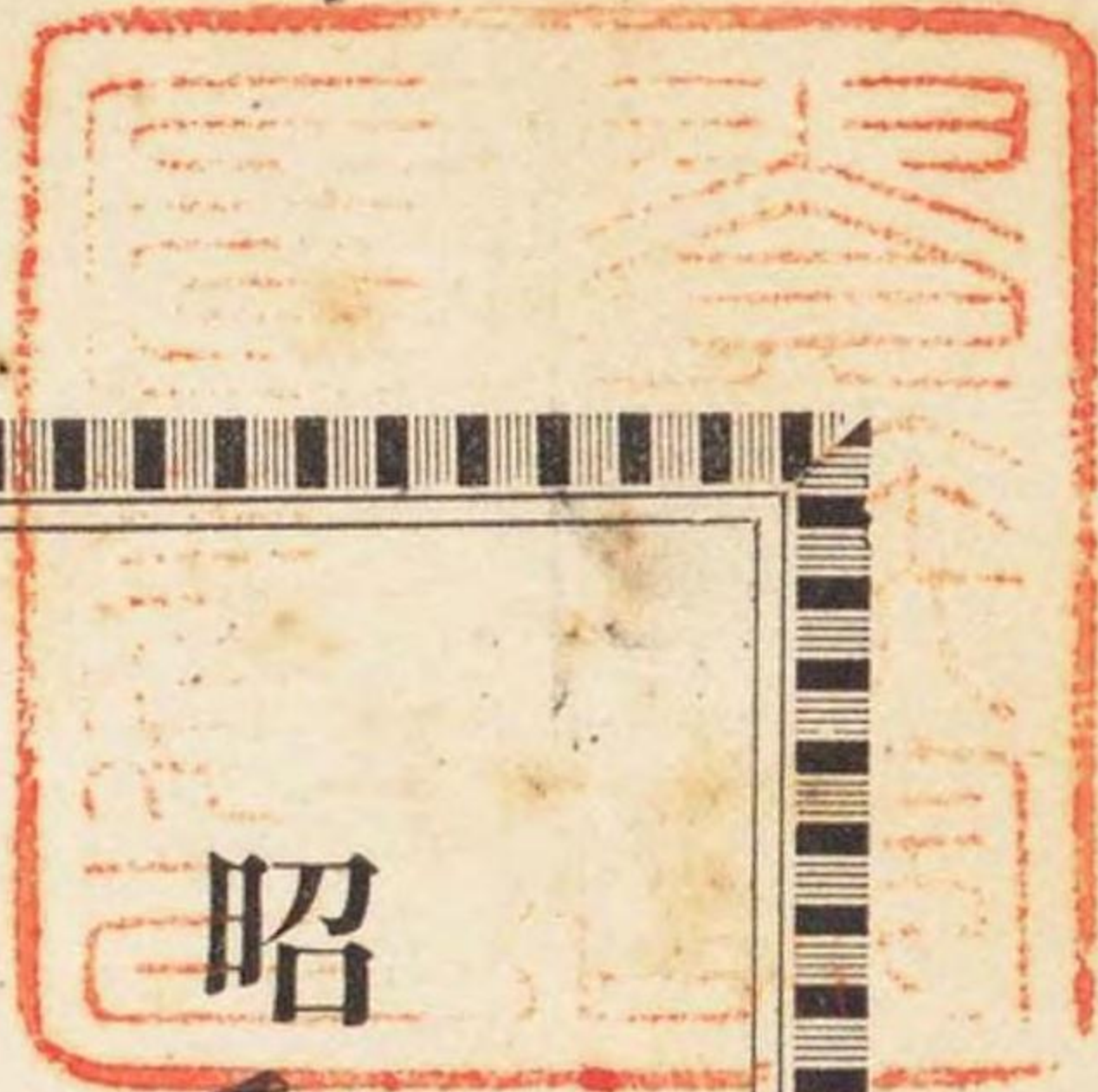
Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60





昭和三年四月改訂

衆議院先例彙纂 全

衆議院事務局

例言

- 一本書ハ曩ニ刊行シタル衆議院先例彙纂ヲ加除訂正シ第一回議會乃至第五十四回議會ノ先例ヲ輯録ス
- 一本書ハ之ヲ編章節款ニ分チ一事例毎ニ號數ヲ附シ各號ノ下ニ其ノ要旨ヲ表示シ更ニ事例ヲ摘録セリ
- 一事例ハ新例ヲ主トシ舊例ヲ取捨シ其ノ一端ヲ採録シテ簡約ヲ期セリ
- 一幾多ノ事項ト相關聯セル事例ハ表裏及主客ヲ考ヘ之ヲ適當ノ部ニ掲ケ他ノ關係ノ部ニ其ノ號數ヲ表示シ彼此參照ニ便ス
- 一關係法規ノ條章ヲ各號ノ欄外ニ掲ケテ參照ニ便ス(憲ハ憲法、



I 種
W



1200600137468

一 議院ハ議院法、衆ハ衆議院規則ノ略ナリ、
一 勅語、奉答、上奏、決議、祝賀、弔慰、通牒若ハ覆牒、謝辭、祝辭、挨拶及其
ノ他諸表ハ附録トシテ卷末ニ掲載ス

昭和三年四月

衆議院事務局



衆議院先例彙纂

目次

第一編 總則	一頁	摘要頁數	一
第一章 議會ノ會期	一		一
第二章 召集及成立	五		一
第一節 召集	五		一
第二節 議席及部屬	七		二
第三節 議院成立	一六		三
第三章 開院、閉院、會期延長、停會及解散	一九		四
第一節 開院式	一九		四
第二節 閉院式	二五		五
第三節 會期延長	二九		六

目次

第四節	停會	三一	六
第五節	解散	三三	六
第四章	議長副議長及假議長	三七	七
第一節	議長副議長候補者選舉	三七	七
第二節	議長副議長ノ就職退職	五〇	八
第三節	議長席	五八	九
第四節	假議長	六七	〇
第五章	議員	六九	〇
第一節	應召、當選證書ノ對照、入場及紹介	六九	〇
第二節	請假、忌服及闕席	七二	一
第三節	辭職、退職及除名	七五	一
第四節	資格審查	八三	二
第五節	補闕	八七	三

第六節	逮捕	九一	三
第六章	歲費及旅費	九五	四
第七章	委員	一〇一	五
第一節	全院委員長ノ選舉	一〇一	五
第二節	常任委員ノ選舉	一〇四	五
第三節	特別委員ノ選舉	一〇八	六
第四節	委員ノ辭任及補闕	一一一	六
第五節	委員會	一一三	七
第一款	全院委員會	一一三	七
第二款	常任及特別委員會	一一八	七
第八章	議案	一二一	八
第一節	議案ノ提出	一二一	八
第二節	議案ノ受理、送付、回付及通知	一三三	〇

目次

三

二

第三節	議案ノ印刷及配付	一三五	二〇
第四節	議案ノ撤回	一三八	二六
第五節	議案ノ奏上	一四八	二二

第二編 會議

第一章 議事日程

第一節	議事日程ノ掲載	一五三	二二
第二節	議事日程ノ追加	一五三	二二
第三節	議事日程ノ報告	一七四	二六
第二章	議事通則	一七六	二六
第一節	開議	一七七	二六
第二節	休憩、延會及散會	一七七	二六
第三節	休會	一八七	二七
		一九二	二八

第四節	定足數	一九七	二八
第五節	諸般ノ報告	二〇一	二八
第六節	議案ノ朗讀	二〇三	二九
第七節	議案ノ趣旨辯明	二〇四	二九
第八節	質疑	二一六	三〇
第九節	發言及發言通告	二三五	三二
第十節	發言ノ制止及取消	二五六	三三
第十一節	參考文書ノ朗讀	二六三	三三
第十二節	委員付託	二六九	三四
第十三節	委員長報告	二九六	三六
第十四節	少數意見	三〇八	三七
第十五節	討論	三一六	三八
第十六節	動議	三三一	三八

目次

五

第十七節	日程變更	三三〇	三九
第十八節	先決問題	三三四	三九
第十九節	修正	三六三	四一
第二十節	討論終局	三七二	四一
第二十一節	表決	三八一	四二
第二十二節	議決	四二〇	四四
第二十三節	再議	四三五	四五
第三章	法律案ノ會議	四三七	四六
第一節	第一讀會	四三七	四六
第二節	第二讀會	四四二	四六
第三節	第三讀會	四五〇	四七
第四章	豫算、決算及承諾ヲ求ムル議案ノ會議	四五三	四七
第一節	豫算會議	四五三	四七

第二節	決算會議	四七三	四九
第三節	承諾ヲ求ムル議案ノ會議	四八二	五〇
第五章	上奏、建議及決議	四九五	五一
第一節	上奏	四九五	五一
第二節	建議	五〇一	五一
第三節	決議	五〇三	五二
第六章	請願	五〇七	五二
第七章	質問及答辯	五二三	五四
第八章	祕密會議	五四九	五六
第九章	秩序、懲罰及傍聽	五五五	五七
第一節	秩序	五五五	五七
第二節	懲罰	五七九	五九
第三節	傍聽	五九五	六一

第十章 議事錄及速記録

五九九

六一

第三編 政府及貴族院トノ關係

六〇五

六一

第一章 政府トノ關係

六〇五

六一

第一節 國務大臣及政府委員

六〇五

六一

第二節 國務大臣及政府委員ノ發言

六一二

六三

第二章 貴族院トノ關係

六三一

六四

第四編 議院ノ法規及典禮

六四五

六四

第一章 議院法規ノ議定改正

六四五

六五

第二章 議院ノ典禮

六四九

六五

第一節 天機伺

六四九

六五

第二節 皇室ニ對スル慶賀及敬禮

六五四

六五

第三節 大喪儀及御弔詞

六六四

六六

第四節 慰問

六七一

六七

第五節 弔詞

六七七

六七

第三章 恩賞、待遇

六九一

六七

第一節 敘位敘勳其ノ他ノ恩賞

六九一

六八

第二節 宮中ニ於ケル席次、待遇及賜宴

六九六

六八

第四章 雜

七〇三

六九

第一節 徽章

七〇三

六九

第二節 議員控室

七〇四

六九

第三節 衆議院公報、參考圖書

七〇五

六九

第四節 各派協議會

七〇七

七〇

第五節 列國議會同盟及萬國議院商事會議

七〇九

七〇

第六節 雜件

七一二

七〇

目次

九



衆議院先例彙纂

摘要

第一編 總則

第一章 議會ノ會期

- 一 議會ノ會期毎ニ順次號數ヲ附シ第何回議會ト稱ス
- 二 解散後ノ議會ノ會期日數ハ詔書ヲ以テ定メラル
- 三 會期ハ開院式ノ日ヨリ起算ス
- 四 會期中ニハ休會及停會ノ日數ヲ算入ス

第二章 召集及成立

第一節 召集

- 五 解散後臨時會ヲ召集セラルルトキハ憲法第四十五條ニ依レル議會ヲ召集セラレヌ
- 六 憲法第四十五條ニ依レル議會ノ召集通常會ト同時期ナルトキハ併セテ之ヲ召集セラ

摘要

一

- 七 憲法第四十五條ニ依レル議會ノ召集ノ詔書ハ四十日以前ニ公布セラル
- 八 臨時會召集ノ詔書ハ四十日以前ニ公布セラルルコトヲ要セス
- 九 臨時會召集ノ詔書ニ次テ通常會召集ノ詔書ヲ公布セラル

第二節 議席及部屬

- 一〇 議席ハ議員ノ黨派別ニ依リテ議長之ヲ指定ス
召集日假席次亦之ニ準ス
- 一一 議席ノ指定及變更ハ衆議院公報ヲ以テ公示ス
- 一二 臨時會又ハ停會中ニ於テモ議席ノ一部ヲ變更ス
- 一三 議席ノ番號ハ各議席ノ後方ニ表示ス
- 一四 議席ノ番號ハ一區ヲ終リテ他區ニ移ル
- 一五 議席ニハ氏名標ヲ附シ其ノ變更毎ニ之ヲ轉移ス
- 一六 部屬ノ抽籤ハ議場ニ於テ書記官之ヲ行フ
議院ハ部屬ノ抽籤ヲ議長ニ委任スルコトヲ得
- 一七 部長及理事互選ノ結果ハ當日之ヲ議場ニ報告シ未定ノモノアルトキハ其ノ決定ヲ

俟テ公報ニ依リ通報ス

- 一八 臨時會ニ於テ部長及理事ノ互選手續ヲ省略シ前議會ノ通繼續シタルコトアリ
- 一九 補闕議員ハ其ノ前任議員所屬ノ部ニ入ル
- 二〇 一選舉區内ニ同時ニ數名ノ補闕議員アリタル場合ハ議長先ツ其ノ議席ヲ指定シ
部屬ハ議席ノ屬スル部トス
- 二一 議長又ハ副議長其ノ職ヲ辭スルトキハ後任者所屬ノ部ニ入ル
- 二二 部室ハ委員室ヲ以テ之ニ充ツ

第三節 議院成立

- 二三 議院ハ議長副議長勅任後議席及部屬ノ決定ヲ俟テ成立ス
- 二四 召集當日議長若ハ副議長闕位ノ場合ハ其ノ補闕勅任アリタル後議院成立ノ手續
ヲ爲ス
- 二五 議院成立ノ通知ハ即日之ヲ爲ス
- 二六 議院成立ニ關スル集會ハ場合ニ依リ遅刻セラル

第三章 開院、閉院、會期延長、停會及解散

第一節 開院式

- 二七 開院式ハ 陛下臨御親シク之ヲ行ハセラル
- 二八 開院式ニ勅語ヲ賜フ
- 二九 開院式ニ臨御ナキトキハ内閣總理大臣勅旨ヲ奉シテ勅語ヲ捧讀ス
内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ國務大臣代リテ捧讀ス
- 三〇 開院式當日貴族院議長故障アルトキハ貴族院副議長ノ職務ヲ行フ
- 三一 開院式ハ議院成立後三日以内ニ行ハセラルルヲ例トス
- 三二 開院式ヲ日曜日ニ行ハセラル
- 三三 開院式行幸ノ際議長副議長高等官奉送迎ヲ爲ス
- 三四 開院式前便殿ニ於テ議長副議長拜謁仰付ケラル
- 三五 皇太子殿下開院式ニ御臨場ノ際議長副議長書記官長及書記官ニ拜謁仰付ケラル
- 三六 開院式場ニ於テハ玉座ニ對シ左方ヲ以テ本院議長副議長議員書記官長及書記官ノ
席トス

- 三七 開院式場ニハ禮服着用本綬佩用ヲ要ス
- 三八 開院式場ニハ杖ヲ用キ或ハ給仕ヲ附スルコトヲ許サス
- 三九 開院式ニハ各國交際官官吏有爵者ニ陪觀ヲ新聞及通信社員ニ拜觀ヲ差許サル

第二節 閉院式

- 四〇 閉院式ハ貴族院ニ於テ行ハセラル
- 四一 閉院式ニハ内閣總理大臣勅旨ヲ奉シテ勅語ヲ捧讀ス
内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ國務大臣代リテ捧讀ス
- 四二 閉院式當日貴族院議長故障アルトキハ開院式ノ例ニ倣フ
- 四三 閉院式ハ會期終了ノ翌日之ヲ行ハセラル
- 四四 閉院式ヲ日曜日ニ行ハセラル
- 四五 停會中閉院式執行ノ旨仰出サル
- 四六 閉院式場ニ於ケル本院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席次ハ開院式ノ例ニ倣
フ
- 四七 閉院式場ニハ通常禮服着用本綬佩用ヲ要ス

第三節 會期延長

四八 會期ノ延長ハ通常會ト臨時會ト憲法第四十五條ニ依レル議會トヲ問ハス之ヲ命セラル

四九 會期ノ延長ハ會期ノ終了ニ際シテ命セラルルヲ例トス
五〇 一會期中二度會期ノ延長ヲ命セラル

第四節 停會

五一 停會ハ會議中ナルト否トヲ問ハス之ヲ命セラル
五二 停會ハ一會期中數回又ハ停會中ト雖之ヲ命セラル
五三 停會奏請ノ理由ヲ説明ス

第五節 解散

五四 解散ハ會議中ナルト否トヲ問ハス之ヲ命セラル
五五 停會中解散ヲ命セラル

五六 解散後ノ議會重テ解散ヲ命セラル
五七 政府解散ノ理由ヲ發表ス

第四章 議長副議長及假議長

第一節 議長副議長候補者選舉

五八 議長副議長候補者ノ選舉手續及投票點檢心得ハ第一回議會ニ於テ定メラレタルモノニ依ル

五九 召集當日議長若ハ副議長關位ノ場合ハ先ツ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ

六〇 會期中議長副議長關位トナリタルトキハ直ニ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ

六一 決選投票ノ點檢ニハ姓ノミヲ讀上ク

六二 議長ハ議長席ニ於テ選舉ノ投票ヲ爲ス

六三 選舉ノ投票ハ書記官演壇ニ於テ之ヲ受取り代テ投函ス

六四 選舉ノ際議員登壇シ得サル場合ニハ書記官其ノ席ニ就テ投票ヲ受取り代テ投函ス

六五 選舉ニハ議場ノ閉鎖ヲ要セス

六六 選舉ノ投票點檢中ハ定數ノ出席議員ヲ要セス

- 六七 用紙ヲ取違ヘタル投票ヲ有效トス 四四
- 六八 瑕疵アル投票ノ效力ハ議長之ヲ決定シ又ハ之ヲ院議ニ諮フ 四四
- 六九 同姓者ナキ議員ノ姓ノミヲ記載シタル投票ヲ有效トス 四五
- 七〇 無効投票ハ總數ニ算入ス 四六
- 七一 投票函閉鎖ノ宣告後ハ投票ヲ許サス 四六
- 七二 選舉ニ際シ名刺ノミヲ投入シタルモノハ棄權ト看做ス 四八
- 七三 選舉ニ際シ豫メ當選ヲ辭スルコトヲ得ス 四八
- 七四 總選舉後ノ議長副議長候補者選舉ノ際選舉ニ直接關係ナキ發言ハ之ヲ許サス 五〇

第二節 議長副議長ノ就職退職

- 七五 議長副議長ノ勅任ハ概ネ其ノ候補者ヲ奏上シタル當日又ハ翌日ナルヲ例トス 五〇
- 七六 日曜日ニ於テモ議長副議長ヲ勅任セラル 五一
- 七七 停會中ニ於テモ副議長ヲ勅任セラル 五一
- 七八 議長副議長勅任セラルトキハ書記官長之ヲ議院ニ紹介ス 五二
- 補闕ノ議長副議長ハ副議長議長之ヲ議院ニ紹介ス 五二

- 七九 新任ノ議長闕席ノ爲副議長ノミヲ議院ニ紹介ス 五三
- 八〇 議長副議長就職ノ挨拶ヲ爲シ年長議員祝詞ヲ述フ 五三
- 八一 任期限ニ達セル議長仍議長ノ職務ヲ行フ 五三
- 八二 議長公務若ハ病氣ノ爲辭任ス 五四
- 八三 副議長病氣又ハ一身上ノ都合ニ依リ辭任ス 五六
- 八四 議長副議長ノ辭表ハ副議長議長ヨリ之ヲ奏上ス但シ議長辭表提出後副議長ノ辭表ハ書記官長之ヲ奏上ス 五六
- 八五 議長副議長在職中ノ挨拶ヲ爲シ年長議員謝辭ヲ述フ 五七

第三節 議長席

- 八六 議長闕位シ副議長參内ノ爲一時休憩ス 五八
- 八七 議長若ハ副議長闕位トナルモ休會セス 五九
- 八八 議長ノ信任ニ關スル議事ニ付副議長議長ノ職務ヲ行フ 六〇
- 八九 議長ノ身上ニ關スル議事ニ付議長仍其ノ職務ヲ行ヒ若ハ副議長ヲシテ行ハシム 六一
- 九〇 議長ノ信任ニ關スル上奏中議長謹慎ヲ表シ副議長ヲシテ議事ヲ整理セシム 六三

摘要

- 九一 議長副議長各其ノ黨籍ヲ離脱ス
- 九二 議長議院規則ノ疑義ヲ決ス

十

第四節 假議長

- 九三 議長副議長俱ニ故障アリタルニ依リ假議長ヲ選舉ス
- 九四 假議長ノ選舉ヲ行フニ當リ全院委員長不在ノ爲出席年長者議長ノ職務ヲ行フ
- 九五 假議長ノ許ニ議長候補者及副議長候補者選舉ヲ行フ
- 九六 假議長ヨリ議長副議長候補者ヲ奏上ス

第五章 議員

第一節 應召、當選證書ノ對照、入場及紹介

- 九七 議員ハ總選舉後ノ議會ノ召集日ニ於テ當選證書ノ對照ヲ受ク
- 召集日ニ參院セサル者ハ初テ參院シタルトキ當選證書ノ對照ヲ受ク
- 九八 補充又ハ補闕當選シタル議員ハ其ノ初テ參院シタルトキ當選證書ノ對照ヲ受ク
- 九九 召集當日當選證書ノ對照ヲ經タル議員ノ員數ハ之ヲ議場ニ報告スルモ其ノ氏名ハ

六四 六五 六七 六八 六八 六八 六八 六八 六八 六九 六九 六九 六九 六九 六九

報告セス

- 一〇〇 初テ參院シタル議員當選證書ヲ携帯セサルトキハ當選者タル證明ヲ爲サシメタル後入場ヲ許可ス
- 一〇一 當選證書ノ對照ハ停會中ト雖之ヲ行フ
- 一〇二 補充又ハ補闕當選シタル議員初テ入場シタルトキハ議長之ヲ議院ニ紹介ス
- 一〇三 保釋中ノ議員召集ニ應ス

七〇

第二節 請假、忌服及闕席

- 一〇四 一週間以上ノ請假ト雖休會中ハ議長之ヲ許可ス
- 一〇五 請假ハ其ノ理由正當ト認メサルトキハ之ヲ許可セス
- 一〇六 請假ハ議事日程ノ會議前若ハ散會ニ際シ之ヲ院議ニ諮フ
- 一〇七 忌服ノ届出アルトキハ請假ヲ要セス
- 一〇八 召集ニ應シ難キトキハ應召延期ノ届出ヲ爲ス

第三節 辭職、退職及除名

七五

- 一〇九 議員ノ辭職願出ニ對シテハ議長ヨリ留職ノ勸告ヲ爲スヲ例トス但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一一〇 議員院議ヲ尊重シテ辭表ヲ提出ス
- 一一一 議員其ノ辭職願ニ對シ理由ヲ述フ
- 一一二 當選訴訟中ノ故ヲ以テ議員ノ辭職ヲ許可セス
- 一一三 資格審査中ノ故ヲ以テ辭職ノ許否ヲ延期ス
- 一一四 辭職ノ許否ハ議事日程ノ會議前院議ニ諮フヲ例トス
- 一一五 議員被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス
- 一一六 議員ノ資格ニ關シ判決アリタル場合事務局ハ其ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ長ヨリ之カ通牒ヲ受ク
- 一一七 除名ノ決議ハ之ヲ本人ニ通知ス

第四節 資格審査

- 一一八 議員ノ資格ニ對スル異議申立書ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ資格審査委員ニ付ス

第五節 補闕

- 一一九 異議申立者當該事件ノ資格審査委員ヲ辭任ス
- 一二〇 異議申立書ニ對スル答辯書ノ差出期日ニハ時間ヲ附ス
- 一二一 資格審査期日ハ議長之ヲ定ム
- 一二二 議院ハ議員ノ被選資格ヲ審査スルモ選舉手續及投票ノ有效無效ヲ審査セス

- 一二三 議員ニ闕員ヲ生スルトキハ議長ハ其ノ補闕選舉ヲ請求スルモ任期滿限ニ迫レルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一二四 衆議院議員選舉法第七十八條但書ノ場合ニ議長補闕選舉ヲ請求ス

- 一二五 總選舉後議會召集日前議員ニ闕員ヲ生スルトキハ書記官長ヨリ其ノ補闕選舉ヲ請求ス

- 一二六 選舉ニ關スル訴訟ノ結果又ハ選舉ニ關スル罰則ニ依リ當選無効トナリタル場合ニハ其ノ補闕選舉ヲ請求セス

第六節 逮捕

一二七 會期前ニ逮捕セラレ開會後仍勾留中ノ議員ニ關スル動議並政府ノ覆牒 九一

第六章 歳費及旅費 九五

一二八 歳費ハ通常會ノ場合ハ前半期分(自七月至十二月)ヲ開院式ノ、後半期分(自一月至六月)ヲ閉院式ノ當日又ハ翌日支給セラレ、臨時會、憲法第四十五條ニ依レル議會ノ場合ハ其ノ當月分迄ヲ閉院式ノ當日又ハ翌日支給セラレ旅費ハ歳費ト共ニ支給セラレ 九五

一二九 議員當選ノ時期ニ依リテハ歳費ノ後半期分ヲ前半期分ト共ニ受ク 九六

一三〇 通常會、臨時會若ハ憲法第四十五條ニ依レル議會タルヲ問ハス歳費年度中一度召集ニ應シタル議員ハ歳費ヲ受ク 九六

一三一 議員召集ニ應シタル後死亡シタルトキハ歳費ハ相續者ニ旅費ハ相續者又ハ遺族ニ支給セラレ 九六

一三二 議員召集日ノ前日迄ニ死亡シタルトキハ當月分迄ノ歳費ヲ受ク 九七

一三三 歳費受領後辭職、退職、除名又ハ解散セラレタルトキハ其ノ翌月以後ニ係ル歳費ハ之ヲ返戻セシム 九七

一三四 衆議院議員選舉法第七十八條但書ノ場合ニ於テハ其ノ在任ノ月割ノ歳費ヲ受ク 九八

一三五 任期滿限ノ月ニ於テ再選セラレタル議員ニハ其ノ月割ノ歳費ハ重複支給セラレス 九八

第七章 委員 一〇一

第一節 全院委員長ノ選舉 一〇一

一三六 全院委員長ノ選舉ハ議事日程ニ掲ケ開院式ノ翌日午前十時ヨリ行フヲ例トス 一〇一

一三七 臨時會ニ於テ全院委員長ノ選舉手續ヲ省略ス 一〇三

一三八 全院委員長關位トナリタルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フ 一〇四

第二節 常任委員ノ選舉 一〇四

一三九 常任委員ノ選舉ハ議事日程ニ掲ケ開院式ノ翌日午前十時ヨリ行フヲ例トス 一〇四

一四〇 常任委員ハ各部ニ於テ選舉ス 一〇五

其ノ補闕選舉亦同シ 一〇五

一四一 常任委員選舉ノ結果ハ當日議院ニ報告ス 一〇六

- 一四二 常任委員長及理事互選ノ結果ハ當日若ハ次會ニ之ヲ報告ス
- 一四三 臨時會ニ於テ常任委員常任委員長及理事ノ選舉手續ヲ 略シ前議會通繼續シタルコトアリ

第三節 特別委員ノ選舉

- 一四四 特別委員ノ選舉ハ概テ議長指名ノ方法ニ依ル
- 其ノ補闕選舉ハ前選舉ト同一ノ方法ニ依ル
- 一四五 特別委員ノ選舉ヲ議長ニ委任シタル場合ニハ議長ハ當日之ヲ指名スルヲ例トス
- 一四六 議長ハ各黨派ヨリ申出タル候補者ヲ特別委員ニ指名スルヲ例トス
- 一四七 特別委員ノ員數ノ増加ハ九ノ倍數ニ據ル
- 一四八 特別委員選舉ノ結果ハ當日衆議院公報ヲ以テ報告ス
- 一四九 特別委員長及理事互選ノ結果ハ衆議院公報ヲ以テ報告ス

第四節 委員ノ辭任及補闕

- 一五〇 全院委員長ノ辭任ハ院議ヲ以テ之ヲ許可ス

- 一五一 常任委員辭任シ補闕急ヲ要スルトキハ議長其ノ辭任ヲ許可スルモ補闕選舉ハ公報ニ掲載シタル後ナルヲ要ス
- 一五二 特別委員ノ辭任ハ議長ニ於テ之ヲ許可スルヲ例トス

第五節 委員會

第一款 全院委員會

- 一五三 全院委員會ハ議場ニ於テ之ヲ開キ其ノ會議ヲ公開ス
- 一五四 議長ハ全院委員會ノ開會期日ヲ指定ス
- 一五五 院議ヲ以テ全院委員會ノ討議時間ヲ定ム
- 一五六 院議ヲ以テ全院委員會ヲ祕密會ト爲ス
- 一五七 全院委員會ハ付託外ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 一五八 全院委員會ニ於テモ特別委員ノ退席ヲ許可ス

第二款 常任及特別委員會

- 一五九 委員會議日ハ月曜日、水曜日、金曜日ト定ムルヲ例トスルモ本會議ノ日ト雖之ヲ

開クコトヲ得

本會議中委員會ヲ開會セムトスルトキハ議院ノ許可ヲ要スルモ會期三分ノ二ヲ經過セ
ルトキハ議長限リ之ヲ許可ス

一六〇 議長ハ委員ニ對シ委員會ノ成立若ハ開會ニ付注意ス

一六一 議長ハ國務大臣及政府委員ニ對シ委員會出席ヲ注意ス

一六二 會議中委員會ヲ開クノ請求ハ同日幾回ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第八章 議案

第一節 議案ノ提出

一六三 議案ハ會期中何時タリトモ之ヲ提出スルコトヲ得

一六四 政府提出ノ議案ハ内閣總理大臣及主務大臣ノ連署花押シタル提出文ヲ添附ス
修正亦同シ

一六五 議員提出議案ハ提出者及贊成者ノ連署シタル提出文ヲ添附ス
修正案亦同シ

一六六 議案ハ一定ノ用文、用字ニ依ルコトヲ要ス

一一八
一一九
一二〇
一二〇
一二一
一二一
一二二
一二二
一二三
一二三

一六七 議案ノ様式、用字等ノ整理ハ議長之ヲ行フ

一六八 總豫算案ハ年末年始ノ休會明ノ始ニ提出セラルルヲ例トス

一六九 豫算ニ關係アル法律案ハ概ネ豫算案ト同時ニ提出セラル

一七〇 法律案ニ關係アル追加豫算案ハ其ノ法律案ノ議決ノ前後ヲ問ハズ提出セラル

一七一 決算ハ議了ニ至ラスト雖再ヒ次ノ會期ニ提出セラルルコトナシ

一七二 承諾ヲ求ムル議案議決ニ至ラサルトキハ豫備金支出ニ關スル件ハ次ノ會期ニ再
ヒ提出シ緊急勅令ハ之ヲ提出セス

一七三 修正案ノ提出ニハ理由書ヲ附スルヲ要セス

一七四 決議案ノ提出ニハ理由書ヲ附スルヲ要セス

一七五 議案提出者ノ員數ハ之ヲ制限セス

贊成者ハ成規ノ員數ヲ要スルモ之ヲ制限セス

一七六 議員ニシテ國務大臣若ハ政府委員タル者ハ概ネ議案提出ノ贊成者トシテ署名セ
ス

一七七 召集ニ應セサル議員ハ議案ノ提出者又ハ贊成者タルコトヲ得ス

一七八 議案ノ提出者又ハ贊成者ノ追加若ハ取消ハ其ノ案ノ配付後ハ之ヲ許サス但シ訂

ス

一三〇
一三一

正ハ此ノ限ニ在ラス

一七九 議案提出ノ賛成者ハ必スシモ其ノ案ノ賛成ヲ要セス

一八〇 議案ノ正誤者ハ緊急議決ノ要求ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス

第二節 議案ノ受理、送付、回付及通知

一八一 議案ハ開院式後ヨリ之ヲ受理ス

一八二 議案ハ停會中ハ之ヲ受理セス

一八三 議案ノ送付、回付、通知等ニハ一定ノ様式ヲ用ウ

一八四 議案ノ送付、回付、通知等ハ議決ノ當日其ノ手續ヲ爲ス

一八五 送付若ハ回付スヘキ議案ハ印本ヲ用ウ

一八六 議案ノ受理、送付、回付、通知等ハ議長之ヲ行ヒ其ノ公文書ニハ書記官長末尾ニ署名ス

一八七 議案ノ送付、回付、通知等ハ議長故障アル場合ハ副議長ノ名ヲ以テス

第三節 議案ノ印刷及配付

一三一
一三二
一三三
一三四
一三五
一三六
一三七
一三八
一三九
一四〇
一四一
一四二
一四三
一四四

一八八 貴族院提出議案及送付、回付ノ議案竝政府提出ノ修正ハ直ニ之ヲ印刷ニ付ス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一八九 議員提出議案ハ之ヲ印刷ニ付ス但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一九〇 修正動議ハ場合ニ依リ之ヲ印刷ニ付ス

一九一 特別ノ事情アルトキハ議案ヲ議事ニ付シタル後若ハ其ノ議了後ニ於テ之ヲ印刷シテ配付ス

一九二 議案其ノ他ノ書類ハ各控室内備付ノ文書函ニ配付ス至急ヲ要スル場合ハ議席ニ配付ス

第四節 議案ノ撤回

一九三 撤回ノ請求ハ書面又ハ口頭ヲ以テス

一九四 政府提出議案撤回セラルトキハ貴族院ニ通牒ス

一九五 議員提出ノ議案又ハ動議ノ撤回ハ概ネ許可セラル

一九六 議案ノ撤回ニ際シ其ノ理由ヲ述フ

一九七 撤回ハ提出者全部ノ請求ヲ要スルモ賛成者ノ同意ヲ要セス

- 一九八 撤回シタル議案ハ再ヒ之ヲ提出スルヲ妨ケス
- 一九九 政府提出案撤回ニ關シ質疑ヲ爲シ國務大臣其ノ理由ヲ述フ

一四四
一四七

第五節 議案ノ奏上

- 二〇〇 議案奏上ノ文例ハ一定ノ様式ニ依ル
- 二〇一 議案ノ奏上ハ即日之ヲ爲ス
- 二〇二 豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル議案)ノ一部ニ對シ承諾ヲ與ヘサルトキハ即日其ノ部分ヲ奏上ス

一四八
一四九
一五〇

二〇三 奏上ノ議案ハ印本ヲ用ウ

一四九
一五〇

二〇四 議案ノ奏上ハ議長故障アル場合ハ副議長ノ名ヲ以テス

一五〇

二〇五 可決奏上ノ法律案ニシテ一モ次ノ會期迄ニ裁可公布セラレサルモノナシ

一五一

第二編 會議

第一章 議事日程

一五三
一五三

第一節 議事日程ノ掲載

一五三

- 二〇六 議事日程掲載ノ序次ハ議長之ヲ定ム
- 二〇七 延會セラレタル議案ハ次會ノ議事日程ニ於ケル同種議案ノ首位ニ置クヲ例トス
- 二〇八 延期セラレタル議案ハ必スシモ次會ノ議事日程ニ掲載セス
- 二〇九 議事日程ニハ議案ノ提出者(送付回付ニ係ルモノハ其ノ旨)ヲ表示ス
- 二一〇 政府及貴族院提出ノ議案ヲ議事日程ニ掲載スル場合ハ各案毎ニ其ノ審査ヲ付託スヘキ委員選舉ノ件ヲ掲ク但シ同種又ハ關聯セル議案ハ數案ヲ一括シテ委員選舉ノ件ヲ掲ク
- 法律案ニハ讀會ヲ表示ス
- 二一一 政府ヨリ議院法第二十七條但書及第二十八條但書ニ依リ又ハ單ニ緊急事件トシテ議決セムコトヲ要求シタル議案ハ成規ノ日時ヲ短縮シテ議事日程ニ掲載ス
- 二一二 前號ノ場合ニ於テハ讀會ノ表示、委員選舉ノ件ハ之ヲ掲ケス但シ單ニ緊急事件トシテ要求セルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 二一三 議員提出議案ハ政府ノ同意ヲ得テ政府提出議案ニ先チ之ヲ議事日程ニ掲載スル

一五三
一五三
一五四
一五四
一五五
一五六
一五七

コトヲ得

二一四 議長候補者選舉ノ件ヲ議事日程ニ掲載シタルコトアリ

二一五 豫算案及決算ハ委員長ヨリ報告書ノ提出アリタル後之ヲ議事日程ニ掲載ス

二一六 豫算ニ關係アル法律案ヲ豫算案ト同日ノ議事日程ニ掲載スル場合ハ法律案ヲ前
ニス

二一七 豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル議案)ハ數件アルモ議事日程ニハ一件トシテ之ヲ
掲載ス

二一八 建議案ノ日程掲載ノ序次ハ必スシモ提出ノ順序ニ依ラス

二一九 特別報告ニ係ル請願ハ其ノ目的ヲ同シクスル議案ノ提出若ハ議決セラレタルト
キハ之ヲ議事日程ニ掲載セス

二二〇 特別報告ニ係ル請願ノミヲ以テ議事日程ヲ作成ス

二二一 特別報告ニ係ル請願ハ議事日程中別ニ番號ヲ附ス

二二二 質問ハ議案ト區別シ議事日程ノ前ニ掲載ス

二二三 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ヲ議事日程ニ掲載ス

二二四 質問ハ議案ノ都合ニ依リ質問日ニ非サルモ特ニ議事日程ニ掲載シ又質問日ト雖

之ヲ掲載セス

二二五 質問多數アルトキハ質問ノミヲ以テ議事日程ヲ作成ス

二二六 會期三分ノ二ヲ經過スルトキハ法律案ハ成規ノ日時ヲ經サルモ之ヲ議事日程ニ
掲載ス

二二七 議案ノ題名修正セラルルモ議事日程ニハ原題名ヲ掲載ス

二二八 議事日程ニハ委員付託中ノ議案ト同種ノモノト雖之ヲ掲載ス

二二九 貴族院ニ於テ現ニ會議中ノ議案ト同種ノモノト雖内容ニ於テ多少異ナルトキハ
之ヲ同一事件ト認メス議事日程ニ掲載ス

二三〇 議事日程ニ議案ノ會議開始時間ヲ指定スルコトヲ得

二三一 議事日程ニ議案ノ會議時間ヲ限定ス但シ議事ノ都合ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ
得

二三二 提出者又ハ委員長ノ請求アルトキハ議案ヲ議事日程ニ掲載スルコトヲ延期ス

二三三 議事日程ハ作成毎ニ其ノ號數ヲ新ニス

二三四 勅語ニ對スル奉答、天機伺、慶賀、弔慰、請暇、辭職、委員ノ辭任其ノ補闕及兩院協
議委員選舉等ノ件ハ議事日程ニ掲載セサルヲ例トス

第二節 議事日程ノ追加

- 二三五 議事日程ノ追加ハ院議ヲ經ルヲ要ス
- 二三六 會期切迫ノ爲質問日ノ議事日程ニ當日提出シタル質問ヲ追加ス
- 二三七 停會後ノ議事日程ニ他ノ事項ヲ追加スルコトヲ得
- 二三八 休會後ノ議事日程ハ之ヲ加除スルコトヲ得

第三節 議事日程ノ報告

- 二三九 議事日程ハ衆議院公報ヲ以テ報告ス
- 二四〇 散會ニ際シ議事日程ニ關スル報告ヲ省略ス

第二章 議事通則

第一節 開議

- 二四一 開院式當日ヨリ會議ヲ開ク
- 二四二 日曜日及祝祭日ニハ會議ヲ開カサルヲ例トス

一七四
一七四
一七五
一七五
一七六
一七六
一七七
一七七
一七七
一七七
一七六
一七六
一七五
一七五
一七四
一七四
一七三

- 二四三 停會滿了ノ翌日ハ會議ヲ開クヲ例トス
- 二四四 休會中特ニ會議ヲ開ク
- 二四五 午前十時ヨリ會議ヲ開キタルコトアリ
- 二四六 會議ハ火曜日、木曜日、土曜日ニ開クヲ例トス但シ必要ノ場合又ハ會期三分ノ二ヲ經過セルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二四七 年末年始ノ休會後ハ第一會議日ヨリ開會スルヲ例トス
- 二四八 會議ノ開始ハ場合ニ依リ定刻ヨリ遅延セラル
- 二四九 勅語ニ對スル奉答、天機伺、慶賀、弔慰、請暇、辭職、委員ノ辭任等ノ事項ハ概ネ會議ノ始ニ於テ之ヲ院議ニ諮フヲ例トス

第二節 休憩、延會及散會

- 二五〇 議長必要ト認ムルトキハ休憩ヲ宣告ス
- 二五一 議事日程ノ議事ニ入ラスシテ延會シ又ハ日程ヲ延期シテ散會ス
- 二五二 會期終了日ニ於ケル兩院ノ散會ハ同時ナルヲ要セス
- 二五三 議長ハ會期終了日ノ散會ニ際シ慰勞ノ辭ヲ述ヘ且會期中ノ成績ヲ報告スルヲ例

摘要

一七八
一八〇
一八一
一八二
一八四
一八五
一八七
一八七
一八七
一九〇
一九〇
一九〇

第三節 休會

- 二五四 年末年始ノ爲休會ス
- 休會ノ期間ハ院議ヲ以テ之ヲ定ム
- 二五五 祝意哀弔其ノ他ノ事由ノ爲休會ス

第四節 定足數

- 二五六 諸般ノ報告又ハ投票點檢ノ場合ハ定數ノ出席議員ヲ要セス
- 二五七 出席議員定數ヲ缺キ又缺クノ虞アルトキハ休憩若ハ延會ス
- 二五八 出席議員定數ニ充タサルトキニ於ケル二回ノ計算ハ必ス相當ノ時間ヲ經ルヲ要ス

第五節 諸般ノ報告

- 二五九 諸般ノ報告ハ開院式當日若ハ翌日ノ會議ヨリス但シ議員ノ異動及議院成立ニ

スルモノハ開院式前ト雖報告ス

- 二六〇 緊急ノ必要アル報告ハ會議中又ハ散會前ニモ之ヲ爲ス

- 二六一 報告スヘキ事項ハ議長必要ト認ムル所ニ依ル

- 二六二 報告スヘキ事項ト雖衆議院公報ニ掲載セラレタルモノハ場合ニ依リ報告ヲ省略ス

第六節 議案ノ朗讀

- 二六三 議案ノ朗讀ハ之ヲ省略スルヲ例トス

第七節 議案ノ趣旨辯明

- 二六四 議案會議ニ付セラレタルトキハ提出者先ツ其ノ趣旨ヲ辯明ス
- 趣旨辯明ハ討論中ト雖之ヲ爲スコトヲ得
- 二六五 議案ノ趣旨辯明ヲ提出者兩名ニテ之ヲ爲ス
- 二六六 贊成者ハ提出者ニ代リテ議案ノ趣旨辯明ヲ爲スコトヲ得
- 二六七 議案ノ趣旨辯明ハ之ヲ補足スルコトヲ得

二六八 數箇ノ議案ヲ一括シテ議題ト爲シタル場合ニ提出者同一ナルトキハ同時ニ、提出者異ナルトキハ順次其ノ趣旨ヲ辯明セシム

二〇九

二六九 議案ノ趣旨辯明ナキ場合ニハ其ノ議事ヲ一時延期シ又ハ直ニ委員ニ付託シ或ハ之ヲ即決ス

二〇九

二七〇 一議案ニ對シ多數ノ修正案提出セラルル場合ハ順次各案ノ趣旨辯明ヲ爲サシム

二〇九

二七一 修正案ノ趣旨辯明ハ其ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

二〇九

二七二 簡單ナル趣旨辯明ハ自席ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

二〇九

二七三 院議ヲ以テ議案ノ趣旨辯明ヲ省略シ之ヲ委員ニ付託ス

二〇九

二七四 院議ヲ以テ議案ノ趣旨辯明ヲ省略シ討論ヲ用キスシテ採決ス

二〇九

二七五 會期切迫ノ爲院議ヲ以テ議案ノ趣旨辯明ノ時間ヲ制限ス

二〇九

第八節 質疑

二〇九

二七六 質疑ハ議案ノ趣旨辯明後之ヲ許スヲ例トス

二〇九

二七七 一議案ニ對シ二日間ニ互リ質疑ス

二〇九

二七八 會期ノ始ニ於ケル國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ハ演說終了後通告順ニ依リ之ヲ

二〇九

許可ス

二〇九

二七九 國務大臣ノ演說ニ對シ數日ニ互リ質疑ス

二〇九

二八〇 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ノ會議繼續中内閣更迭シ前内閣ノ政策ヲ踏襲セシ

二〇九

モ質疑ノ通告ハ之ヲ更新ス

二〇九

二八一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑者ハ先ツ質疑事項ノ全部ヲ述フルヲ例トス

二〇九

二八二 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑ハ政務ノ全般ニ涉リ之ヲ爲スコトヲ得

二〇九

二八三 國務大臣ニ對スル質疑ニ付他ノ國務大臣若ハ政府委員ヨリ辯明ヲ爲ス

二〇九

二八四 當該問題ニ關係アルモノハ質問ノ名ヲ以テスルモ之ヲ質疑ト看做ス

二〇九

二八五 質疑其ノ範圍ヲ超ユルトキハ中止セラル

二〇九

二八六 質疑ハ其ノ答辯ニ對スル質疑ト通シテ三回ヲ超ユルコトヲ得ス

二〇九

二八七 質疑ハ委員付託ノ動議成立後ハ之ヲ許サス

二〇九

二八八 討論ニ對スル質疑ハ之ヲ許ス但シ討論終局ノ動議成立後ハ之ヲ許サス

二〇九

二八九 關聯セル議案アリタル爲曩ニ委員付託トナリタル議案若ハ未タ議題ニ上ラサル

二〇九

議案ニ付國務大臣ニ對シ質疑ヲ爲ス

二〇九

二九〇 質疑ニ對スル質疑ハ之ヲ許ササルヲ例トス

二〇九

第九節 發言及發言通告

- 二九一 發言ハ開議宣告ノ後ニ非サレハ之ヲ許可セス
- 二九二 議事進行、議事若ハ議場整理又ハ議員ノ身上ニ關スル發言ハ議事日程ノ變更ヲ要セス直ニ之ヲ許可スルヲ例トス
- 前項ノ場合ト雖他人ノ發言中ハ懲罰事犯ノ外之ヲ許サス
- 二九三 身上ノ辯明ト雖場合ニ依リ之ヲ許サス
- 二九四 議事進行ニ關スル發言竝身上ニ關スル辯明ハ其ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス
- 二九五 議長必要ト認ムル場合ハ一時發言ヲ中止スルコトヲ得
- 二九六 議席ニ於ケル發言者ヲ登壇セシム
- 二九七 演說者ハ私話ニ應酬スルコトヲ得ス
- 二九八 外國語ハ慣用語又ハ已ムヲ得サル場合ノ外使用スルコトヲ得ス
- 二九九 同一議題中ト雖趣旨辯明ノ補足ハ勿論其ノ資格ヲ異ニスルトキハ再度發言ヲ爲スコトヲ得
- 三〇〇 發言中其ノ發言ノ一部ニ對シ懲罰委員ニ付セラルルモ尙發言權ヲ失ハス

- 三〇一 發言中散會シタルトキハ次ノ會議日ニ於テ議題トナリタル際其ノ發言ヲ繼續セシム
- 三〇二 發言權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得
- 三〇三 書記官長及書記官ハ議長ノ命ニ依リ又ハ議長ニ對シ發言スルコトヲ得
- 三〇四 發言通告ハ其ノ議案ノ議事日程ニ掲載セラレタル後之ヲ受理ス但シ議事日程以外ノ議題ニ對シテハ議長議事ニ付スルノ宣告後之ヲ受理ス
- 三〇五 政府又ハ貴族院提出議案ニ對スル討論ノ發言通告ハ委員長報告ノ議事日程ニ掲載セラレタル後之ヲ受理ス
- 三〇六 討論又ハ質疑ノ發言順位ハ各派ノ協議ニ依リ之ヲ定ム
- 前項ニ依リ定マリタル順位ハ發言者間ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得
- 三〇七 修正案若ハ修正動議ノ提出者ハ發言通告ニ先チ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得
- 三〇八 委員長報告若ハ少數意見ノ補足ハ發言通告ニ先チ之ヲ述フルコトヲ得
- 三〇九 發言通告ハ同一讀會中其ノ效ヲ失ハサルモ次ノ讀會ニ繼續セス

第十節 發言ノ制止及取消

- 二四七
- 二四八
- 二四八
- 二四八
- 二五〇
- 二五一
- 二五二
- 二五三
- 二五四
- 二五六
- 二五六

- 三三一 審査又ハ議決未了ノ決算ハ後ノ會期ニ於テ之ヲ審査セシム 二八二
- 三三二 豫備金支出又ハ豫備金外支出ニ關スル件ハ特別委員ニ付託ス 二八四
- 三三三 委員ニ付託シタル議案ノ議決前ハ之ト同種又ハ關聯セル議案ヲ其ノ委員ニ併セ付託スルコトヲ得 二八五
- 三三四 各別ニ付託セラレタル議案關聯セル爲其ノ委員ヲ併合ス 二八六
- 三三五 委員ノ員數ハ後ニ之ヲ増加スルコトヲ得 二八六
- 三三六 特種ノ事項ヲ調査スル爲委員ヲ設ク 二八六

第十三節 委員長報告

- 三三七 委員ニ付託シタル議案議題トナリタルトキハ先ツ委員長其ノ報告ヲ爲ス 二九六
- 三三八 同一委員ニ付託セラレタル數議案同時ニ議事日程ニ掲載セラレタルトキハ一括議題ト爲シ委員長ヲシテ併セテ報告セシム 二九六
- 三三九 簡單ナル委員長ノ報告ハ自席ヨリ之ヲ爲スコトヲ得 二九七
- 三四〇 委員長報告中ノ希望、警告、附帶決議等ハ報告ニ止マリ採決セス 二九七
- 三四一 委員長ハ報告ニ併セテ自己ノ意見ヲ述フルコトヲ得ス 三〇〇

- 三四二 委員ハ委員長又ハ理事ニ代リ報告ヲ爲スコトヲ得 三〇二
- 三四三 委員長理事及委員ハ報告ヲ補足スルコトヲ得 三〇三
- 三四四 議案ノ審議終了セルトキ院議委員長ヲシテ報告ヲ爲サシム 三〇三
- 三四五 場合ニ依リ委員長ノ口頭報告ヲ省略シテ直ニ議決ヲ爲ス 三〇三
- 三四六 委員長報告ノ際報告者其ノ席ニ在ラサル爲一時其ノ議事ヲ延期シ又ハ討論ヲ先ニス 三〇四

第十四節 少數意見

- 三四七 委員長報告延期ノ請求アルトキハ之ヲ許可シ其ノ議事ハ併セテ延期セラル 三〇五
- 三四八 委員長報告書ノ撤回ハ議題トナラサル以前ハ議長ニ於テ之ヲ許可ス 三〇六
- 三四九 報告書ノ訂正ハ書面又ハ口頭ヲ以テス 三〇八
- 三五〇 少數意見ハ委員長報告ニ次テ提出者之ヲ述フ 三〇八
- 三五一 法律案ニ對スル少數意見修正ナルトキハ第二讀會ニ於テ之ヲ述ヘシム 三〇九
- 三五二 少數意見ハ場合ニ依リ其ノ部分ノ議題ニ上レルトキ之ヲ述フ 三一〇
- 三五三 委員長少數者ナリシトキハ委員長ノ報告ニ次テ少數意見ヲ述フルコトヲ得 三一〇

- 三五四 委員ハ少數意見ヲ補足スルコトヲ得 三一二
- 三五五 委員ハ少數意見ニ併セテ自己ノ意見ヲ述フルコトヲ得ス 三一二
- 三五六 少數意見トシテ提出シタル修正ハ成規ノ賛成アルニ非サレハ成立セス 三一四
- 三五七 少數者意見書ノ撤回ハ議題トナラサル以前ハ議長ニ於テ之ヲ許可ス 三一五

第十五節 討論

三一六

- 三五八 議案ノ趣旨辯明又ハ委員長ノ報告アリタル後反對賛成ノ兩者交互ニ討論ス 三一六
- 三五九 一議案ニ對シ四日間ニ互リ討論ヲ爲ス 三二〇

第十六節 動議

三二一

- 三六〇 緊急動議ハ何時ニテモ提出スルコトヲ得 三二一
- 三六一 議事進行ニ關スル動議又ハ議案ニ附帶セル動議ハ議事日程ノ變更ヲ要セス 三二二
- 三六二 演說若ハ報告ニ關聯セル動議ハ議事日程ノ變更ヲ要セス 三二三
- 三六三 議事及議決延期ノ動議提出セラルルトキハ先決問題トシテ直ニ議題ト爲ス 三二五

- 三六四 議事延期ノ動議ヲ否決シタル場合ハ同日再ヒ同一ノ動議ヲ提出スルコトヲ得ス 三二七
- 三六五 議案ノ提出者ヨリ議事ノ延期ヲ請求スル場合ハ議題トナラサル以前ハ議長之ヲ許可ス 三二八

第十七節 日程變更

三三〇

- 三六六 議事日程變更ノ緊急動議ハ何時ニテモ提出スルコトヲ得 三三〇
- 三六七 議事日程變更ノ緊急動議ノ趣旨辯明ハ之ヲ爲ササルヲ例トス 三三〇
- 三六八 同一議案ニ對スル議事日程變更ノ動議ハ同日再ヒ提出スルコトヲ得 三三一
- 三六九 政府ニ議事日程變更ノ同意ヲ求ムル間ハ議事ヲ進行セス 三三一
- 三七〇 政府議事日程ノ變更ニ同意セサル場合ニ於テ政府提出議案議了後他ノ議案ニ先チ直ニ議事ニ付セムトスルニハ更ニ議事日程ノ變更ヲ要ス 三三二
- 三七一 議事日程ニ掲載セラレタル議案ニシテ同種若ハ關聯セルモノ又ハ提出者同一ナルモノヲ一括シテ議事ニ付セラル 三三三

第十八節 先決問題

三三四

- 三七二 會議事項ニ先チ表決ノ必要アル動議ハ先決問題トス
- 三七三 先決問題ヲ本案ト共ニ議題ニ供シ採決ハ之ヲ先ニス
- 三七四 討論終局ノ動議ト委員付託ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ委員付託ノ動議ヲ採決ス
- 三七五 讀會省略ノ動議ト委員付託ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ委員付託ノ動議ヲ採決ス
- 三七六 委員付託ノ動議ト議事延期ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ議事延期ノ動議ヲ採決ス
- 三七七 即決ノ動議ト委員付託ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ委員付託ノ動議ヲ採決ス
- 三七八 即決否決ノ動議ト議事延期ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ議事延期ノ動議ヲ採決ス
- 三七九 討論終局ノ動議ト議事延期ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ議事延期ノ動議ヲ採決ス
- 三八〇 終局ノ動議ト質疑延期ノ動議ト同時ニ起リシトキハ先ツ質疑延期ノ動議ヲ採決ス

採決ス

- 三八一 討論中ノ問題ヲ議決スルニ及ハス若ハ議スヘカラストノ發議ハ反對説ニシテ先決問題ニ非ス

第十九節 修正

- 三八二 修正動議ヲ提出スルニハ其ノ案ヲ具フルヲ要ス
- 三八三 修正動議ハ讀會省略ノ場合ニ於テハ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ得
- 三八四 修正ハ討論終局ノ動議成立前之ヲ提出スルコトヲ要ス
- 三八五 議案ヲ分合シ又ハ其ノ事項ヲ擴張シ若ハ其ノ性質内容ヲ變更スルハ修正ノ範圍内トス
- 三八六 修正案ヲ提出シ次テ返付ノ動議ヲ提出セムトスルトキハ先ツ修正案ヲ撤回スルヲ要ス
- 三八七 數案ヲ併合シテ修正報告アリタルトキハ便宜上修正案ヲ原案トシテ議題ニ供ス

第二十節 討論終局

- 三八八 討論終局ノ動議提出セララルトキハ先決問題トシテ直ニ採決ス 三七二
- 三八九 議長ノ發言許可後ハ其ノ發言ヲ終ル迄討論終局ノ動議ヲ提出スルコトヲ得ス 三七六
- 三九〇 討論終局ノ動議成立後ハ質疑、修正、趣旨辯明ノ補足、身上辯明モ之ヲ許サス 三七七
- 三九一 討論終局ノ動議出テタル際國務大臣政府ノ意思ヲ表明ス 三七九

第二十一節 表決

- 三九二 表決權ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得 三八一
- 三九三 投票セサル者ハ表決權ヲ拋棄シタルモノト看做ス 三八一
- 三九四 議場ノ閉鎖ハ議長ノ宣告ニ依リ之ヲ行フ 三八二
- 三九五 閉鎖中入場セシ議員アリタル爲改メテ表決ヲ爲ス 三八三
- 三九六 閉鎖中退場セムトスルトキハ議長ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス 三八四
- 三九七 投票ハ書記官演壇ニ於テ之ヲ受取り投函ス 三八五
- 三九八 投票ノ爲議員登壇シ得サル場合ハ書記官其ノ席ニ就キ投票ヲ受取り投函ス 三八六
- 三九九 表決ニ對スル異議申立ハ次ノ議題宣告前ナルヲ要ス 三八六
- 四〇〇 起立ノ數判然セサルトキハ反對表決ヲ爲スコトヲ得 三八七

- 四〇一 起立採決ニ依ラス直ニ記名若ハ無名投票ヲ以テ採決ス 三八七
- 四〇二 投票ハ更正スルヲ得ス 三九〇
- 四〇三 表決ノ宣告徹底セサル爲重テ宣告シタルモ既ニ爲シタル投票ハ之ヲ有効トス 三九〇
- 四〇四 記名投票ノ際誤テ他人ノ名刺ヲ用キタル者アルトキハ場合ニ依リ其ノ效力ヲ異ニス 三九一
- 四〇五 無名投票ノ際名刺ノミヲ投入シタル者ニハ更ニ球ノ投入ヲ許サス 三九三
- 四〇六 議員ノ進退又ハ身上ニ關スル事件ノ表決ハ概ネ無名投票ヲ用ウ 三九四
- 四〇七 直ニ消極ノ表決ヲ採ルコトヲ得 三九六
- 四〇八 記名投票ノ場合ニ一方ノミ投票ヲ爲ス 三九七
- 四〇九 議長ノ決裁表決ハ消極的ナルヲ例トス 三九九
- 四一〇 議長必要ト認メタル表決方法ニ對シ他ノ表決方法ヲ用キルノ動議起ルトキハ先ツ其ノ動議ヲ裁決スルヲ例トス 四〇〇
- 四一一 表決方法ニ付二種ノ請求アルトキハ議長ハ院議ニ諮ヒ又ハ職權ヲ以テ之ヲ決定ス 四〇一
- 四一二 表決、表決方法及表決ノ結果ノ宣告ハ之ヲ訂正スルコトヲ得 四〇五

- 四一三 題名ノ修正ハ本文ト併セ採決スルヲ例トス 四〇七
 - 四一四 一括シテ院議ニ付シタル數議案ヲ一括又ハ各別ニ採決ス 四〇八
 - 四一五 數箇ノ修正案アル場合ニハ議長其ノ採決順序ヲ定ム 四〇八
 - 四一六 議決ニ際シ先ツ主義ニ依リ又ハ重要部分ヨリ逐次採決ス 四一〇
 - 四一七 數箇ノ修正案アル場合ニ修正中共通ノ部分アルモ便宜各案毎ニ採決ス 四一一
 - 四一八 數箇ノ修正案アル場合ニ修正中共通ノ部分ヨリ又ハ共通ナラサル部分ヨリ採決ス 四一一
 - 四一九 委員會ノ報告否決ナルトキハ本案ニ付テ採決スルヲ例トス 四一二
 - 四二〇 少數意見修正案トシテ成立シタル場合ハ委員會ノ修正ニ先ツテ採決ス 四一四
 - 四二一 第三讀會ニ於テ廢案說アルモ原案ニ付採決ス 四一五
 - 四二二 削除ノ意見ニ對シテハ原案ニ付テ採決ス 四一六
 - 四二三 採決ノ必要ナキニ至レル動議ハ消滅シタルモノト認ム 四一七
- 第二十二節 議決**
- 四二四 議案ハ委員ノ審査ニ付シ其ノ報告ヲ得タル後議決スルヲ例トス 四二〇

四二五 修正案原案共ニ否決セラレ更ニ委員ヲ選定スルニハ廢棄スヘカラサルモノト議決スルヲ要ス

- 四二六 數議案ヲ併セ一案トシテ議決ス 四二二
- 四二七 前議會ニ通過シタル建議案ト同一若ハ同種ノ建議案ヲ一括シテ即決ス 四二三
- 四二八 議案ニ引用セル條項ニ對シ修正ノ條件ヲ附シテ議決ス 四二五
- 四二九 已ムヲ得サル場合ニハ議案ノ條項中闕字ヲ存シテ議決ス 四二五
- 四三〇 議決ノ結果ヨリ生スル議案ノ形式又條項ノ整理ヲ議長ニ委任ス 四二六
- 四三一 一法律ニ對シ廢止案ト修正案ト議事日程ニ掲載セラレタルトキハ廢止案ヲ先ニ議決ス 四二八
- 四三二 同種議案中ノ一案ヲ議決シタルトキハ他ノ議案ハ議決ヲ要セス 四三〇
- 四三三 議長ノ處置ノ當否ヲ議決ス 四三三
- 四三四 委員會ノ措置ノ是非ヲ議決ス 四三四
- 四三五 宣告又ハ採決ノ徹底シタルヤ否ヲ議決ス 四三四

第二十三節 再議

四三六 特別ノ理由アルトキハ既ニ議決シタル議案ヲ再議ニ付ス

四十六

第三章 法律案ノ會議

四三七

第一節 第一讀會

四三七

四三七 法律案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決ス

四三七

四三八 讀會ニ要スル期間ハ時ヲ以テ計算ス

四三七

四三九 會期三分ノ二ヲ經過スルトキハ讀會ニ要スル期間ヲ短縮ス

四三八

四四〇 政府ヨリ讀會省略ノ要求ヲ爲スハ議案提出ト同時又ハ議事ニ付セラレル前ナルヲ例トス

四三九

四四一 政府ヨリ讀會省略ノ要求アルトキハ概ネ之ニ同意ス

四三九

四四二 讀會省略ノ場合ニ於テハ會議中何時ニテモ修正動議ヲ提出スルコトヲ得

四四〇

四四三 第一讀會ニ於テ讀會ヲ省略シテ即決可決ス

四四一

四四四 第一讀會ノ續會ニ於テ法律案ヲ再審査ニ付ス

四四二

第二節 第二讀會

四四二

四四五 第二讀會ニ於テ便宜ノ爲先ツ議案中ノ重要部分ヨリ議決ス

四四三

四四六 第二讀會ニ於テ修正案ヲ原案ト看做シテ議題ニ決ス

四四四

四四七 第二讀會ニ於テハ整理ノ爲ノ外議案ヲ委員ニ付託スルコトヲ得ス

四四六

四四八 第二讀會ニ於テハ修正意見ノ外大體論ヲ述フルコトヲ得ス

四四七

四四九 第三讀會ヲ省略スルトキハ第二讀會ヲ以テ確定トス

四四八

四五〇 同一讀會ヲ開クノ動議ハ同日再ヒ提出スルコトヲ得

四四九

第三節 第三讀會

四五〇

四五一 第三讀會ニ於ケル討論ハ議案全體ニ涉リテ之ヲ爲ス

四五〇

第四章 豫算、決算及承諾ヲ求ムル議案ノ會議

四五三

第一節 豫算會議

四五三

四五二 豫算案ハ年末年始ノ休會明ノ始ニ提出セラレルヲ例トス

四五三

四五三 豫算案ハ特殊ノ事情アル場合ニハ撤回ノ上更ニ提出セラレル

四五四

四五四 即位ノ大禮ニ關スル豫算ヲ議定ス

四五五

摘要

四十七

- 四五五 大喪ニ關スル豫算ヲ議定ス 四五七
- 四五六 豫算案ハ委員ノ審査ヲ經テ後會議ニ付ス 四五八
- 追加豫算案ハ政府ノ要求アルトキハ委員ノ審査ヲ省略シ直ニ會議ニ付ス
- 四七七 豫算案ハ審査未了ノ爲若ハ整理、修正ヲ爲ス必要アルトキハ豫算委員又ハ特別委員ノ審査ニ付スルコトヲ得 四六〇
- 四七八 法律案ニ關係アル豫算案ハ法律案議決後會議ニ付スルヲ例トス 四六二
- 四五九 豫算ニ關係アル法律案ハ先ニ衆議院ニ提出スルヲ例トス 四六三
- 四六〇 豫算案ハ全部ニ付討議ヲ爲シ逐項議ニ依ラサルヲ例トス 四六四
- 四六一 豫算返付ノ動議提出セラルトキハ本案ト共ニ討議ニ付シ採決ハ之ヲ先ニス 四六四
- 四六二 款項ノ削除ハ款項及金額ヲ抹消ス 四六六
- 四六三 修正中政府ノ同意ヲ求ムヘキ款項アルトキハ全部議了後若ハ其ノ修正議決ノ際ニ於テ之カ同意ヲ求ム 四六七
- 四六四 議院ハ豫算ノ金額ヲ増加スル修正ヲ爲スコトヲ得ス 四六七
- 四六五 既定繼續年限ノ延長若ハ短縮又ハ年割額ノ變更若ハ金額ノ増減ハ更ニ協贊ヲ經ルコトヲ要ス 四六九

- 四六六 豫算案ニ關シ兩院協議會ヲ開ク 四七〇
- 四六七 特別會計豫算案ハ獨立シテ成立ス 四七一
- 四六八 總豫算案不成立ニ拘ラス豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ノミ成立ス 四七二
- 四六九 貴族院ニ於テ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件中一部ヲ可決シテ上奏シ一部ヲ修正若ハ否決シテ本院ニ回付シ又ハ通牒ス 四七二

第二節 決算會議

- 四七〇 決算ハ委員ノ審査ヲ經タル後會議ニ付ス 四七三
- 四七一 決算ハ議了ニ至ラスト雖再ヒ次ノ會期ニ提出セラレス 四七三
- 四七二 前會期ニ提出セラレタル決算審議未了ニ終リタルトキハ次ノ會期ニ於テ審査シ會議ニ付ス 四七四
- 四七三 決算ハ全部ヲ議題ト爲シ委員會ノ報告ヲ是認スルヤ否ヲ決ス 四七六
- 四七四 決算中不法且不當ノ支出ト議決セル事項ニ關シ政府ノ處分ヲ求ムル決議ヲ爲ス 四七八
- 四七五 決算委員會ヨリ報告ニ係ル決算ニ關スル上奏案ヲ議題ト爲サス 四七八

- 四七六 決算委員長報告中ノ附帯決議ハ採決セサルヲ例トス
- 四七七 決算ハ之ヲ議決スルモ貴族院ニ送付セス
- 四七八 決算ヲ再審査ニ付ス
- 四七九 國有財産増減總計算書ハ決算委員ニ付託シテ審査セシメ其ノ報告ヲ是認スルヤ否ヲ決ス

第三節 承諾ヲ求ムル議案ノ會議

- 四八〇 承諾ヲ求ムル議案ハ單ニ承諾スヘキヤ否ヲ決ス
- 四八一 豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル議案)ノ一部承諾ヲ與ヘスト決シタルトキハ其ノ部分ヲ抹消ス
- 四八二 緊急勅令(承諾ヲ求ムル議案)ハ議決ニ至ラサルトキト雖再ヒ次ノ會期ニ提出セラルコトナシ
- 四八三 豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル議案)議決ニ至ラサルトキハ次ノ會期ニ再ヒ提出セラル
- 四八四 承諾ヲ求ムル議案中緊急勅令ハ一院ニ於テ議了セサルトキハ其ノ失効ヲ公布セラル

ラル

- 四八五 豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件ハ責任解除ノ意味ヲ以テ提出セラル
- 四八六 豫備金外豫算超過支出ノ承諾ヲ求ムル件ハ豫備金支出ノ件ト分離シテ前ニ提出セラレタルコトアリ

第五章 上奏、建議及決議

第一節 上奏

- 四八七 上奏又ハ奉答ニ對シ勅語ヲ賜フ
- 四八八 上奏ニ對シ勅問ヲ賜フ
- 四八九 勅語、詔勅、勅問ニ對シ奉答書ヲ捧呈ス
- 四九〇 上奏書、奉答書ハ謁見ヲ賜ヒテ捧呈シ又ハ宮内大臣ヲ經テ捧呈ス
- 四九一 上奏書、奉答書ハ其ノ議事ニ干與シタル議長若ハ副議長ノ名ヲ以テス
- 四九二 上奏ニ對シ國務大臣意見ヲ述フ

第二節 建議

五〇一

- 四九三 建議ニ對シ勅語ヲ賜フ
- 四九四 建議ニ對シ政府覆牒ス
- 四九五 建議案ニ對シ國務大臣又ハ政府委員意見ヲ述フ
- 四九六 建議書ハ即日政府ニ呈出ス

第三節 決議

- 四九七 戦功ノ表彰又ハ感謝、軍隊後援、國交ニ關スル意思表明、祝賀、慰問、弔詞其ノ他諸般ノ事項ニ關シテ決議ヲ爲ス
- 四九八 議決ニ對シ國務大臣意見ヲ述ヘ又ハ謝意ヲ表ス
- 四九九 議案ニ附帶スル決議案ヲ提出セラル
- 前項決議案ハ議事日程ノ變更ヲ要セス
- 五〇〇 決議ハ即日通牒ス

第六章 請願

- 五〇一 法規ニ合ハサル請願ハ之ヲ受クルコトヲ得ス

五〇一
五〇二
五〇三
五〇四
五〇五
五〇六
五〇七

- 五〇二 請願ニ對シ至急審査ノ請求アルトキハ其ノ審査期限ハ一週間以内トスルヲ例トス

五〇七

- 五〇三 特種報告ニ係ル請願ヲ院議ニ付スルノ要求ニハ意見書ヲ附スルヲ例トス

五〇九

- 五〇四 特別報告ニ係ル請願ヲ再審査ニ付ス

五一〇

- 五〇五 請願委員長ヨリ提出セル法律案ハ成規ノ賛成アルモノト看做ス

五一〇

- 五〇六 請願委員長提出法律案ノ會議ニ於テ紹介議員請願ノ理由ヲ述フ

五一一

- 五〇七 請願委員長提出法律案ヲ更ニ特別委員ニ付託シタルコトアリ

五一二

- 五〇八 特別報告ニ係ル請願ハ採擇スルヤ否ノ採決ヲ爲ス

五一三

- 五〇九 特別報告ニ係ル請願ノ意見書案ヲ修正シテ採擇ス

五一三

- 五一〇 特別報告ニ係ル請願ニ對シ政府ノ報告ヲ求ム

五一三

- 五一一 請願ト其ノ目的ヲ同クセル議案提出セラルトキハ請願ノ議事ヲ延期スルヲ例トス

五一六

- 五一二 議決セラレタル議案又ハ請願ト目的ヲ同クスル請願ハ當然議決ヲ要セス其ノ請願ハ議案若ハ請願議決ノ結果ニ依リ當然採擇若ハ不採擇ト看做サル

採擇ト看做サレタル請願ハ政府ニ送付シ且其ノ件名ヲ速記録ニ掲載ス

五一六

- 五二三 特別報告ニ係ル請願ハ件名、呈出者、紹介議員ノ氏名及意見書案ノ全文ヲ速記録ニ掲載シ必要ト認ムルモノノミニ付委員長ハ口頭ヲ以テ更ニ報告ス
- 前項ノ場合ニ於テ委員長ハ前日迄ノ請願審査ノ經過ヲ報告スルコトアリ
- 五一四 特別報告ニ係ル請願ハ一括シテ議題トシ且一括シテ採決スルモ反對アル請願ハ別ニ之ヲ採決ス
- 五一五 特種報告ニ係ル請願ハ不採擇、政府參考若ハ委員會參考送付ノ三種ニ區別シテ報告ス
- 前項ノ場合ニ於テ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ナキトキハ一週間ヲ以テ確定トス

第七章 質問及答辯

- 五一六 質問ハ必ス主意書ヲ以テスルヲ要ス
主意書ハ邦文ヲ以テス
- 五一七 停會中ト雖既ニ提出セラレタル質問主意書ハ之ヲ政府ニ轉送ス
- 五一八 質問主意書ハ其ノ全文ヲ印刷配付シ且速記録ニ掲載ス
- 五一九 質問ノ撤回ハ議院ノ許可ヲ要セス

五二〇 院議ヲ以テ秘密會ノ内容ニ互レル質問主意書ヲ撤回セシム

五二一 議長ニ對スル質問書ハ之ヲ受理セス

五二二 質問ノ趣旨辯明ハ火曜日ニ之ヲ爲ス但シ緊急ヲ要スルトキハ何時ニテモ議院ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

五二三 政府ノ施政方針ニ關シ緊急質問ヲ爲ス

五二四 質問ノ趣旨辯明ハ答辯書ノ到達前ナルヲ要ス

五二五 質問ノ趣旨辯明ノ順序ハ便宜議長之ヲ前後シ若ハ提出者間ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

五二六 質問ノ趣旨ヲ提出者兩名ニテ辯明ス

五二七 質問ノ趣旨辯明ニ際シ院議ヲ以テ國務大臣ノ出席ヲ要求シ又ハ質問者ヨリ其ノ出席ヲ希望ス

五二八 國務大臣ノ出席ナキ爲質問ノ趣旨辯明ヲ延期ス

五二九 質問ノ趣旨辯明ヲ省略スルノ申出アルトキハ其ノ答辯書ヲ俟テ主意書ヲ速記録ニ掲載ス

五三〇 會期終了ニ際シ院議ヲ以テ質問ノ趣旨辯明ヲ許可セス

- 五三一 特別ノ事由アルトキハ質問主意書若ハ質問ノ参考書ヲ速記録ニ掲載セス 五三六
- 五三二 質問ノ趣旨辯明ニ對スル質疑ハ之ヲ許ササルヲ例トス 五三八
- 五三三 質問ニ對シ國務大臣ヨリ答辯スヘキ日時ヲ通知シ若ハ言明ス 五四〇
- 五三四 政府ヨリ答辯書ヲ提出セラレタルトキハ之ヲ報告スルモ朗讀ハ省略スルヲ例トス 五四二
- 五三五 國務大臣若ハ政府委員口頭答辯ヲ爲シ更ニ書面答辯ヲ爲シ又ハ書面ヲ以テ答辯スヘキ旨ヲ言明ス 五四二
- 五三六 質問ニ對スル答辯要領ヲ得サル爲衆議院規則第四百十六條ニ依リ國務大臣ノ出席ヲ求メタルニ書面ヲ以テ答辯ス 五四三
- 五三七 質問ト關係アル議案ノ議事中國務大臣口頭又ハ書面ヲ以テ答辯ス 五四四
- 五三八 質問ノ答辯ニ對シ提出者意見ヲ述フ 五四五
- 五三九 答辯ニ關聯セル質疑ハ提出者以外ノ者ト雖之ヲ爲スコトヲ得 五四六

第八章 秘密會議

五四〇 秘密會議ハ政府ノ要求若ハ議院ノ決議ニ依リ又ハ懲罰事犯ノ會議ノ際之ヲ開ク

秘密會議ヲ開クトキハ直ニ傍聽人ヲ退場セシム 五四九

五四一 秘密會議ニ速記ヲ用キタルトキハ之ヲ密封シテ保存ス 五五一

五四二 院議ヲ經テ委員會ニ於ケル秘密會議ノ會議録ヲ印刷配布ス 五五二

五四三 秘密會議ハ其ノ會議ニ關係アル國務大臣及政府委員出席ス 五五二

五四四 秘密會議ノ結果ハ場合ニ依リ公開議場ニ於テ報告ス 五五三

五四五 秘密會議中懲罰委員ニ付スルノ動議提出セラレタルトキハ議場ヲ公開シタル際之ヲ報告ス 五五四

第九章 秩序、懲罰及傍聽

第一節 秩序

五四六 議場ニ於テハ略服ヲ許サス但シ無地又ハ之ニ準スヘキ折襟背廣服ノ着用ヲ妨ケ

ス 五五五

五四七 議場ニ於テハ新聞紙等ノ配布ヲ許サス 五五五

五四八 議員ハ議長ノ許可ヲ得テ給仕ヲ附シ守衛ニ倚リ又ハ杖ヲ用キ議場ニ入ルコトヲ

得

五四九	疾病又ハ負傷ノ爲縋帶若ハ襟卷ノ儘議場ニ入ルニハ議長ノ許可ヲ要ス	五五七
五五〇	議長ノ許可ヲ得テ議場内ノ衛生試験ヲ爲ス	五五七
五五一	議長議事若ハ議場整理ニ關シ辯明又ハ注意ス	五五七
五五二	議長院内取締又ハ傍聽人ノ件ニ付辯明ス	五五九
五五三	議場騷擾ノ爲休憩ス	五六二
五五四	議院法第八十八條ニ依リ會議ヲ閉ツ	五六二
五五五	議長議員ノ發言ヲ禁止ス	五六三
五五六	議長議員ノ發言禁止ヲ解ク	五六四
五五七	議長議事妨害ト認メ議員ノ演說ヲ停止ス	五六五
五五八	議長議場ノ喧騒ヲ制止スル爲振鈴ス	五六五
	振鈴ハ議長躬ラ之ヲ爲ス	五六六
五五九	議員ノ身上ニ關スル議事中ト雖關係議員ハ退席スルヲ要セス	五六九
五六〇	議員自己ノ行動ニ付陳謝ス	五七〇
五六一	院議ヲ以テ引用文書ノ發表ヲ命ス	五七一
五六二	院議ヲ以テ議員ニ處決ヲ促ス	五七二

五六三	議長ノ制止ニ從ハス議場ノ妨害ヲ爲ス者ハ退場ヲ命セラレ	五七三
五六四	退場ヲ命セラレタル議員其ノ事件終了シタルトキ再ヒ入場ヲ許サル	五七四
五六五	議長退場ノ命ヲ取消シ特ニ注意ヲ爲ス	五七五
五六六	議長ハ退場ヲ命セラレタル議員ニ對シ退席中ノ經過ヲ報告セス	五七五
五六七	退場ノ命令ニ從ハサルトキハ守衛之ヲ執行ス	五七六
五六八	議院ノ規律節制ニ關シ議決ス	五七七
五六九	議場内ニ交渉係ヲ設ク	五七八

第二節 懲罰

五七〇	議長職權ヲ以テ懲罰委員ニ付ス	五七九
五七一	院議ヲ以テ懲罰委員ニ付ス	五八〇
五七二	懲罰委員ニ付スルノ動議提出セララルトキハ發言中又ハ表決中ト雖討論ヲ用キ スシテ直ニ之ヲ採決ス	五八三
五七三	議長懲罰委員ニ付スルノ動議ヲ保留ス	五八四
五七四	懲罰委員ニ付スルノ動議ニ對シテハ其ノ議員ノ辯明ヲ許ス	五八六

五七五	懲罰委員ニ付スルノ動議ヲ採決スル場合ニハ其ノ議員ハ退席スルヲ要セス	五八七
五七六	守衛ノ公務執行ヲ妨クル者アルトキハ議長之ヲ懲罰委員ニ付ス	五八七
五七七	議長懲罰事犯アリト認め會議ヲ中止ス	五八八
五七八	委員會ニ於テ起リタル懲罰事犯ハ委員長ノ報告ヲ俟テ議長ハ直ニ懲罰委員ニ付	五八八
五七九	懲罰委員ノ審査ニ對シ期限ヲ附ス	五八九
五八〇	懲罰事犯ノ件ヲ再審査ニ付ス	五九〇
五八一	懲罰ハ其ノ議決ノ宣告ニ依リテ執行セラル	五九〇
五八二	議員譴責セラル	五九一
五八三	議員ヲシテ謝辭ヲ述ヘシム	五九二
五八四	議員出席ヲ停止セラル	五九三
五八五	出席停止ハ議決宣告ノ日ヨリ起算シ休日ヲモ包含ス	五九三
五八六	併發セル二箇ノ懲罰事犯ニ對シ各出席停止ヲ命セラル	五九四
五八七	出席停止ヲ命セラレタルモノ委員ナルトキハ解任セラル	五九四
五八八	議員除名セラル	五九五

第三節 傍聽

五八九	開院式勅語奉答案ノ會議ヨリ傍聽ヲ許ス	五九五
五九〇	全院委員會ハ傍聽ヲ許ス	五九五
五九一	傍聽席ニ在リテハ帶劍スルコトヲ得ス	五九六
五九二	公衆傍聽券ハ召集當日各議員ニ交付ス	五九六
五九三	議長必要ト認めタルトキハ傍聽人ノ身體搜查ヲ爲サシメ又ハ員數ヲ制限スル	五九七
コトヲ得		五九七

第十章 議事録及速記録

五九四	議事録ハ會議ニ關スル事項ヲ記載ス	五九九
五九五	速記録ニハ議場ニ於ケル發言其ノ他議事日程、報告事項、議案等ヲ記載ス	五九九
五九六	速記録ニハ新聞紙ニ掲載ヲ禁セラレタル事當ニ關スル發言ヲ記載セス	六〇〇
五九七	取消シタル言辭ハ速記録ヨリ抹消ス	六〇一
五九八	速記録ニハ質問主意書、答辯書ヲモ掲載ス	六〇一

議長ヨリ掲載ノ許可ヲ得タル参考書、辯明書、始末書、往復書類等亦同シ
五九九 議事録及速記録ハ召 日ヨリ之ヲ調製ス
六〇〇 議事録、速記録ニハ投票者ノ氏名ヲ掲載ス

第三編 政府及貴族院トノ關係

第一章 政府トノ關係

第一節 國務大臣及政府委員

- 六〇一 憲法第六十七條ノ費目ノ修正議決ニ對スル政府ノ同意、不同意ヲ表明ハ口頭又ハ書面ヲ以テス
- 六〇二 議院ノ出席要求若ハ希望ニ對シ國務大臣ヨリ覆牒又ハ回答ヲ受ク
- 六〇三 院議ヲ以テ參考文書ノ提出ヲ政府ニ要求ス
- 六〇四 政府ハ政府委員ヲ任免スル毎ニ議院ニ通牒ス
- 六〇五 政府ハ概ネ議事日程變更ノ要求ニ同意ス
- 六〇六 軍隊ニ對スル功勞感謝ノ決議、通牒又ハ慰問ニ對シ國務大臣ヨリ回答並通牒ヲ

受ク

第二節 國務大臣及政府委員ノ發言

- 六〇七 内閣總理大臣、大藏大臣、外務大臣ハ每會期ノ始ニ於テ施政ノ方針、財政計畫、外交ニ關スル演說ヲ爲スヲ例トス
- 六〇八 國務大臣議院ニ出席シテ特殊ノ事件ニ關シ報告又ハ演說ス
- 六〇九 委員付託、討論終局ノ動議成立若ハ可決ノ後又ハ表決ニ際シ國務大臣又ハ政府委員發言ス
- 六一〇 院議若ハ議員ノ希望ニ依リ國務大臣又ハ政府委員ノ出席要求中其ノ議事ヲ續行シ若ハ一時延期ス
- 六一一 議員提出議案ノ趣旨辯明ニ先チ政府委員發言ス
- 六一二 上奏案、建議案、決議案ニ對シ國務大臣及政府委員發言ス
- 六一三 國務大臣政府委員用語ヲ釋明シ若ハ訂正シ又ハ不穩當ト認メタル言語ヲ取消ス
- 六一四 政府委員ノ發言ニ關シ議長注意ヲ爲ス
- 六一五 國務大臣又ハ政府委員自席ヨリ發言ヲ爲ス

摘要

六一六 國務大臣又ハ政府委員其ノ資格ニ付辯明ス

六十四

六一六

第二章 貴族院トノ關係

六一一

六一七 回付案ニ對スル同意不同意

六一一

六一八 兩院協議會ニ於ケル議案ノ成績

六三三

六一九 兩院協議委員ハ議場ニ於テ選舉ス其ノ補闕選舉ハ議長指名ニ依ル

六三四

六二〇 兩院協議委員ノ選舉ニ於ケル投票中同一連記ノモノハ合算シテ讀ミ上ク

六三六

六二一 兩院協議委員ノ選舉ニ於テ氏名ヲ印刷セル投票ハ之ヲ有效ト認ム

六三七

六二二 兩院協議會ノ成案成立セサリシトキ本院議決案ヲ成案トシテ貴族院ニ送付ス

六三七

六二三 回付案ニ對スル質疑討論ハ其ノ修正ノ範圍ニ限ル

六三九

六二四 豫算協贊權ニ關スル貴衆兩院ノ爭議及勅裁

六四〇

六二五 年末年始ノ休會期間ハ兩院同一ナルヲ例トス

六四三

六二六 本院議員ノ演說ニ對スル貴族院ノ決議及本院議長ノ宣告

六四四

第四編 議院ノ法規及典禮

六四五

第一章 議院法規ノ議定改正

六四五

六二七 議院法ノ一部ヲ改正ス

六四五

六二八 衆議院規則ノ議定並改正

六四六

六二九 兩院協議會規程ヲ設ク

六四七

第二章 議院ノ典禮

六四九

第一節 天機伺

六四九

六三〇 院議ニ依リ議長 天機並御機嫌ヲ奉伺ス

六四九

六三一 議長副議長及議員 天機並御機嫌ヲ奉伺ス

六五二

第二節 皇室ニ對スル慶賀及敬禮

六五四

六三二 即位ノ大禮ニ付賀表捧呈並決議

六五四

六三三 皇太子殿下御結婚御成約並御結婚ニ付奉賀

六五五

六三四 天皇皇后兩陛下御結婚滿二十五年ニ付賀表捧呈並參賀

六五七

摘要

六十五

- 六三五 立太子式ニ付賀表ヲ捧呈ス 六五八
- 六三六 皇太子殿下御成年式ニ 兩陛下竝皇太子殿下ニ賀表及賀牋ヲ捧呈ス 六五九
- 六三七 皇子、皇孫御降誕ニ付參賀竝賀表賀牋ヲ捧呈ス 六五九
- 六三八 皇太子殿下海外御巡遊ニ付參殿及奉送迎 六六〇
- 六三九 詔勅、勅諭、勅語、勅問ニ對スル敬禮 六六一
- 六四〇 奉答文ノ議決ノ際ニ於ケル敬禮 六六二
- 六四一 皇太子殿下議院ニ台臨ニ付敬禮 六六二
- 六四二 秩父宮殿下議院ニ台臨ニ付敬禮 六六二
- 六四三 踐祚後朝見ノ儀ニ議長及議員總代參列被仰付 六六三
- 六四四 即位ノ大禮ニ付議長副議長及議員參列被仰付 六六三

第三節 大喪儀及御弔詞

- 六四五 英照皇太后崩御ニ付御弔詞 六六四
- 六四六 明治天皇崩御ニ付御弔詞 六六五
- 六四七 大正天皇崩御ニ付御弔詞竝奉悼上奏書捧呈 六六六

- 六四八 昭憲皇太后崩御ニ付御弔詞 六六八
- 六四九 大喪儀ニ議長、副議長及議員參列被仰付 六六八
- 六五〇 天皇崩御ニ際シ列國議會ノ弔意竝之ニ對スル本院ノ表謝 六七〇

第四節 慰問

- 六五一 議院慰問ヲ爲ス 六七一
- 六五二 議院軍隊ニ慰問品ヲ贈リ又ハ慰問使ヲ派遣ス 六七五
- 六五三 聯合與國ニ對シ慰問ヲ爲ス 六七六

第五節 弔詞

- 六五四 議院弔意ヲ表ス 六七七
- 六五五 議院弔詞ヲ贈ル 六七八
- 六五六 議長若ハ議員一同ヨリ生花ヲ贈ル 六九〇

第三章 恩賞、待遇

六九一

第一節 敍位敍勳其ノ他ノ恩賞

- 六五七 議長及副議長ニ對スル敍勳
- 六五八 議長ニ對シ特旨ニ依ル敍位敍勳並勅使
- 六五九 議員ニ對スル恩賞、敍勳
- 六六〇 議員ニ對シ大禮記念章ヲ授與セラル
- 六六一 第一回議會以來勤績議員ニ對スル敍勳
- 六六二 多年在職セル議員ニ對スル敍勳
- 六六三 議長、副議長及議員ニ對スル定例敍勳

第二節 宮中ニ於ケル席次、待遇及賜宴

- 六六四 議長、副議長及議員ノ宮中席次
- 六六五 宮中ニ於ケル議長、副議長及議員ノ待遇
- 六六六 議員觀櫻觀菊ノ御宴ニ召サル
- 六六七 宮中其ノ他ノ儀式ニ議長、副議長、議員若ハ總代參列

六九一
六九一
六九二
六九二
六九四
六九五
六九五
六九六
六九六
六九七
六九八
六九九

- 六六八 立太子禮及皇太子殿下ノ御成年式ニ於ケル賜饌
- 六六九 任期滿了後又ハ戰時議會閉會ノ際兩院議員及高等官一同へ賜宴
- 六七〇 第五十回議會ノ閉會ノ際兩院議員及高等官一同へ賜宴

第四章 雜

第一節 徽章

- 六七一 議員ハ開會中一定ノ徽章ヲ附ス
- 六七二 議員徽章ハ宮城出入ノ御門鑑ニ代用セラル
- 六七三 會期中ハ徽章ヲ附スルニ非サレハ議院ニ出入スルコトヲ得ス

第二節 議員控室

- 六七四 各議員ノ控室ハ黨派別ニ依リ之ヲ定ム
- 六七五 各控室ニ文書函ヲ備附ク

第三節 衆議院公報、參考圖書

七〇五

七〇三
七〇三
七〇三
七〇三
七〇四
七〇四
七〇四
七〇四
七〇五
七〇五
七〇五
七〇五

六七六 衆議院公報ハ公示、議事日程、委員會開會、議事經過其ノ他諸般ノ事項ヲ掲載ス 七〇五
 六七七 衆議院公報ハ必要ノ場合ニハ閉會中ト雖發刊ス 七〇六
 六七八 參考圖書ヲ發刊シ議員ニ配付ス 七〇七

第四節 各派協議會

六七九 各派協議會ヲ開ク 七〇八
 六八〇 所屬議員二十五名未滿ノ黨派ハ交渉團體ト認メス 七〇八

第五節 列國議會同盟及萬國議院商事會議

六八一 議員有志團體ヲ組織シ列國議會同盟ニ加盟ス 七〇九
 六八二 議員有志團體ヲ組織シ萬國議院商事會議ニ加盟ス 七一〇
 六八三 政府ニ於テ豫算内示會ヲ開催ス 七一一

第六節 雜件

六八四 定例茶話會ヲ開催ス 七一二

六八五 土耳其帝國議會ノ開設ニ對シ祝電ヲ發ス 七一三
 六八六 聯合軍ノ戰捷ニ對シ各國ヨリノ祝電及之ニ對スル答電 七一四
 六八七 講和成立ニ際シ西班牙國上下兩院ヨリノ祝電及之ニ對スル答電 七一四
 六八八 國交ニ關シ本院ノ意思ヲ表明ス 七一四
 六八九 明治節制定ニ關スル建議ヲ爲ス 七一五
 六九〇 大喪費協贊ノ議會ニ於ケル議員ハ喪裝シ文書ハ黒罫紙黒印ヲ用ウ 七一六
 六九一 議員ヲ海外ニ派遣ス 七一七
 六九二 兩院議員合會シテ憲法發布二十年記念祝賀會ヲ催ス 七一九
 六九三 兩院議員合會シテ憲法發布三十年記念祝賀會ヲ催ス 七二一
 六九四 兩院議員合會シテ尼港殉難者追悼會ヲ催ス 七二四
 六九五 兩院議員ヨリ明治神宮聖德記念繪畫館壁畫ヲ奉納ス 七二四
 六九六 英國皇太子殿下ノ御來朝ヲ歡迎ス 七二五
 六九七 米國議員團ノ來朝ヲ歡迎ス 七二五
 六九八 議院ニ對スル犯罪 七二六

衆議院先例彙纂

第一編 總則

第一章 議會ノ會期

一 議會ノ會期毎ニ順次號數ヲ附シ第何回議會ト稱ス

第一、第二議會ニ於テハ會期ノ名稱ヲ第一期、第二期ト稱シ第二議會開院式ノ詔書ニハ「帝國議會第二期開會ノ式ヲ舉ク」トアリシモ明治二十五年三月二十八日貴衆兩院書記官長ハ議會會期ノ計算方及其ノ稱呼ニ付歐洲諸國ニ於テハ衆議院議員ノ一任期ヲ以テ一立法期ト爲シ一立法期中ニ於テ通常會、臨時會等ノ小別ヲ爲スヲ以テ通例ト爲スモ帝國憲法ニ於テハ立法期ナルモノヲ認メス從テ歐米ノ例ニ據リ難キヲ以テ通常會ト臨時會ト憲法第四十五條ニ依レル議會トヲ問ハス議會ノ回數ヲ追フテ第何回議會ト稱セムコトヲ上申シタルニ同年四月二十六日ヲ以テ上申ノ如ク閣議決定シ以來第何回議會ト稱スルコトトナレリ

憲法第四十五條ニ依リ解散後五箇月以内ニ召集セラルヘキ議會ノ性質ハ通常會ナルヤ臨時會ナルヤ將タ特別ノ會ナルヤハ第二回議會解散後ノ一問題タリシモ議院ニ於テハ單ニ之ヲ憲法第四十五條ニ依レル議會ト唱ヘ事務局ニ於テハ事務取扱上特別議會ト稱シ通常會臨時會ト區別セリ

二 解散後ノ議會ノ會期日數ハ詔書ヲ以テ定メラル

憲法第四十五條ニ依リ解散後五箇月以内ニ召集セラレタル第三回議會ノ會期ニ關スル詔書ハ左ノ如シ

朕本年五月二日ヲ以テ召集スル帝國議會ハ四十日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

此ノ會期ニ付山田東次君ハ第二回議會開院式ノ翌日ヲ以テ左ノ質問書ヲ政府ニ提出シタリ

政府ハ憲法中何等ノ條文ニ據リ勅令ヲ以テ本議會ノ會期ヲ四十日ト定メタルカ

此ノ質問ニ對シ政府ハ左ノ答辯ヲ爲シタリ

憲法第四十五條ノ場合ニ於ケル帝國議會ノ會期ニ就キ憲法上特別ノ規程ヲ存セサルニ依リ憲法第七條ニ於ケル一般ノ規程ニ依リ勅令ヲ以テ之ヲ定メラレタリ

爾後解散後ニ召集セラレタル第六回、第十二回、第十八回、第三十六回、第三十九回及第四十九回議

會ノ會期ハ前例ニ依リ詔書ヲ以テ孰レモ二十一日ト定メラレ第四十三回議會ハ二十八日第五十五回議會ハ十四日ト定メラル但シ第七回、第二十回議會ハ解散後ノ議會ナリシモ臨時會ヲ召集シテ特別議會ヲ召集セス、第十三回議會ハ通常會ト併セテ召集セラレタリ

參看 三號乃至六號

三 會期ハ開院式ノ日ヨリ起算ス

會期ハ召集ノ日ヨリ起算セス開院式ノ日ヨリ起算ス是レ帝國議會開會ノ日ハ即チ開院式ヲ行フ日ナルコト議院法第五條ニ依リ明ナレハナリ

憲法第四十二條ニ「帝國議會ハ二箇月ヲ以テ會期トス」ト規定セラル而シテ三箇月トハ一箇月ヲ三十日トシテ計算シ九十日間ヲ以テ會期トス

參看 二號、四號

四 會期中ニハ休會及停會ノ日數ヲ算入ス

第一回議會ハ明治二十三年十一月二十九日ニ始マリ明治二十四年二月二十六日ヲ以テ會期ヲ終リ
タリ此ノ間數日間引續キ休會シタルコト二回アリ一ハ年末年始ニ際シタルカ爲ニシテ一ハ議事堂
焼失ノ爲ナリ而シテ休會ノ日數ハ當然會期ノ日數中ニ計算セラレタリ第二回議會以下之ニ同シ
停會ノ日數亦會期中ニ計算ス即チ第二回、第四回、第九回、第十五回、第十八回、第二十回、第三十一
回、第五十一回及第五十二回議會ノ例是ナリ

參看 二號、三號

第二章 召集及成立

第一節 召集

五 解散後臨時會ヲ召集セラルルトキハ憲法第四十五條ニ依レル議會ヲ召集
セラレス

通常會ハ憲法第七條及第四十一條ニ依リ、臨時會ハ憲法第七條及第四十三條ニ依リ召集セラレ解
散後ノ議會ハ憲法第七條及第四十五條ニ依リ召集セラル然レトモ解散後臨時會ヲ召集セラルルト
キハ憲法第四十五條ニ依レル議會ヲ召集セラルルトナシ即チ第七回及第二十回議會ノ例是ナリ

參看 二號

六 憲法第四十五條ニ依レル議會ノ召集通常會ト同時期ナルトキハ併セテ之
ヲ召集セラル

解散後ノ議會ノ召集通常會ト同時期ナリシ爲併セテ召集セラル即チ第十三回議會ニ於テハ帝國憲

憲第七條
憲第四三條
憲第四五條

憲第七條
憲第四一
憲第四五條

法第七條第四十一條及第四十五條ニ依リ召集スル旨ノ詔書ヲ發セラレタリ

參看 二號

六

議第一條

七 憲法第四十五條ニ依レル議會ノ召集ノ詔書ハ四十日以前ニ公布セラル

通常會召集ノ詔書ハ少クとも四十日以前ニ公布セサルヘカラサルモ憲法第四十五條ニ依レル議會ニハ何等ノ規定ナク從來ノ慣例ニ依レハ通常會ト同シク四十日以前ニ公布セラル即チ憲法第四十五條ノ議會ノ開カレタルコト十回ニシテ召集ノ詔書ハ四十日乃至五十日ノ期間ヲ置キタリ

八 臨時會召集ノ詔書ハ四十日以前ニ公布セラルルコトヲ要セス

議院法第一條ニ「帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クとも四十日前ニ之ヲ發布スヘシ」トアルモ臨時會召集ノ詔書ハ第三十三回議會ニ四十二日ノ期間ヲ置キタルモ其ノ他ハ一日乃至二十八日ノ期間ヲ存シタリ

參看 附錄一四ノ(一)

九 臨時會召集ノ詔書ニ次テ通常會召集ノ詔書ヲ公布セラル

第四十七回(臨時)議會召集ノ詔書ハ大正十二年十一月十二日ヲ以テ公布セラレ未タ議會ノ召集ニ至ラサルニ超エテ同月十四日通常會タル第四十八回議會召集ノ詔書ヲ公布セラル

第二節 議席及部屬

一〇 議席ハ議員ノ黨派別ニ依リテ議長之ヲ指定ス

召集日假席次亦之ニ準ス

第二十一回議會ニ於テ衆議院規則第十五條ヲ改正シ議席ノ指定ヲ議長ノ職權ニ屬セシメタルヲ以テ明治三十七年十二月二日議長(松田正久君)ハ抽籤ニ依リ定マレル議席ヲ各議員ノ黨派別ニ依リ之ヲ更正シ黨派ニ屬セサル議員ノ議席ハ議長席ニ對シ右方前列ニ府縣順ト爲シタリ爾來此ノ例ニ依リ指定セラル

召集日ノ假席次ハ總選舉後ノ議會ト否トヲ問ハス黨派別ニ依リ之ヲ定ム

【備考】

第一編 總則 第二章 召集及成立 第二節 議席及部屬 (七一〇)

七

衆第一五條

第一回議會ニ於テハ事務局ヨリ各議員ニ配付セル府縣順席次表ニ依リ著席セシメ議長ノ任命アリタル後抽籤ヲ以テ議席ヲ定メ爾來之ヲ例トシ第二十一回議會ヨリ議席ハ議長ノ指定スル所トナリタルモ尙前例ヲ踏襲シタルニ第二十六回議會ヨリ、黨派別ニ依リ之ヲ指定シ總選舉後第一次ノ議會ニ限り議長ナキヲ以テ府縣順ニ依リタルモ第三十六回議會ヨリ等シク黨派別ニ依ルコトナレリ

參看 一二號、附錄一三ノ二

衆第一五條

一一 議席ノ指定及變更ハ衆議院公報ヲ以テ公示ス
第二十一回議會ニ於テ議長(松田正久君)ハ衆議院規則改正ニ基キ議席ヲ指定シ同會期中兩度(明治三十八年一月二十一日、二月九日)議席ヲ變更シ其ノ都度衆議院公報ヲ以テ之ヲ公示シ爾來此ノ例ニ依ル

衆第一八條

一二 臨時會又ハ停會中ニ於テモ議席ノ一部ヲ變更ス
臨時會ニ於テハ衆議院規則第十八條ニ依リ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘキモノナルモ議長必要ト認ムルトキハ同第十五條第一項ニ依リ之ヲ變更ス即チ第三十二回(臨時)議會召集當日(大正三年

五月四日)ニ於テ議長(奥繁三郎君)ハ「今回ハ衆議院規則第十八條ニ依リマシテ諸君ノ議席及部屬ハ第三十一回議會ノ通リヲ繼續スルコトデアリマス、但シ必要アル部分ニ限り議席ノ一二ヲ變更致シマシテゴザイマス」ト告ケ爾來之ヲ例トス而シテ第五十三回(臨時)議會ニ於テハ召集當日(昭和二年五月三日)多數ノ議席ヲ變更シタリ之レ新ニ黨派ノ組織セラレタル爲黨派ニ異動ヲ生シタルニ依ル

又停會中ト雖議長必要ト認ムルトキハ議院ノ事務ニ屬スル事項トシテ議席ヲ變更ス即チ第三十回議會ニ於テ停會期滿了ノ日(大正二年二月四日、九日)ヲ以テ議席ノ一部ヲ變更シタリ

衆第一五條

一三 議席ノ番號ハ各議席ノ後方ニ表示ス

從來議席ノ番號ハ立方形黑標ノ四方ニ白字ヲ以テ顯ハシ各議席ノ右端ニ備付ケ議員著席スルトキハ之ヲ起シ退席スルトキニハ之ヲ伏セシメ其ノ出席ノ有無ヲ判ツコトトシタルモ第二十二回議會(明治二十九年一月二十一日)ヨリ便宜ノ爲其ノ四方ニ當該議員ノ氏名ヲ書シ番號ハ其ノ上部ニ表記シ第二十三回議會ノ始ヨリ各議席ノ前面ニ番號ヲ表記シタルモ第三十七回議會ヨリ之ヲ議席ノ後方ニ表示セリ

一四 議席ノ番號ハ一區ヲ終リテ他區ニ移ル

議席番號ハ第一回議會ニ於テハ議長席ニ對シ最前第一列右端ヨリ始メ第一列ヲ終リテ第二列ニ移リ同シク右端ヨリ始メタリシモ第二回議會ニ至リ議場ヲ六區ニ別チ議長席ニ對シ右端ノ第一區ノ第一列右端ヲ一番ト爲シ順次計算シテ第一區全部ヲ終リテ第二區第三區ニ移リ第六區中最後列左端ヲ以テ終ル爾後此ノ例ニ依レリ

一五 議席ニハ氏名標ヲ附シ其ノ變更毎ニ之ヲ轉移ス

第二十二回議會ノ始ヨリ議席ノ番號標ヲ各議員ノ氏名標ニ改メ議席ノ變更アリタルトキハ其ノ都度直ニ之ヲ轉移ス

然レトモ氏名標ノ轉移ニ時間ヲ要スル爲一時之ヲ据置キタルコトアリ即チ第二十三回議會(明治三十九年十二月二十五日)召集日ノ假席次(府縣順)ヲ議長指定ノ議席ニ改ムルノ際議長(杉田定一君)ハ「尙又後刻御集ヲ請ヒマスガソレマデニ唯今ノ決シマシタ通りニ議席ノ木標ヲ書改ムルコトガ出來マセヌカラ今日ニ限ツテ唯今マデノ所ニ御著席ヲ願ヒマス」ト告ケ部長理事互選ノ結果報

告ノ場合ニハ府縣順席次ノ儘著席セシメ散會後ニ於テ轉移シタリ

參看 一〇號

一六 部屬ノ抽籤ハ議場ニ於テ書記官之ヲ行フ
議院ハ部屬ノ抽籤ヲ議長ニ委任スルコトヲ得

第五十二回議會(大正十五年十二月二十四日)ニ於テ議長(粕谷義三君)ハ「是ヨリ衆議院規則第十六條ニ依リ抽籤ヲ以テ部屬ヲ定メマス今回抽籤ノ方法ヲ少シク變ヘルコトニ致シマシタ從來各部ニ屬スル議員ノ氏名ヲ抽籤致シマシタガ今回ハ氏名ヲ點呼致シ其所屬部ヲ抽籤スルコトニ致シマス」ト告ケ書記官ヲシテ抽籤ヲ行ハシム第五十三回議會ハ臨時會ナリシヲ以テ前會ノ部屬ヲ繼續シ第五十四回議會ハ第五十二回議會ノ例ニ依レリ

部屬ノ抽籤ハ甲書記官ノ議員ノ氏名點呼ニ應シテ乙書記官豫メ部名ヲ記シタル籤ヲ順次抽籤スルモノトス

臨時會ニ於テ部屬ノ抽籤ヲ議長ニ委任シタルコトアリ

第二十九回(臨時)議會(大正元年八月二十二日)ニ於テハ部屬ノ抽籤ヲ議長ニ委任シタリ即チ議長

(大岡育造君)ハ「是ヨリ衆議院規則第十六條ニ依リマシテ抽籤ヲ以テ部屬ヲ定メル譯デアリマス
抽籤ハ議長ニ御一任ニナルニ御異議アリマセヌカ……御異議ガナケレバ御一任ニ決シマス此部屬
ハ定マリ次第各部室ニ配付致シマス」ト告ケタリ

【備考】

從來議席部屬ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムル規定ナリシモ議席ノミヲ抽籤シ部屬ハ其ノ定マリタル議席番號ニ配分シテ之ヲ定メ
別ニ抽籤ヲ爲ササリシモ第二十一回議會明治三十七年十二月一日衆議院規則第十五條及第十六條改正セラレタル爲第二十
二回議會以後部屬ノミ抽籤ヲ行フコトナリ其ノ方法ハ書記官氏名ヲ點呼シ他ノ書記官其ノ所屬部ヲ抽籤スルモノナリシ
カ第四十三回議會(大正九年六月三十日)議院成立ニ關スル集會ニ於テ議長(奥繁三郎君)ハ「一部屬ノ抽籤ハ從來ノ方法デ
ハ隨分長キ時間ヲ要シマス殊ニ議員數ガ増加シテ居リマスカラ幾ラカ其方法ヲ省略致ス考デゴサイマス即チ第一部ヨリ第
三部マデ各五十二名第四部ヨリ第九部マデ各五十一名デアリマスカラ先ツ第一部ノ五十二名ヲ一括シテ抽籤シ其氏名ヲ讀
上ゲマス斯ノ如クシテ順次第九部マデ行ツテ止マル考デゴザイマス」ト告ケ書記官ヲシテ抽籤ヲ行ハシム爾來第五十一回
議會ニ至ル迄此ノ方法ヲ以テ爲シタルモ第五十二回議會ヨリ第二十二回乃至第四十二回議會ニ於ケル部屬抽籤ノ方法ニ復
シタリ

一七 部長及理事互選ノ結果ハ當日之ヲ議場ニ報告シ未定ノモノアルトキハ
其ノ決定ヲ俟テ公報ニ依リ通報ス

部長及理事互選ノ結果ハ當日議場ニ之ヲ報告スルヲ例トシ其ノ報告ニ至ラサル部ニ付テハ衆議院
公報ヲ以テ之ヲ報告ス即チ第二十八回議會(明治四十四年十二月二十五日)議長(大岡育造君)ハ部
長理事互選ノ結果ヲ報告シ「尙一部ト七部ハマダ報告ニ接シマセヌカラ追テ公報デ御通知申上ゲ
マス是デ本院ハ成立致シマシタカラ……」ト告ケ同日ノ公報ヲ以テ之ヲ通報セリ

一八 臨時會ニ於テ部長及理事ノ互選手續ヲ省略シ前議會ノ通繼續シタルコ
トアリ

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スルモノナルヲ以テ第三十二回、第三十三回、第三十四回、第四十
七回及第五十三回議會ノ臨時會ハ孰レモ部屬ヲ繼續シタルノ外尙部長理事ノ互選モ其ノ手續ヲ省
略シテ前議會ノ通繼續シタリ但シ第三十三回、第四十七回、第五十三回議會ニ於テハ部長理事ノ闕
員ヲ補充シ第三十二回議會ハ之カ補充ヲ爲ササリキ而シテ第七回、第二十回、第二十九回議會ノ臨
時會ハ孰レモ總選舉後ノ議會ニシテ繼續スヘキ部屬ナキヲ以テ部屬ヲ定メ部長理事ヲ互選シタリ

一九 補闕議員ハ其ノ前任議員所屬ノ部ニ入ル

會期中若ハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘキ臨時議會ノ召集日前迄補闕選舉ニ當選シタル議員ハ前議員ノ部ニ屬スルコト第一回議會以來ノ慣例ナリ

二〇 一選舉區内ニ同時ニ數名ノ補闕議員アリタル場合ハ議長先ツ其ノ議席ヲ指定シ部屬ハ議席ノ屬スル部トス

會期ノ始ニ於テ議長議席ヲ指定スルニ當リ闕員アルトキハ單ニ何縣何區選出議員トシテ之ヲ指定シ部屬ハ之ニ因リテ抽籤スルヲ例トス從テ一選舉區内ニ同時ニ數名ノ補闕議員アリタル場合ハ其ノ何人カ孰レノ部ニ屬スヘキヤ不明ナルヲ以テ議長先ツ各自ノ議席ヲ指定シ然ル後議席ニ因リテ定メラレタル部ニ屬スルコトトセリ

第三十八回議會 大正六年一月十六日石川縣郡部選出議員戸水寛人君外五名ニ對シテハ先ツ議

席ヲ指定シ其ノ議席ノ屬スル部ニ充當セリ

二一 議長又ハ副議長其ノ職ヲ辭スルトキハ後任者所屬ノ部ニ入ル

第二十二回議會 明治三十九年一月十九日議長松田正久君ハ依願議長ヲ免セラレ同君ノ部屬ハ

後任議長ノ部即チ第九部ニ入レリ

第三十一回議會 大正三年三月六日議長大岡育造君ハ依願議長ヲ免セラレ同君ノ部屬ハ後任議

長ノ部即チ第二部ニ入レリ

第三十七回議會 大正四年十二月二十六日副議長花井卓藏君ハ依願副議長ヲ免セラレ同君ノ部

屬ハ後任副議長ノ部即チ第一部ニ入レリ

第四十六回議會 大正十二年二月十六日議長奥繁三郎君ハ依願議長ヲ免セラレ副議長粕谷義三

君議長ニ任セラレタルヲ以テ奥君ノ部屬ハ後任副議長ノ部即チ第九部ニ入レリ

第五十二回議會 昭和二年三月二十五日議長粕谷義三君及副議長小泉又次郎君ハ依願議長副議

長ヲ免セラレ翌二十六日議長ニ森田茂君副議長ニ松浦五兵衛君任命アリタルモ閉院式當日ナ

リシヲ以テ前議長副議長ノ部屬ハ其儘トナリシカ第五十三回議會ハ臨時會ニシテ前會ノ部屬

十六
ヲ繼續シタルニ依リ粕谷小泉兩君ハ夫々後任議長副議長ノ部即チ第六部、第九部ニ入レリ

二三 部室ハ委員室ヲ以テ之ニ充ツ

從來部室ハ其ノ部所屬議員ノ控室タリシモ第十五回議會ヨリ黨派別ニ議員ノ控室ヲ設ケタルヲ以テ部室ハ單ニ常任委員又ハ特別委員ノ各部選舉ヲ行フ場合ノ外使用セサルニ依リ委員室ヲ以テ之ニ充當セリ

第三節 議院成立

二三 議院ハ議長副議長勅任後議席及部屬ノ決定ヲ俟テ成立ス

總選舉後ノ第一會期ニ於テハ召集當日先ツ議長副議長ノ候補者ヲ選舉奏上シ其ノ任命ノ翌日議員ノ議席及部屬ヲ定メ始メテ議院成立スルモ第二會期以後ニ於テハ召集當日直ニ成立ノ手續ヲ爲ス

二四 召集當日議長若ハ副議長闕位ノ場合ハ其ノ補闕勅任アリタル後議院成立ノ手續ヲ爲ス

議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集當日直ニ議席及部屬ヲ定メ議院成立ノ手續ヲ爲スヘキモノナルモ議長若ハ副議長闕位ノ場合ハ先ツ之カ候補者ノ補闕選舉ヲ行ヒ其ノ勅任アリタル後議院成立ノ手續ヲ爲ス即チ第五回、第十回、第十九回及第二十八回議會ノ事例是ナリ

參看 五九號、六〇號

二五 議院成立ノ通知ハ即日之ヲ爲ス

議員ノ議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ旨ヲ各議員ニ告ケ尙衆議院規則第二十三條及第二十四條ニ依リ議院成立シタルコトヲ即日政府及貴族院ニ通知ス

二六 議院成立ニ關スル集會ハ場合ニ依リ遲刻セラル

衆議院規則第十四條ニ依レハ「議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ」トアルモ

場合ニ依リ其ノ定刻ヲ遅延シタルコトアリ即チ第三十六回議會ニ於テ議長副議長任命ノ翌日(大正四年五月十八日)議長(島田三郎君)ハ稔彦王殿下聰子内親王殿下御結婚ニ付午前八時三十分賢所參集ノ爲定刻ニ開會スルコトヲ得ス各派ノ諒解ヲ得テ之ヲ遅延スルコトトシ午前十時七分ニ至リ開會シタリ

第三章 開會、閉會、會期延長、停會及解散

第一節 開院式

二七 開院式ハ 陛下臨御親シク之ヲ行ハセラル

開院式ハ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ 陛下臨御親シク之ヲ行ハセラル而シテ大正十年ヨリ同十五年ニ至ル迄攝政ヲ置カレタル間ノ議會即チ第四十五回議會乃至第五十一回議會ハ 攝政殿下台臨開院式ヲ行ハセラレタリ

參看 四〇號 附錄一三ノ(一)

二八 開院式ニ勅語ヲ賜フ

開院式ニハ貴族院及衆議院ノ各員ニ勅語ヲ賜ヒ勅語書ハ貴族院議長之ヲ拜受ス

議第五條
議第六條

二九 開院式ニ臨御ナキトキハ内閣總理大臣勅旨ヲ奉シテ勅語ヲ捧讀ス

内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ國務大臣代リテ捧讀ス

第八回議會(明治二十七年十二月二十四日) 陛下御親征中ニ付内閣總理大臣捧讀ス

第十三回議會(明治三十一年十二月三日)及第二十七回議會(明治四十三年十二月二十三日) 陛下

御風氣ニ付内閣總理大臣捧讀ス

第二十九回(臨時)議會(大正元年八月二十三日)及第三十二回(臨時)議會(大正三年五月五日) 御

大喪中ニ付臨御ナク内閣總理大臣捧讀ス

第四十一回議會(大正七年十二月二十七日)第四十二回議會(大正八年十二月二十六日)第四十三回

議會(大正九年七月一日)及第四十四回議會(大正九年十二月二十七日) 陛下御病氣ニ付内閣總

理大臣捧讀ス

第四十六回議會(大正十一年十二月二十七日) 攝政殿下御病氣ニ付内田外務大臣(加藤内閣總理

大臣病氣)捧讀ス

第五十二回議會(昭和元年十二月二十六日) 御大喪中ニ付臨御ナク内閣總理大臣捧讀ス

三〇 開院式當日貴族院議長故障アルトキハ貴族院副議長議長ノ職務ヲ行フ

第十四回議會(明治三十二年十一月二十二日)貴族院議長近衛篤磨君洋行中ニ付副議長黒田長成君

代理シタリ

第四十五回議會(大正十年十二月二十六日)貴族院議長徳川家達君華府會議參列不在ノ爲副議長黒

田長成君代理シタリ

參看 四二號

三一 開院式ハ議院成立後三日以内ニ行ハセラルルヲ例トス

議院成立スルトキハ一日乃至三日ヲ隔テテ開院式ヲ行ハセラルルヲ例トスルモ第二回議會ニ於テ

ハ五日、第四回議會ニ於テハ四日ヲ隔テ又第十三回議會ニ於テハ内閣交迭ノ爲二十四日目ニ開院

式ヲ行ハセラレ第五十一回議會ヨリハ式場タル貴族院議場ノ議席ヲ取り外スコトナク其ノ儘使用

シ得ル爲議院成立ノ翌日行ハセラルル例トナレリ

三三 開院式ヲ日曜日ニ行ハセラル

開院式ハ日曜日ニハ通常行ハセラレサルヲ例トスルモ第二十回(臨時)議會第五十二回議會ニ於テハ議院成立(一ハ明治三十七年二月十九日一ハ昭和元年十二月二十五日)ノ翌日(日曜日)ナリシニ拘ラス開院式ヲ行ハセラレタリ

參看 四四號

皇室儀制令
第六條
附式

三三 開院式行幸ノ際議長副議長高等官奉送迎ヲ爲ス

陛下開院式ニ行幸ノ際議長ハ車寄ニ副議長及本院高等官ハ貴族院門内ニ臚列奉迎シ御還幸ノ際議長ハ車寄ニ副議長及本院高等官ハ衆議院門内ニ臚列奉送ス
議員ハ任意ニ衆議院玄關脇ニ堵列シテ奉迎奉送スルヲ例トス

三四 開院式前便殿ニ於テ議長副議長拜謁仰付ケラル

第二十一回議會ニ於テ自今帝國議會開院式ニ臨御ノ節本院議長ハ拜謁仰付ケラルコトニ又第三

十一回議會ヨリハ副議長及書記官長ヘモ拜謁仰付ケラルコトニ御治定相成リ孰レモ議院便殿ニ於テ拜謁仰付ケラレタルモ大正十五年皇室儀制令制定ノ際議長副議長ノミ拜謁仰付ケラルコトトナレリ
尙第四十五回議會乃至第五十一回迄 攝政殿下台臨ノ際ハ議長副議長及書記官長ニ拜謁仰付ケラレタリ

三五 皇太子殿下開院式ニ御臨場ノ際議長副議長書記官長及書記官ニ拜謁仰付ケラル

第二十回(臨時)議會ノ開院式(明治三十七年二月二十日)ニ 皇太子殿下初テ御臨場アラセラレ其ノ際本院議長副議長書記官長及書記官ニ拜謁仰付ケラレタリ

三六 開院式場ニ於テハ玉座ニ對シ左方ヲ以テ本院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席トス

開院式場ニ於テハ玉座ニ對シ右方ヲ以テ貴族院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席トシ左方ヲ

以テ衆議院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席トス

參看 四六號 附錄一三ノ一

三七 開院式場ニハ禮服着用本綬佩用ヲ要ス

開院式場ニ參列スル議員ニシテ文武官有位者ハ大禮服正裝其ノ他ハ通常禮服(燕尾)ヲ着用シ帶勳者ハ本綬ヲ佩用スルニ非サレハ參列スルコトヲ許サス但シ大震災後ノ第四十七回(臨時)第四十八回議會ノ際ハ特ニ通常服(フロック)ヲ着用シ帶勳者ハ略綬ヲ佩用シテ參列セシメラル

參看 四七號

三八 開院式場ニハ杖ヲ用キ或ハ給仕ヲ附スルコトヲ許サス

歩行不自由ノ爲又ハ眼疾ノ故ヲ以テ議院ノ許可ヲ得テ議場内ニ杖ヲ用キ若ハ給仕ヲ附スル者ト雖開院式場ニ參列スルニハ之ヲ許サレサルヲ以テ孰レモ同僚ノ肩ニ倚リ參列セリ

參看 五四八號

三九 開院式ニハ各國交際官吏有爵者ニ陪觀ヲ新聞及通信社員ニ拜觀ヲ差

許サル

開院式ノ陪觀及拜觀ハ宮内省ニ於テ取扱ヒ式部長官ヨリ其ノ通牒ヲ受ク而シテ各國交際官、勅任官、麿香間祇候、勅任官待遇、勅任拔擢外國人、勳三等以上ノ内外國人、五等以上ノ奏任官ニ陪觀ヲ差許サレ又新聞社員通信社員ハ四十九名(歐文新聞記者トモ)ヲ限リ特ニ拜觀ヲ差許サルルヲ例トス拜觀ハ男子ニ限ル即チ明治四十三年十二月二十一日國際新聞記者(外國人内婦人一名アリ)ノ拜觀願出ニ對シ男子ノミニ許可セラレタリ

第二節 閉院式

四〇 閉院式ハ貴族院ニ於テ行ハセラル

閉院式ハ貴族院ニ於テ行ハセラル但シ第一回議會ニ於テハ議院燒失ノ爲宮中豐明殿ニ於テ行ハセラレタリ

參看 二七號

四一 閉院式ニハ内閣總理大臣勅旨ヲ奉シテ勅語ヲ捧讀ス

内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ國務大臣代リテ捧讀ス

閉院式ニハ 陛下臨御アラセラレス 攝政殿下亦台臨アラセラレス内閣總理大臣勅旨ヲ奉シテ閉會ノ勅語ヲ捧讀シ勅語書ハ貴族院議長之ヲ拜受ス

内閣總理大臣故障アルトキハ他ノ國務大臣代リテ勅語ヲ捧讀ス

第一回議會 明治二十四年三月八日山縣内閣總理大臣病氣ニ付西郷内務大臣捧讀ス

第八回議會 明治二十八年三月二十七日伊藤内閣總理大臣大本營へ出張中ニ付渡邊遞信大臣捧讀ス

參看 附錄二三ノ(一)

四二 閉院式當日貴族院議長故障アルトキハ開院式ノ例ニ倣フ

第一回議會 明治二十四年三月八日議長伊藤博文君病氣ニ付貴族院副議長東久世通禧君代理シ

タリ

第十六回議會 明治三十五年三月十日貴族院議長近衛篤磨君病氣ニ付副議長黒田長成君代理シ

タリ

參看 三〇號

四三 閉院式ハ會期終了ノ翌日之ヲ行ハセラル

會期終了スルトキハ其ノ翌日ヲ以テ閉院式ヲ行ハセラルルヲ例トス但シ第七回(臨時)議會ハ會期七日間ナリシモ議案議了ニ付五日目ニ閉院式ヲ行ハセラレ第八回議會ニ於テハ會期終了日(三月二十三日(土曜日))ニ三月二十五日閉院式舉行ノ旨仰出サレタルモ御延引ノ旨仰出サレ更ニ三月二十七日閉院式ヲ行ハセラレタリ

四四 閉院式ヲ日曜日ニ行ハセラル

第九回、第二十九回、第四十四回及第四十五回議會ニ於ケル會期終了ノ翌日ハ日曜日ナリシニ拘ラ

ス閉院式ヲ行ハセラレタリ

參看 三二號

四五 停會中閉院式執行ノ旨仰出サル

第三十一回議會 大正三年三月二十三日犬養毅君外五名提出上奏案ノ會議ニ於テ大石正巳君ノ演說中(貴族院ニ於テ大正三年度豫算案兩院協議會成案ヲ否決シタルトキ)同日ヨリ二十五日迄三日間停會ヲ命セラレ(二十五日ハ會期終了當日ナリ)更ニ二十五日ヲ以テ翌二十六日閉院式執行ノ旨仰出サレタリ

四六 閉院式場ニ於ケル本院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席次ハ閉院式ノ例ニ倣フ

閉院式場ニ於テハ玉座ニ對シ右方ヲ以テ貴族院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席トシ左方ヲ以テ衆議院議長副議長議員書記官長及書記官ノ席トス

參看 三六號 附錄一三ノ一

四七 閉院式場ニハ通常禮服着用本綬佩用ヲ要ス

閉院式場ニ參列スル議員ハ必ス通常禮服(燕尾)ヲ着用シ帶動者ハ本綬ヲ佩用スルニ非サレハ參列スルコトヲ許サス但シ大震災後ノ第四十七回(臨時)及第四十八回議會ノ際ハ特ニ通常服(フロック)ヲ着用シ帶動者ハ略綬ヲ佩用シテ參列セシメラル

參看 三七號

第三節 會期延長

四八 會期ノ延長ハ通常會ト臨時會ト憲法第四十五條ニ依レル議會トヲ問ハス之ヲ命セラル

會期ヲ延長セラレタル議會ハ左ノ如シ

第一回議會九日間、第四回、第九回議會各二日間、第十二回(特別)、第十三回議會各七日間、第十

第一編 總則 第三章 開會、閉會、會期延長、停會及解散 第三節 會期延長 (四五—四八) 二十九

四回議會四日間、第十八回(特別)、第三十四回(臨時)議會各三日間、第三十九回(特別)議會一日間、第四十七回(臨時)議會三日間、第五十回議會五日間トス

四九 會期ノ延長ハ會期ノ終了ニ際シテ命セラルルヲ例トス

會期ノ延長ハ會期終了ノ當日乃至二日前ニ之ヲ命セラルルヲ例トス即チ第一回、第九回、第三十四回(臨時)、第四十七回(臨時)、第五十回議會ニ於テハ會期終了當日第十四回、第十八回(特別)及第三十九回(特別)議會ニ於テハ其ノ一日前、第四回、第十二回(特別)、第十三回議會(特別)ニ於テハ其ノ二日前ナリキ而シテ詔書ニシテ會議中若ハ會議前ニ傳達セラレタルトキハ議長之ヲ捧讀シ休會中ナルトキハ衆議院公報ヲ以テ其ノ旨各議員ニ通知ス

五〇 一會期中三度會期ノ延長ヲ命セラル

第五十回議會ノ會期終了日ハ大正十四年三月二十五日ニ當レルモ同日詔書ヲ以テ一日間次テ同月二十六日二日間更ニ同月二十八日二日間孰レモ帝國議會會期ノ延長ヲ命セラレタリ

第四節 停會

五一 停會ハ會議中ナルト否トヲ問ハス之ヲ命セラル

停會ノ詔書ハ會議中、會議前、委員會議日又ハ休會中若ハ停會中ニ於テモ傳達セララル會議中ナリシハ第四回、第五回、第九回、第十二回、第十七回(第一次ノ場合)第二十回(第二次ノ場合)、第三十一回及第五十二回議會、會議前ナリシハ第三回、第十五回(第二次ノ場合)第十八回及第三十回議會(第一次、第三次ノ場合)又委員會議日ナリシハ第十五回議會(第一次ノ場合)休會中ナリシハ第五十一回議會停會中ナリシハ第十七回議會(第二次ノ場合)トス
停會ノ詔書ニシテ會議中ニ傳達セラレタルトキハ議長直ニ議事ヲ中止シテ詔書ヲ捧讀シテ散會シ其ノ他ノ場合ニハ衆議院公報ヲ以テ其ノ旨ヲ各議員ニ通知ス但シ第二回議會ニ於テハ會議前ナリシヲ以テ議長ハ各部長ヲ議長室ニ集メ書記官長ヲシテ之ヲ捧讀セシメ各議員ニ通達スヘキ旨ヲ命シ又第三十回議會第三次ノ場合ハ會議前(午後一時三十分末々開場セス)ナリシヲ以テ議長ハ各部長及理事ヲ議長室ニ招キ其ノ全部ノ參集ナキ爲各派院内幹事ヲ參加セシメ詔書ヲ捧讀シ之ヲ各議員ニ通達スヘキ旨ヲ命シ且公報號外ヲ以テ其ノ旨ヲ各議員ニ通知セリ

參看 附錄一四ノ七

五二 停會ハ一會期中數回又ハ停會中ト雖之ヲ命セラル

一會期中二回停會ヲ命セラレタルハ第五回、第十五回及第十七回議會ニシテ其ノ三回ニ及ヘルハ第三十回議會トシ又第十二回議會ハ延長セラレタル會期中ニ於テ、第十七回議會ハ停會中更ニ停會ヲ命セラレタリ

五三 停會奏請ノ理由ヲ説明ス

第五十二回議會 昭和二年一月二十五日若槻内閣總理大臣ハ田淵豐吉君ノ議事進行ニ關スル發言ニ答ヘテ「……若シ出來得ルコトナラバ豫算不成立ト云フヤウナコトノナイヤウニスルコトガ私ノ衷心ヨリノ希望デアリマス其途ガナケネバ已ムヲ得ナイ併シ其途ガアレバ之ヲ發見シタイ是ハ私ノ又衷心カラ出タル希望デアリマス果シテ其疏通ノ途ガアリヤ否ヤ之ニ付テ能ク講ジテ見タイ然ルニ不信任案ノ議事ヲ繼續セラレテ居リマスト云フト其疏通ノ途アリヤ否ヤヲ發見スルコトガ甚ダ不便デアリマスソレデアリマス故ニ停會ヲ奏請シテ衆議院ノ停會ト云フコトニ致シサウシテ其途ノアリヤ否ヤヲ講ズルコトニ致シタイ是ガ私ノ停會ヲ奏請シタ

所以デアリマス」ト述ヘタリ

第五節 解散

五四 解散ハ會議中ナルト否トヲ問ハス之ヲ命セラル

議會ノ解散ヲ命セラレタルコト十二度ニシテ會期ノ始ナリシハ第十一回、第十九回、第三十五回、第四十八回及第五十四回議會ニシテ會期ノ中頃ナリシハ第二回、第五回、第十七回、第三十八回及第四十二回議會會期終了ノ際ナリシハ第六回及第十二回議會トス而シテ解散ノ詔書ハ會議中、會議前、休憩中、散會後又ハ停會中ニ於テモ傳達セラル即チ會議中ナリシハ第六回、第十一回、第十七回、第二十五回、第三十八回、第四十二回及第五十四回議會、會議前ナリシハ第十九議會休憩中ナリシハ第四十八回議會、散會後ナリシハ第二回及第十二回議會トシ又停會中ナリシハ第五回議會トス」解散ノ詔書ニシテ會議中ニ傳達セラルトキハ議長ハ直ニ議事ヲ中止シ詔書ヲ捧讀シテ散會シ第四十八回議會ハ休憩中ナリシヲ以テ議長室ニ各派幹部ノ參集ヲ求メ議長詔書ヲ捧讀シテ傳達シ尙當日ノ公報ヲ以テ詔書傳達ノ旨ヲ議員ニ通知セリ會議前散會後等ノ場合ハ書面ヲ以テ通知シタル

モ公報發刊以後ハ公報ヲ以テ通報ス

參看 附錄一四ノ九

五五 停會中解散ヲ命セラル

第五回議會 明治二十六年十二月十九日日程ヲ變更シテ安部井磐根君提出現行條約厲行建議案ヲ議題トシ安部井君提案ノ趣旨辯明中日ヨリ十二月二十八日迄十日間ノ停會ヲ命セラレ停會明ケノ二十九日日程ニ入ルニ先チテ陸奧外務大臣外交上ノ方針ノ大要ヲ演述シ終リタル際同日ヨリ明治二十七年一月十一日迄十四日間第二回ノ停會ヲ命セラレタルニ拘ラス翌三十日更ニ解散ヲ命セラレタリ

五六 解散後ノ議會重テ解散ヲ命セラル

解散後ノ議會即チ憲法第四十五條ニ依レル議會ニシテ重テ解散ヲ命セラレタルコト兩度アリ第六回及第十二回議會是ナリ

參看 附錄一四ノ九

五七 政府解散ノ理由ヲ發表ス

政府ハ解散ノ理由ヲ諸種ノ方法ニ依リテ概ネ發表ス

- (一) 理由ヲ發表シタルモノ
 - 第二回議會解散後 官報ヲ以テ各大臣連署ノ解散奏議ヲ發表シタリ
 - 第五回議會解散後 政府ハ當初解散ノ理由ヲ發表セサリシモ貴族院議員有志ノ忠告書ニ對スル伊藤內閣總理大臣ノ復書ヲ以テ解散ノ理由ヲ明ニシ次テ臨時總選舉ノ取締ヲ府縣警部長及憲兵隊長ニ訓示スルニ當リ井上內務大臣ハ前議會解散ノ理由ヲ說示シ又次期議會開院劈頭伊藤內閣總理大臣ハ施政方針ヲ衆議院ニ演說スルニ當リ同一趣旨ヲ公言シタリ
 - 第六回議會解散後 官報ヲ以テ各大臣連署ノ解散奏議ヲ發表シタリ
 - 第三十五回議會解散後 新聞紙ヲ藉リテ解散ノ理由ヲ發表シ且閣臣等交々其ノ趣旨ヲ世上ニ公表シタリ
 - 第三十八回議會解散後 地方官會議ニ於ケル寺內內閣總理大臣ノ訓示演說中解散ノ理由ヲ發表

シタリ

第四十二回議會解散後 新聞紙ヲ藉リ又地方官會議ニ於ケル原内閣總理大臣ノ訓示演說中解散ノ理由ヲ發表シ且閣臣交々其ノ趣旨ヲ世上ニ公表シタリ
第四十八回議會解散後 新聞紙ヲ藉リ又地方官會議ニ於ケル清浦内閣總理大臣ノ訓示演說ヲ以テ解散ノ理由ヲ發表シタリ

第五十四回議會解散後 新聞紙ヲ藉リ解散ノ理由ヲ發表セリ

(二) 理由ヲ發表セサルモノ

第十一回議會ノ解散 (衆議院解散ノ即日松方内閣總理大臣辭表ヲ呈ス)

第十二回議會ノ解散 (衆議院解散ニ伴ヒ伊藤内閣總理大臣辭表ヲ呈ス)

第十七回議會ノ解散 (解散ノ理由ヲ事後ニ發表セサルモ會議中桂内閣總理大臣ノ演說ヲ以テ政府ノ決心ヲ示シタリ)

第十九回議會ノ解散 (開院式勅語奉答文議決ノ後解散セララル)

參看 附錄一四ノ九

第四章 議長副議長及假議長

第一節 議長副議長候補者選舉

五八 議長副議長候補者ノ選舉手續及投票點檢心得ハ第一回議會ニ於テ定メラレタルモノニ依ル

議第三條
第三條
第一三條
至

第一回議會明治二十三年十一月二十五日ニ於テ議長、副議長候補者ノ選舉ヲ行フニ當リ書記官長(曾禰荒助君)ハ議院法第三條第二項ニ依リ議長ノ職務ヲ執リ院議ニ諮ヒ選舉手續及投票點檢心得ヲ定メ爾來之ニ準據シ第三回、第十七回、第二十五回及第二十八回議會ニ二三ノ修正ヲ加ヘタリ

議長副議長候補者選舉手續心得

- 一 議長候補者選舉ヲ始メムトスルトキハ守衛ヲシテ振鈴セシム
- 二 各議員ハ振鈴ニテ假席次表ニ依リ議場ニ著席ス
- 三 各議員ノ座席定マルヲ待チ書記官長ハ投票ノ開始ヲ宣告シ書記官ヲシテ各議員ノ氏名ヲ點呼セシム
- 四 各議員ハ點呼ニ應ジ議長席ノ右方ヨリ順次演壇ニ登リ投票ヲ投票函ニ入レ又別ニ設ケタル

名刺函ニ名刺ヲ入レ議長席ノ左方ヨリ降テ席ニ復ス(投票及名刺ハ書記官之ヲ受取リテ投函ス)

五 投票終ルトキハ書記官長ハ開函ヲ宣告ス

甲書記官ハ投票函ヲ開キ乙書記官ハ名刺函ヲ開キ其ノ員數ヲ照査ス

六 投票數名刺數ト符合スルトキハ書記官投票ヲ點檢ス

七 投票點數照査ニ便宜ナル爲メ豫メ得點記入表ヲ備ヘ一々朱點ヲ施シ各候補者ノ得點數ヲ明確ニス

八 開票主任書記官ハ投票ニ記載シタル順序ニ隨ヒ其ノ氏名ヲ何ノ誰君ト讀上ケ點者之ニ應シ朱點ヲ施シ同シク何君幾點ト應呼ス開票主任書記官之ヲ聽キテ後次ニ移ル

九 投票ノ點檢終レハ投票得點記入表ヲ書記官長ニ差出ス

十 書記官長選舉ノ結果ヲ報告ス

十一 議長候補者選舉終レハ其ノ投票ハ豫メ備ヘタル別函ニ移ス(名刺亦同シ)

十二 副議長候補者選舉投票ノ手續亦右ニ同シ

投票點檢心得

一 投票中其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多ク被選人ノ氏名ヲ記載シタルモノハ其ノ定員ニ超過シタ

ル氏名ヲ末尾ヨリ除却ス

二 投票ニ記載シタル氏名選舉スヘキ定員ニ充タサルモ其ノ記載ノ氏名ヲ採ル

三 投票ニ同氏名ヲ重複記載シタルモノハ其ノ一ヲ採リ其ノ餘ハ其ノ人ノ得點數ニ算入セス

四 氏名ニ誤字アルモ明ニ其ノ誰タルヲ認メ得ヘキモノハ有效トス

五 決選投票ヲ行ヒタルトキ同數者二人以上アルトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

五九 召集當日議長若ハ副議長闕位ノ場合ハ先ツ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ

議員一任期ノ第二會期以後ノ召集當日議長若ハ副議長闕位ノ場合ハ議院成立ノ手續ヲ爲スニ先チ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ即チ第五回、第十回、第十九回及第二十八回議會ノ事例是ナリ

參看 二四號、七五號、七八號

六〇 會期中議長、副議長闕位トナリタルトキハ直ニ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ

議院成立後議長若ハ副議長又ハ議長副議長共ニ闕位トナリタルトキハ當日若ハ翌日(休會若ハ休日ナルトキハ其ノ翌日)ヲ以テ其ノ候補者ノ選舉ヲ行フ

第五回議會(明治二十六年十二月十四日議長候補者選舉及同月十六日副議長候補者選舉)

第二十二回議會(明治三十九年一月二十二日議長候補者選舉)

第三十一回議會(大正三年三月七日及同月十七日議長候補者選舉)

第三十七回議會(大正四年十二月二十六日副議長候補者選舉)

第四十六回議會(大正十二年二月十七日午前議長候補者選舉ヲ行ヒ副議長(粕谷義三君)當選勅任セラレタルヲ以テ午後副議長候補者選舉)

第五十二回議會(昭和二年三月二十五日議長及副議長候補者選舉)

參看 七八號、八七號

衆議院
第八條
第三五條

六一 決選投票ノ點檢ニハ姓ノミヲ讀上ク

議長副議長候補者及全院委員長ノ決選投票ノ點檢ニハ名ヲ略シ姓ノミヲ讀上クルコトハ第一回議會ニ於テ定メラレ爾來之ヲ例トス

六二 議長ハ議長席ニ於テ選舉ノ投票ヲ爲ス

第一回議會 全院委員長選舉ノ際(明治二十三年十二月二日)松野新九郎君ハ一寸開票前ニ伺ヒタイ、議長ハ投票セラレタヤウニ見エナイヤウダガ議長モ均シク三百人ノ一人ナレバ投票權ガアルト考ヘマス若シ本會ハ議長ハ總テ何等ノコトニ就テモ投票セナイ慣例ナレバ格別、一部ノ議員トシテハ投票致サナケレバナラヌハ當リ前ダガ今日議長ガ議場ニ出ラレテ全會デ投票致シマスノハ今日ガ始メテ御座リマスカラ將來ノ慣例ニモナリマセウカラ即チ心得マデニ伺ツテ置キマス」ト問ヒ次テ早川龍介君ハ「是ハ斯様ナ始メテノコトデ御座イマシテ若シ御考違デモアラウカト思ヒマスガ實ハ全院委員長ハ我々ガ一般ニ投票スルノデアリマスカラ議長ニモ御投票アランコトヲ望ミマス」ト述ヘ議長(中島信行君)ハ議長席ヨリ投票ヲ爲シ書記官ヲシテ之ヲ投函セシメ「投票致シマシタ」ト答ヘタリ

第十回議會 議長候補者選舉(明治二十九年十二月二十二日)及全院委員長選舉(同月二十六日)

第一編 總則 第四章 議長副議長及假議長 第一節 議長副議長候補者選舉 (六〇—六二) 四十一

ニ副議長島田三郎君、第二十八回議會議長候補者選舉（明治四十四年十二月二十三日）ニ副議長肥塚龍君ハ孰レモ議長席ヨリ投票ヲ爲シ書記官ヲシテ投函セシメタリ

衆第五條

六三 選舉ノ投票ハ書記官演壇ニ於テ之ヲ受取り代テ投函ス

第一回議會ニ於テハ議長副議長候補者選舉及全院委員長選舉ノ際名刺及投票ハ議員自ラ投函シタルモ第二回議會以來ハ混雜ヲ避クル爲書記官ヲシテ演壇ニ於テ之ヲ受取り投函セシムルコトト爲シタリ

參看 三九七號

衆第五條

六四 選舉ノ際議員登壇シ得サル場合ニハ書記官其ノ席ニ就テ投票ヲ受取り代テ投函ス

議長副議長候補者若ハ全院委員長選舉ノ際議員病氣其ノ他ノ爲登壇シ得サル場合ニハ書記官其ノ

席ニ就キ名刺及投票ヲ受取り代テ投函スルヲ例トス

參看 三九八號

六五 選舉ニハ議場ノ閉鎖ヲ要セス

第一回議會以來選舉投票ノ場合ハ議場ノ閉鎖ヲ行ヒタルコトナシ

第三十七回議會 大正四年十二月二日全院委員長選舉ノ際閉鎖ヲ命スヘシト呼フ者アリタルニ

對シ議長（島田三郎君）ハ「可否ヲ問フ場合デナイカラ閉鎖ヲ要シマセヌ投票ヲ願ヒマス」ト告

ケタリ

參看 三九四號

六六 選舉ノ投票點檢中ハ定數ノ出席議員ヲ要セス

議長副議長候補者又ハ全院委員長ノ選舉ニ於テハ議場ノ閉鎖ヲ爲サス從テ投票點檢中出席議員定數ヲ缺クコトアリ第二十八回議會（明治四十五年三月二十日）政府提出衆議院議員選舉法中改正法

第一編 總則 第四章 議長副議長及假議長 第一節 議長副議長候補者選舉（六三一六六） 四十三

律案兩院協議委員選舉ノ投票點檢ノ際出席議員多數退席シタルトキト部喜太郎君ハ「投票ノ開票ノ場合ニハ定數ヲ缺イテモ宜イノデアリマスカ」ト問ヒタルニ議長(大岡育造君)ハ「今マデノ例ニ依レバ必シモ定數ガ無クテモ宜イノデアリマス」ト答ヘ點檢ヲ繼續シタリ

參看 二五六號

六七 用紙ヲ取違ヘタル投票ヲ有効トス

第三回議會 明治二十五年五月二日副議長候補者選舉ノ際用紙ヲ取違ヘ議長候補者選舉用紙ヲ用キ投票ヲ爲シタル者アリタルトキ書記官長(水野遵君)ハ「用紙ノ違ツタノハ或ハゴザイマセウト思ヒマスガ之ハ總テ有効ト認メマス」ト宣告シタルニ異議ナカリキ

六八 瑕疵アル投票ノ效力ハ議長之ヲ決定シ又ハ之ヲ院議ニ諮フ

議長副議長候補者若ハ全院委員長ノ選舉ニ於テ投票ノ白紙ナルモノ、議員ニ非サル氏名ヲ記載セルモノ又ハ決選投票ノ場合ニ指名以外ノモノヲ記シタルモノハ無効投票ナルヲ以テ議長ニ於テ之

衆議院
第一二五條

ヲ認定スヘキモノトス而シテ氏名ニ疑義アルモノ即チ瑕疵アル投票ト雖議長其ノ有効無効ヲ決定シ若ハ之ヲ院議ニ諮ヒタルコト枚舉ニ違アラス

第四十九回議會 大正十三年六月三十日全院委員長ノ選舉ニ於テ投票中「ローマ」字ニテ「エス、

ワカオ」ト記シタルモノアリ副議長(小泉又次郎君)ハ院議ニ諮ヒ有効ト決定シタリ

第五十四回議會 昭和二年十二月二十七日全院委員長ノ選舉ニ於テ投票中姓名ノ上ニ學位ヲ加

ヘタルモノ一票アリ副議長(松浦五兵衛君)ハ院議ニ諮ヒ有効ト決定シタリ

六九 同姓者ナキ議員ノ姓ノミヲ記載シタル投票ヲ有効トス

議長副議長候補者若ハ全院委員長ノ選舉ニ於テ投票中同姓者ナキ議員ノ姓ノミヲ記載シタルモノハ議長之ヲ有効トシ又ハ院議ニ諮ヒ有効ト決定スルヲ例トス今一二ノ例ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 議長有効ト決定シタル例

第十二回議會 全院委員長選舉ノ場合

(二) 院議ニ諮ヒ有効ト決定シタル例

第二十八回議會 議長及副議長候補者選舉ノ場合

衆第七條
衆第二五條

七〇 無効投票ハ總數ニ算入ス

議長副議長候補者假議長若ハ全院委員長ノ選舉ニ於テ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トスルハ衆議院規則ノ規定スル所トス而シテ議院ハ常ニ無効投票ヲモ投票中ニ算入スルヲ例トス

第四十回議會 大正六年十二月二十八日全院委員長選舉ノ際投票總數二百八十一ニシテ投票點檢ノ結果無効投票一票アリシモ副議長(濱田國松君)ハ無効投票ヲモ投票總數中ニ算入シ過半數ハ百四十一點ナル旨ヲ宣告セリ

七一 投票函閉鎖ノ宣告後ハ投票ヲ許サス

議員投票ヲ終リタルトキハ議長ハ投票漏ノ有無ヲ注意シ投票漏ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ告ケ投票函ノ閉鎖ヲ宣告ス

第七回(臨時)議會 明治二十七年十月十五日議長候補者選舉ノ際書記官長(水野遵君)ハ「諸君

衆第五條

投票ハ終リマシタガ此ノ際ニ一應諸君ノ御意見ヲ伺ヒタイコトガゴザイマス京都府第六區選出議員稻葉市郎右衛門君ガ只今出院ニナリマシタ(中略)然ルニ未ダ内務省ヨリハ事務局ニハ稻葉市郎右衛門君當選ニナツタト云フ通知ガゴザイマセヌ(中略)當選證書持參ノ上ハ當院ノ決議ニ依テ此ノ議場ニ參列サレテ只今ノ投票ニ加ハラレテ宜シイカト存ジマス(下略)ト宣告シタルニ工藤行幹君ハ「未ダ通知ノナイモノデ殊ニ時刻ノ遅レタ者ハ規則ノ明文ニ照シテ私ハ今日丈ハ入レヌト云フ考デアリマス」ト云ヒ尙(前略)殊ニ此ノ投票ハ已ニ終ツテシマツタノデアアル(中略)投票ノ終ツタト云フコトハ已ニ書記官長ガ報告シテ居ル(中略)故ニ此ハ入レナイコトヲ希望シマス」ト述ヘ起立採決ノ結果其ノ入場ヲ許スニ決シ次テ稻葉君ニ投票ヲ爲サシムヘキヤ否ヲ起立ヲ以テ採決シ起立少數ナル旨ヲ宣告シタルニ異議アリタルニ依リ無名投票ヲ以テ採決シタル結果投票ヲ爲スヲ許サスト決シタリ

第二十五回議會 明治四十一年十二月二十二日副議長候補者選舉ノ際議長(杉田定一君)ハ「投票漏ハナイト認メマス閉鎖、開匣ヲ命ジマス」ト告ケタルニ「投票漏ハアリマス」ト呼ヒ登壇スル者二名アリシモ議長ハ「モウ開匣ヲ命ジマシタ」ト告ケ投票ヲ許ササリキ

參看 四〇二號

七二 選舉ニ際シ名刺ノミヲ投入シタルモノハ棄權ト看做ス

第四十回議會 大正六年十二月二十八日全院委員長ノ選舉ニ於テ副議長(濱田國松君)ハ「投票
總數ハ二百八十一、名刺ノ數ハ二百八十二デアリマス名刺ノ一票多イ分ハ棄權ト見ルベキ性
質ヲ有ツタモノデアリマスガ此儘進行スルニ異議ナキヤ」ト諮リシニ異議ナカリキ

參看 四〇五號

【備考】

選舉ニ際シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタル場合ニ於ケル從來ノ取扱方
議長副議長候補者若ハ全院委員長等ノ選舉ノ際投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシトノミアリ
シヲ以テ投票名刺ノ數ニ超過シタル場合即チ第二回議會(明治二十四年十一月二十七日)及第十四回議會(明治三十二年十
一月二十四日)ノ全院委員長選舉ニ際シ一ハ二箇一ハ三箇ノ投票名刺數ニ超過シタル爲其ノ選舉ヲ無効トシタルモ其ノ他
ノ場合ニ於テハ院議ニ諮ヒ選舉ノ結果ニ影響ヲ及ホササル限リ其ノ選舉ヲ有效ト認ムルノ慣行ナリシヲ以テ第五十回議會
規則改正ノ際「選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホササルトキハ此ノ限ニ在ラス」トノ但書ヲ加ヘタル爲自今院議ニ諮フノ必要ナキニ
至レリ

七三 選舉ニ際シ豫メ當選ヲ辭スルコトヲ得ス

第一回議會 明治二十三年十一月二十五日副議長候補者選舉ノ際島田三郎君(三十番)ハ「三十
番ハ決選投票ヲ煩ハスマデハナイト存ジマスカラ決選ノ前ニ辭スルコトヲ明言シテ置キマス
萬一決選ヲ煩ハシタ上デ假令多數ヲ得マシテモ辭シマスル積リデアリマスルカラ次へ御廻シ
クダサルコトヲ望ミマス」ト述ヘ書記官長(曾禰荒助君)ハ「唯今三十番カラ注意ガアリマス又
三十番ノ決心ノコトモ表明セラレテ居リマスケレドモガ併シ乍ラ本席ニ於テハ其ノ結果ガ生
ジテ來タトキデナケレバソウイフコトハ敢テ出來マセヌト考ヘマス故ニ唯今申シタ六人ノ中
ニ就テ決選投票ヲセラレンコトヲ希望シマス」ト告ケ同君ヲ加ヘテ決選投票ヲ行ヒタリ

第三回議會 明治二十五年五月七日全院委員長選舉ノ際安部井磐根君ハ「此場合ニ一言シテ諸
君ノ御耳打ヲ致シテ置キマス決選投票ニナリマシテ若シ本員ガ此選ニ當ルモ病老堪ヘ難キノ
故ヲ以テ辭スルノ止ムヲ得ザルノ事情ガアリマス此段念ノ爲メ述ベ置キマス」ト述ヘタルニ
議長(星亨君)ハ「一寸諸君ニ私ハ意見ヲ述ベマスガ此ノ如キ場合ニハ決選投票ヲスルノガ相
當デゴザリマス左スレバ御辭シニナルヤ否ヤト云フコトハ法律ハ見テ居ラヌ依ツテ矢張り決
選投票ヲスルノ外ハナイト思ヒマス」ト告ケ安部井磐根君鈴木重遠君ノ二人ニ就テ決選投票
ヲ行ヒタリ

七四 總選舉後ノ議長副議長候補者選舉ノ際選舉ニ直接關係ナキ發言ハ之ヲ許サス

第一回議會 明治二十三年十一月二十五日議長副議長候補者選舉ニ際シ末松三郎君ハ議院ノ權利ニ關係スルコトニ就キ發言ノ許可ヲ求メタルニ對シ會禰書記官長ハ本日本席カ議長ノ職務ヲ行フニ就テハ選舉ニ直接關係アルモノハ兎モ角間接ノコトハ一切發言ヲ止メル心得ナリト答ヘタルニ末松君ハ議長カ議員ノ發言ヲ差止ムルハ如何ナル理由ニ依ルヤ院議ニ諮フテ之ヲ決スヘシト主張シタルニ依リ書記官長(會禰荒助君)ハ起立ヲ以テ院議ニ諮ヒ院議多數ヲ以テ關係ナキ發言ヲ許ササルニ決ス

第二節 議長副議長ノ就職退職

七五 議長副議長ノ勅任ハ概ネ其ノ候補者ヲ奏上シタル當日又ハ翌日ナルヲ例トス

議長副議長候補者ヲ奏上スルトキハ當日又ハ翌日ヲ以テ勅任セラルルヲ例トシ日ヲ隔テテ勅任セ

ラレタルハ第五回議會ニ於ケル議長副議長及第十三回議會ニ於ケル副議長アルノミ而シテ第五十二回議會ニ於テハ會期終了日即チ昭和二年三月二十五日議長及副議長候補者ノ選舉ヲ行ヒ當日其ノ候補者ヲ奏上シタルニ翌二十六日閉院式舉行前ニ勅任セラレタリ

參看 七七號

七六 日曜日ニ於テモ議長副議長ヲ勅任セラル

第五回議會(明治二十六年十一月二十六日)ニ於テ楠本正隆君ヲ副議長(補闕)ニ、第十七回議會(明治三十五年十二月七日)ニ於テ片岡健吉君ヲ議長ニ、元田肇君ヲ副議長ニ、第二十八回議會(明治四十四年十二月二十四日)ニ於テ大岡育造君(補闕)ヲ議長ニ勅任セラレタルハ孰レモ日曜日ナリキ

七七 停會中ニ於テモ副議長ヲ勅任セラル

第五回議會 明治二十六年十二月十六日副議長候補者ノ選舉ヲ行ヒ即日奏ヲ爲シタルニ同月二十日(停會中)安部井磐根君勅任セラレタリ

七八 議長副議長勅任セラルルトキハ書記官長之ヲ議院ニ紹介ス
補闕ノ議長副議長ハ副議長議長之ヲ議院ニ紹介ス

議長副議長ノ勅任アリタルトキハ書記官長ハ其ノ翌日ヲ以テ之ヲ議院ニ紹介ス

書記官長新任ノ議長及副議長ヲ紹介スル場合ハ先ツ議長ト共ニ演壇ニ進ミ其ノ紹介ノ辭ヲ終リ議長謝辭ヲ述フルノ間其ノ側ニ佇立シ謝辭終ルヲ待テ議長ハ議長席ニ著ク而シテ書記官長ハ同一ノ手續ニ依リ副議長ヲ紹介スルヲ例トス

補闕勅任ノ議長若ハ副議長ハ副議長若ハ議長之ヲ議院ニ紹介スルヲ例トスルモ場合ニ依リ議長自ラ勅任ノ披露ヲ爲シタルコトアリ即チ第五回、第三十七回、第四十六回議會ニ於ケル補闕勅任ノ議長ハ議長ヨリ、第十九回、第二十二回、第二十八回、第三十一回議會ニ於ケル補闕勅任ノ議長ハ副議長ヨリ之ヲ議院ニ紹介シ、第五回、第四十六回議會ニ於ケル補闕勅任ノ議長ハ副議長ニ勅任セラレタル爲、第十回議會ニ於ケル補闕勅任ノ議長ハ副議長故障ノ爲自ラ其ノ披露ヲ爲シ第五十二回議會ニ於テハ閉院式當日勅任セラレタルヲ以テ其ノ機會ナカリシカハ第五十三回議會議院成立ニ關スル集會ノ劈頭議長ハ自ラ其ノ披露ヲ爲シ次テ副議長ヲ議院ニ紹介セリ

七九 新任ノ議長闕席ノ爲副議長ノミヲ議院ニ紹介ス

第十八回議會(明治三十六年五月十一日)ニ於テ書記官長(林田龜太郎君)ハ「本日片岡議長ハ御病氣ノタメ御出席致シ難イト云フコトデアリマスカラ追テ御紹介申スコトニ致シマス茲ニ副議長杉田定一君ヲ御紹介申シマス」ト述ヘ副議長ノミヲ議院ニ紹介シタリ而シテ同會期中片岡議長ハ出院ナク閉會後(同年十月三十一日)長逝セラレタル爲終ニ紹介ノ機ナカリキ

八〇 議長副議長就職ノ挨拶ヲ爲シ年長議員祝詞ヲ述フ

第一回議會以來議長副議長ハ書記官長又ハ先任ノ副議長若ハ議長ヨリ紹介セラレタル際就職ノ辭ヲ述ヘ年長議員祝詞ヲ述フルヲ例トス

最年長議員出席ナキトキハ出席年長議員代リテ祝詞ヲ述フルヲ例トス

參看 附録八ノ一

八一 任期滿限ニ達セル議長仍議長ノ職務ヲ行フ

任期限ニ達セル議長副議長ハ後任ノ者勅任セラルル迄仍其ノ職務ヲ繼續スルニ依リ閉會中議院事務ヲ指揮シ議員ノ辭職ヲ許可シ之カ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求シ又議院成立ニ關スル集會ニ於テ議長副議長候補者ノ選舉及其ノ奏上ニ付議長ノ職務ヲ行フ

第十七回議會ニ於テハ議長副議長候補者ノ奏上及候補者選舉當日ノ速記録ニ前議長(片岡健吉君)ノ名稱ヲ用キ、第二十五回議會ニ於テハ候補者ノ奏上ニ前議長ノ名稱ヲ改メサリシモ速記録ニハ之ヲ議長(杉田定一君)トシタリ然レトモ前議長ナル名稱ハ法文上ノ根據ナク唯新任セラルヘキ議長ト區別セムカ爲ニ用キタルニ過キサリシヲ以テ第二十八回議會閉會後議院法第十五條ニ依レル議長モ尙現在議長タルコトニ決定シ内閣及宮内省ニ於テモ其ノ取扱ヲ爲シ第二十九回(臨時)議會ニ於ケル奏上及速記録等ハ總テ議長(大岡育造君)ノ名稱ヲ用キタリ

八二 議長公務若ハ病氣ノ爲辭任ス

第二十二回議會 明治三十九年一月七日議長松田正久君ハ司法大臣ニ任セラレタルヲ以テ翌八日議長ノ辭職ヲ願出テ同月十九日西園寺内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ衆議院議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ年始休會明ケテ一月二十二日ノ議院ニ之ヲ報告セリ

明治四十四年八月三十日(第二十七回議會閉會後) 議長長谷場純孝君ハ文部大臣ニ任セラレタルヲ以テ九月五日議長ノ辭職ヲ願出テ翌六日西園寺内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ衆議院議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ九月二十二日衆議院公報號外ヲ以テ各議員ニ之ヲ通知セリ
第三十一回議會 大正三年三月六日議長大岡育造君ハ文部大臣ニ任セラレタルヲ以テ同日議長ノ辭職ヲ願出テ山本内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ衆議院議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ同日衆議院公報ヲ以テ各議員ニ通知セリ

第四十六回議會 大正十二年二月十三日議長奥繁三郎君病氣ノ故ヲ以テ辭表ヲ提出シ同月十六日加藤(友三郎)内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ衆議院議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ翌十七日其ノ旨ヲ議院ニ報告セリ
第五十二回議會 昭和二年三月二十四日議長粕谷義三君病氣ノ故ヲ以テ辭職ヲ願出テ翌二十五日若槻内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ其ノ職ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ同日其ノ旨議長ニ報告セリ

參看 附錄九ノ一)

八三 副議長病氣又ハ一身上ノ都合ニ依リ辭任ス

第三十七回議會 大正四年十二月十八日副議長花井卓藏君ハ一身上ノ都合ニ依リ辭職ヲ願出テタルニ依リ二十日議長(島田三郎君)ハ留任勸告ヲ爲シタルモ其ノ效ナカリシヲ以テ二十一日奏上ノ手續ヲ爲シ二十六日願ニ依リ衆議院副議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ直ニ其ノ旨ヲ議院ニ報告セリ

第五十二回議會 昭和二年三月二十四日副議長小泉又次郎君ハ病氣ニ付辭職ヲ願出タルカ當時議長辭職ヲ願出既ニ奏上ノ手續ヲ爲シタル際ナリシヲ以テ中村書記官長ヨリ奏上ノ手續ヲ爲シタルニ翌二十五日若槻内閣總理大臣ヨリ願ニ依リ衆議院副議長ヲ免セラレタル旨ノ通牒ヲ受領シ直ニ其ノ旨議院ニ報告セリ

參看 附錄九ノ(一)

八四 議長副議長ノ辭表ハ副議長議長ヨリ之ヲ奏上ス但シ議長辭表提出後副議長ノ辭表ハ書記官長之ヲ奏上ス

第二十二回議會 明治三十九年一月八日議長松田正久君職務ノ都合ニ依リ辭職ヲ願出タルヲ以

テ九日副議長(箕浦勝人君)ヨリ之ヲ奏上シタリ

明治四十四年九月五日(第二十七回議會閉會後)議長長谷場純孝君職務ノ都合ニ依リ辭職ヲ願出タルヲ以テ同日副議長(肥塚龍君)ヨリ之ヲ奏上シタリ

第三十一回議會 大正三年三月六日議長大岡育造君職務ノ都合ニ依リ辭職ヲ願出テタルヲ以テ同日副議長(關直彦君)ヨリ之ヲ奏上シタリ

第三十七回議會 大正四年十二月十八日副議長花井卓藏君一身上ノ都合ニ依リ辭職ヲ願出タルヲ以テ二十一日議長(島田三郎君)ヨリ之ヲ奏上セリ

第四十六回議會 大正十二年二月十三日議長奥繁三郎君病氣ニ付辭職ヲ願出テタルヲ以テ同日副議長(粕谷義三君)ヨリ之ヲ奏上シタリ

第五十二回議會 昭和二年三月二十四日議長粕谷義三君病氣ニ付辭職ヲ願出テタルヲ以テ副議長(小泉又次郎君)ヨリ之ヲ奏上シ引續キ副議長小泉又次郎君病氣ニ付辭職ヲ願出テタルニ依リ同日中村書記官長之ヲ奏上シタリ

八五 議長副議長在職中ノ挨拶ヲ爲シ年長議員謝辭ヲ述フ

議長副議長辭職シ又ハ任期滿限ニ達シタルトキハ在職中ノ挨拶ヲ爲シ年長議員謝辭ヲ述フルヲ例トス即チ辭職セル議長副議長在職中ノ挨拶ヲ爲シタル事例ハ第二十二回議會松田議長、第二十八回議會長谷場議長、第三十一回議會大岡議長、第三十七回議會花井副議長、第四十六回議會奧議長及粕谷副議長ニシテ又任期滿限ニ達シタル議長副議長ノ挨拶ヲ爲シタル事例ハ第二十五回議會杉田議長(第二十四回議會ヲ以テ任期滿限ニ達シタリ)及第二十九回議會大岡議長肥塚副議長(共ニ第二十八回議會ヲ以テ任期滿限ニ達シタリ)是レナリ

參看 附録八ノ(二三)

第三節 議長席

八六 議長闕位シ副議長參内ノ爲一時休憩ス

第五回議會 明治二十六年十二月十五日議長闕位ノ爲議長席ニ在リタル副議長(楠本正隆君)ハ「只今正隆ハ參内スベキ御召ヲ蒙リマシテゴザリマス帝室ノ御都合モアルコトデゴザイマスカラ此席ヲ止ムヲ得ズはづサザルヲ得ヌ次第デゴザリマス、然ルニ此ノ如キ場合ニハ議院法ノ第十四條ニ依リテ假議長ヲ選舉スルト云フコトガゴザリマスガコレハ餘程町重ヲ要スル

コトデ御異議ガナクハ暫ノ間休憩ヲ報ジマス」ト告ケ午後三時七分ヨリ同四時三十七分マテ休憩シタリ

八七 議長若ハ副議長闕位トナルモ休會セス

第五回議會 (明治二十六年十二月十四日)ニ於テ議院成立後議長闕位トナリシニ依リ其ノ候補者ノ補闕選舉ヲ行ヒ翌日開會シタルニ小西甚之助君ハ「既ニ昨日議長ノ候補者ヲ選舉シテ之ヲ奏上セラレタコトデアアル此議長ノ御裁可ニナルマデハ他ノ議事ハ差措カナケレバナラヌモノデアルト思フノデアアル、何トナレバ既ニ當期ノ議會ニ於キマシテ副議長ノ補闕選舉ヲナスガ如キハ劈頭ニ於テ之ヲ爲シタコトデ他ノ議事ヲ後ニセラレタコトデアアル……此ノ議長ノ定マラザル内ニ他ノ議事ヲ進行スルガ如キハ事理ニ於テ順序ニ於テ決シテ許スベカラザルモノト私ハ信ズルノデアリマス」ト述ヘタルモ副議長(楠本正隆君)ハ「只今ノ御趣意ニ付テ申シマス議場ハ既ニ成立シテ議事ハ進行シツアル……依ッテ此席ハ副議長ガ議席ヲ保ッテ此進行ヲ促シツアルノデアアル」ト告ケ會議ヲ續行シ又同會期中副議長闕位トナリシニ依リ明治二十六年十二月十六日其ノ候補者ノ補闕選舉ヲ行ヒ同月二十日其ノ任命アル迄議事ヲ續行シ爾

來議長若ハ副議長闕位トナリタル場合ニ休會シタルコトナシ

參看 六〇號

八八 議長ノ信任ニ關スル議事ニ付副議長議長ノ職務ヲ行フ

第五回議會 明治二十六年十一月二十九日安部井磐根君ハ議長信任ニ關スル緊急動議ヲ提出シ其ノ趣旨ヲ辯明セムトスル際議長(星亨君)ハ「是ヨリ衆議院議長ノ星亨ニ對シテ信任問題ガアルト云フコトデゴザイマス而シテ其ノ事ハ星亨ニ於テハ不當ナリト認メルノデアアル又ソレガ如何ニ決シタ所ガコチラハ守ル責任ハナイト考ヘル併ナガラ事星亨ニ關係スル以上ハ徳義トシテ星亨ハ議長席ヲ退イテ副議長ニ讓リマス」ト宣告シタリ依リテ副議長(楠本正隆君)議事ヲ整理シ其ノ議事終了スルヤ議長ハ再ヒ議長席ニ著キタリ

同 明治二十六年十二月一日和田彦次郎君外三名提出議長信任ニ關スル上奏案ノ會議ニ於テ副議長議長ノ職務ヲ行ヘリ

第三十六回議會 大正四年六月九日齋藤珪次君外二名提出決議案(議長不信任ノ件)ノ會議ニ於テ議長(島田三郎君)ハ副議長(花井卓藏君)ニ其ノ席ヲ讓リタリ

第四十三回議會 大正九年七月十二日佐々木安五郎君提出議長不信任ニ關スル緊急動議ノ會議

ニ於テ議長(奥繁二郎君)ハ副議長(粕谷義三君)ニ其ノ席ヲ讓リタリ

第四十五回議會 大正十一年一月三十一日安達謙藏君外四名提出決議案(議長不信任ノ件)ノ會議

ニ於テ議長(奥繁二郎君)ハ副議長(粕谷義三君)ニ其ノ席ヲ讓リタリ

同 大正十一年二月十六日安達謙藏君外四名提出決議案(議長不信任ノ件)ノ會議ニ於テ副議長議長ノ職務ヲ行ヘリ

第四十六回議會 大正十一年十二月二十八日尾崎行雄君提出決議案(議長ノ處決ヲ促ス件)ノ會議ニ於テ議長(奥繁二郎君)ハ副議長(粕谷義三君)ニ其ノ席ヲ讓リタリ

八九 議長ノ身上ニ關スル議事ニ付議長仍其ノ職務ヲ行ヒ若ハ副議長ヲシテ行ハシム

(一) 議長仍其ノ職務ヲ行ヒタル例

第五回議會 明治二十六年十二月十二日高田早苗君提出星亨君ヲ懲罰委員ニ付スルノ動議ノ議事中中村彌六君ハ「議長ハ席ヲ副議長ニ御讓リニナツテ然ルベキト存ズル」ト述ヘタルニ議長

第一編 總則

第四章

議長副議長假議長

第三節

議長席 (八八、八九)

(星亨君)ハ「私ハ讓リマセヌ法律上ニハ議員ト云フコトハアリマスガ議長ト云フコトハナイ議長ニ於テハ法律上讓ラヌデ宜シイ議員ナラバ此ノ席ヲ退クト云フコトニナル」ト告ケ尙其ノ職務ヲ續行セリ

第三十七回議會 大正五年二月二十七日廣岡宇一郎君提出島田議長ノ處決セラルル迄總テノ議事ヲ中止スヘシトノ動議ノ議事中廣岡君ハ「島田君ノ身上ニ關スルコトデアリマスカラ席ヲ副議長ニ讓ツテ進行アランコトヲ希望スルノデアリマス」ト述ヘタルモ議長(島田三郎君)ハ著席ノ儘議事ヲ進行セリ

(二) 副議長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシメタル例

第三十六回議會 大正四年五月二十五日横田千之助君ハ「議長ノ權限外ニ互ツテ議長ノ權限ヲ揮ハントシタト云フコトガ問題ニナツテ居ルノデアル……島田議長ハ此問題ノ解決マデ花井副議長ヲ煩ハシタイト思ヒマス」ト述ヘタルニ議長(島田三郎君)ハ「ソレデハ本職ハ更ニ固執ハ致シマセヌ又此議論ヲ極メル爲副議長ニ讓テ……」ト宣告シ議長席ヲ退キ副議長(花井卓藏君)議事ヲ整理シ委員ニ付託スルニ決シ其ノ議事終了スルヤ議長ハ再ヒ議長席ニ著キタリ而シテ同日二、三ノ日程ヲ議了シタル後曩ニ付託シタル議長島田三郎君對望月圭介君應答ニ關スル調査ノ件委員長(藤澤幾之輔君)委員會ノ經過ヲ報告セムトスルヤ議員ヨリ議長退席ト呼

フ者アリタルモ議長ハ「報告ガアリマシタラ適當ノ時機ニ退席致シマス」ト告ケ委員長及小數意見ノ報告ヲ爲サシメ引續キ該報告ヲ議題ト爲スヘキ日程變更ノ動議成立シタル際議長ハ「本職ノ身事ニ關スル問題デアリマスカラ席ヲ副議長ニ讓リマス」ト告ケ再ヒ議長席ヲ退キ副議長ヲシテ議事ヲ整理セシメタリ

第四十五回議會 大正十一年二月二十四日砂田重政君提出議場整理ニ關スル先決問題ノ議事中佐々木安五郎君ハ議長ハ自己ノ身上ニ關スル事柄ナルニ依リ退席ヲ望ム旨ヲ述ヘタルモ議長(奥繁二郎君)ハ「議長ノ反省ヲ求ムルト云フ趣意ニナツテ居リマスガ別段不信任案デモナイ且是ハ規則ニ於テサウ云フ事ノ定メガアル譯デハナイ」ト答ヘ著席ノ儘同君ニ發言ヲ許シタルニ同君之ニ應セス議場騷擾ヲ極メタル爲議院法第八十八條ニ依リ其ノ日ノ議事ヲ中止シ翌日ノ會議ニ於テ佐々木君ハ砂田君提出ノ動議ノ末文「議長ハ宜シク反省スヘシ」ヲ「議長ハ宜シク辭職スヘシ」トノ修正動議ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ノ際議長ハ席ヲ副議長ニ讓リ退席セリ

九〇 議長ノ信任ニ關スル上奏中議長謹慎ヲ表シ副議長ヲシテ議事ヲ整理セシム

第五回議會 明治二十六年十二月一日和田彦次郎君外三名提出議長信任ニ關スル上奏案可決シタルトキ議長(星亨君)ハ「諸君今回ノコトニ關シテ私ガ議長ヲ辭スルトカ辭セナイトカ云フコトハ誠ニ小サイコトト私ハ考ヘテ居リマス唯諸君ト意見ヲ異ニシテ私ノ動カナイ所以ト云フモノハ諸君ノ爲サレ方ガ憲法的ノ動作ニ合ハナイト私ハ考ヘテ居リマス……然レドモ既ニ今日ハ此事ヲ……上奏案ガ可決シタト云フコトヲ私ハ聞キマシタデゴザイマス而シテ既ニ此事ガ天聽ニ達スルニ至ツタ譯デゴザイマス然レバ私ハ宸襟ヲ惱マスト云フコトハ誠ニ恐縮ノ至リデゴザリマス故ニ此數日間ハ謹慎ヲ表スルタメニ此議事一切ノコトハ副議長ニ任セル積デゴザイマス」ト宣告シ翌日ヨリハ謹慎ヲ表シ副議長ヲシテ議事ノ整理ヲ爲サセシメタリ

參看 二〇四號 四九一號

九一 議長副議長各其ノ黨籍ヲ離脱ス

第五十回議會 大正十四年三月二十四日議長粕谷義三君ハ立憲政友會ヲ、副議長小泉又次郎君ハ憲政會ヲ脱會セリ是ヨリ先キ小山松壽君外十三名ヨリ衆議院規則改正案ヲ提出シ同月二十四日院議全會一致ヲ以テ之ヲ議決スルニ當リ小山松壽君外二名ハ更ニ議事規則改正ニ關スル

希望決議ヲ提出シ「議長ノ職ニ膺ル者ハ不偏不黨嚴正公平タルコトヲ要スヘキヤ論ヲ俟タス今ヤ現任議長及副議長ハ此ノ趣旨ニ鑑ミ黨籍ヲ離脱シ範ヲ將來ニ示シタリ故ニ本院ハ將來議長及副議長ニシテ政黨派ニ屬シタル場合ニ於テハ其ノ在職中ニ限り黨籍ヲ離脱セラレムコトヲ望ム」トノ希望決議案ヲ全會一致ヲ以テ可決シタリ

第五十二回議會 昭和二年三月二十六日(閉院式當日)勅任セラレタル議長森田茂君ハ憲政會ヲ、副議長松浦五兵衛君ハ政友本黨ヲ脱會セリ之レ第五十回議會ノ決議ニ基キタルニ依ル

九二 議長議院規則ノ疑義ヲ決ス

第三十七回議會 大正五年一月二十七日伊東知也君ヨリ此ノ前ノ會議ハ自己ノ質問趣旨辯明中定足數ヲ缺キタルノ故ヲ以テ延會トナリタルモノナレハ衆議院規則ニ依リ今日ノ日程第一ニ於テハ當然自己カ該質問ノ趣旨辯明ヲ繼續スヘキモノナリ然ルニ今日ノ日程第一ニ其ノ掲載ナシ議長ハ如何ナル規則ニ依ラレタルモノナルカトノ質疑ニ對シ議長(島田三郎君)ハ該條文ハ前ニ議事ヲ中止シテ其ノ發言ヲ終ラサル議員ハ其ノ問題ノ議題ニ上リタル特別ニ許可ヲ得ルヲ要セス又發言ノ順序ノ上ニ於テモ他ノ議員ニ先セラルルコトナクシテ其ノ發言ヲ繼續ス

一 總則 第四章 議長副議長假議長 第三節 議長席 (九一、九二)

ルヲ得ヘキヲ意味スサレハ日程ニ上リ其ノ問題ノ議セラルル時ニ非サレハ發言繼續ノ既得權アルコトナシ又質問ハ火曜日ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ本日ハ質問ノ議事ヲ開カス故ニ伊東君ハ來ル火曜日ノ質問ノ際發言ノ繼續ヲ爲スヲ得ヘキモ今日之ヲ爲スヲ得スト答ヘ之ニ對シ伊東君ハ同條ヲ議長ノ如ク解セムニハ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ云々ト云フ法條中更ニノ次ニ「其ノ」文字無カルヘカラス且議長ハ質問ハ慣例ニ依リ火曜日ニ爲スヘキモノナリトノコトナレトモ規則ハ慣例ヨリモ之ヲ重セサルヘカラス從テ今議事ノ開カレタルハ即チ同條ノ所謂更ニ討論ヲ始ムルトキニ該當スルモノナレハ自己ニ於テ發言繼續ノ權アリト主張ス更ニ議長ハ「討論ヲ始ムルトキニ於テ」ト云フ所ノ「討論」ノ上ニ「其ノ」ト云フ文字ガアレバ宜シイト云フコトデアリマスガ、他ノ文例ニモ左様ニ文體ヲ作ッタモノハ議事規則ノ中ニアリマセヌ、ソレデ前ノ討論ヲ始ムル時ニハ無論前ノ發言ヲ繼續スルト云フノガ百五條(改正第九條)ノ精神デアリマス更ニ斯様ナル權力ニ依ッテ議長ハ之ヲ決定致シマス、第十七條(改正第二十二條)ニ「議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス」議長ハ斯様ニ決シマシタ」ト答ヘ伊東君ハ「ソレナラ服從致シマセウ」ト述ヘタリ

第四節 假議長

九三 議長副議長俱ニ故障アリタルニ依リ假議長ヲ選舉ス

議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘキハ議院法ニ明定スル所ナルモ從來之カ選舉ニ關スル法規欠缺シ且未タ假議長ヲ選舉シタル實例ナカリシカ第五十回議會ニ於テ衆議院規則改正ノ際假議長選舉ニ關スル法規制定セラレ第五十二回議會ニ於テ始テ適用セラル

第五十二回議會 昭和二年三月二十五日ノ本會議當日議長(粕谷義三君)副議長(小泉又次郎君)

共ニ故障アリテ出席ナカリシカハ開會劈頭年長者加藤政之助君ハ議長席ニ著キ「本日ハ議長副議長共ニ御出席ガアリマセヌ仍テ議長副議長共ニ故障アル場合ト致シマシテ茲ニ本院ハ議院法第十四條ニ依リ假議長ヲ選舉致シテ議長ノ職務ヲ執行セシメネバナリマセヌ就キマシテハ衆議院規則第二十六條ニ依リ不肖私ガ出席議員中ノ年長者タル故ヲ以テ假議長ノ選舉ノ手續ヲ行ヒマス」ト告ケ其ノ選舉ヲ行ヒタル結果森田茂君當選セリ斯クテ加藤政之助君ハ「……假議長ニハ森田茂君ガ當選セラレマシタニ依リ私ハ假議長ニ席ヲ御譲リ致シテ退席致シマス」ト告ケ森田茂君ト交替シ森田君ハ假議長トシテ議事ヲ進行セリ

九四 假議長ノ選舉ヲ行フニ當リ全院委員長不在ノ爲出席年長者議長ノ職務ヲ行フ

第五十二回議會 昭和二年三月二十五日議長副議長俱ニ出席ナク議院法第十四條ニ依リ假議長ノ選舉ヲ行フニ當リ全院委員長亦出席ナカリシカハ衆議院規則第二十六條ニ依リ出席年長者加藤政之助君議長席ニ著キ議長ノ職務ヲ行ヒ假議長ノ選舉ヲ行ヒタリ

九五 假議長ノ許ニ議長候補者及副議長候補者選舉ヲ行フ

第五十二回議會 昭和二年三月二十五日ノ本會議ニ於テ政府提出保險業法中改正法律案ノ會議ヲ了リタル際假議長(森田茂君)ハ「諸君只今粕谷議長小泉副議長ノ辭職ガ御勅許ニナリマシタ仍テ是ヨリ議長及副議長候補者ノ選舉ヲ行ヒマス……」ト告ケ右選舉ノ手續ヲ行ヒタリ

九六 假議長ヨリ議長副議長候補者ヲ奏上ス

第五十二回議會 昭和二年三月二十五日議長候補者及副議長候補者ノ選舉ヲ行ヒ同日假議長ヨリ其ノ候補者ヲ奏上セリ

第五章 議員

第一節 應召、當選證書ノ對照、入場及紹介

九七 議員ハ總選舉後ノ議會ノ召集日ニ於テ當選證書ノ對照ヲ受ク

召集日ニ參院セサル者ハ初テ參院シタルトキ當選證書ノ對照ヲ受ク

總選舉後ノ議會ノ召集日ニ應召シタル議員ハ當日事務局ニ於テ當選證書ノ對照ヲ受ク

召集日以後ニ應召シタル者ハ其ノ初テ參院シタルトキ又其ノ會期ニ應召セス次ノ會期ニ應召シタル者ハ其ノ應召ノ際孰レモ當選證書ノ對照ヲ受ク即チ第十一回總選舉以後ニ於ケル第二十九回(臨時)議會召集ノ際海外旅行、病氣、忌引等ニ依リ參院セサル六名ハ次ノ會期ニ應召シテ當選證書ノ對照ヲ受ケタリ第三十六回議會以後同一ノ事例アリ

參看 一〇三號

九八 補充又ハ補闕當選シタル議員ハ其ノ初テ參院シタルトキ當選證書ノ對照ヲ受ク

第四十四回議會ニ於テ北海道廳第八區選出大久保寅吉君當選無効ニ依リ其ノ補充淺川浩君、第四十八回議會ニ於テ福岡縣第四區選出鮎川盛貞君辭職ニ依リ其ノ補闕坂井大輔君ノ如キ孰レモ初テ參院シタル際當選證書ノ對照ヲ受ケタリ每會期此ノ例尠カラス

九九 召集當日當選證書ノ對照ヲ經タル議員ノ員數ハ之ヲ議場ニ報告スルモ其ノ氏名ハ報告セス

總選舉後第一任期ノ召集當日參院シテ當選證書ノ對照ヲ經タル議員ハ幾名ナルコトヲ議場ニ報告スルモ其ノ氏名ハ之ヲ報告セス

一〇〇 初テ參院シタル議員當選證書ヲ携帯セサルトキハ當選者タル證明ヲ爲サシメタル後入場ヲ許可ス

從來當選證書ヲ携帯セサル議員ノ入場ニ付テハ其ノ當選ヲ證明セル知事ノ電報若ハ同縣選出議員ノ證明アルモノト雖證明ナキ者ト同シク院議ニ諮ヒ之ヲ許可シタリシモ第十七回議會以來ハ此等

ノ證明アルトキハ院議ニ諮フコトナク之ヲ許可スルノ例トナレリ

一〇一 當選證書ノ對照ハ停會中ト雖之ヲ行フ

當選證書ノ對照ハ議院事務局ノ事務ニ屬スルヲ以テ停會中ニ於テモ參院者ニ對シ其ノ手續ヲ行フ即チ第三十回議會ニ於テ停會中(大正二年二月四日、九日)召集ニ應シテ參院セル議員アリシニ書記官ハ衆議院規則第二條ニ依リ當選證書ノ對照ヲ爲シタリ

一〇二 補充又ハ補闕當選シタル議員初テ入場シタルトキハ議長之ヲ議院ニ紹介ス

總選舉後ノ議會ノ召集ニ應シタル議員ハ席次表ヲ配付シ一々紹介スルコトナキモ補充又ハ補闕議員初テ入場ノ際ハ議長之ヲ議院ニ紹介ス即チ第四回議會明治二十五年十一月二十五日議長(星亨君)ハ「諸君ニ御報道致シマスコトハ補闕選舉ニナリ又ハ當選訴訟ノ結果ニ依リテ新議員ガ選出セラレマシタニ就テハ其諸君ヲ紹介致シマス」ト宣告シ新ニ參院シタル議員ノ議席番號選舉區及氏

名ヲ呼ヒ新議員ハ起立シ他ノ議員ハ拍手之ヲ迎ヘタリ爾來之ヲ例トス而シテ近時ハ前議會ニ議席ヲ有シタル者ハ其ノ紹介ヲ省略セリ

紹介ノ時期ニ關シテハ初テ入場シタル日ノ諸般ノ報告前ナルヲ例ト爲スモ報告後又ハ會議中若ハ選舉中著席シタルトキハ其ノ著席ノ際之ヲ爲セリ

一〇三 保釋中ノ議員召集ニ應ス

刑事被告人トナリ保釋中ナリシモ召集ニ應シ且引續キ會議ニ出席シタル者第二回議會一名、第十回議會二名、第二十回(臨時)及第二十四回議會各一名、第二十五回議會二名、第二十九回議會三名、第二十九回及第四十三回議會各一名、第四十九回議會二名、第五十二回議會一名アリ但シ第十六回議會ノ二名、第二十五回議會ノ内一名、第五十二回議會ノ一名ハ召集ニ應シタルノミ

第二節 請暇、忌服及闕席

一〇四 一週間以上ノ請暇ト雖休會中ハ議長之ヲ許可ス

議院法第八一條ニ依リ議員ノ請暇一週間ヲ超ユルモノハ議院ノ許可ヲ要スルモ第十回議會明治三十年一月十二日 皇太后陛下御登遐ノ爲七日間休會シタルトキ議長(鳩山和夫君)ハ「請暇ノ申出ガ大分ゴザイマスガ是ハ休會中ハ議長ニ於テ取計ヲ置イテ御異議ガゴザイマセヌカ」ト諮ヒ異議ナカリシヲ以テ休會中ハ議長之ヲ許可シタリ爾來之ヲ例トス

又第二十三回議會明治四十年一月二十九日議長(杉田定一君)ハ「從來休會中一週間以上ノ請暇ノ申出ノ際ニハ議長ニ於テ之ヲ許可スルノ例デアリマシタ、所デ議案ノ都合ニ依リマシテ本會ヲ開カズ自然休會シタ場合モ開會ヲ待ツテ御諮リ申ス暇ガアリマセヌカラ議長ハ休會中許可スルノ例ニ依テ即チ前申述べタ請暇ノ申出ヲ許可致シタノデアリマス、將來斯様ナル場合ニ於テハ即チ休會中又ハ議案ノ都合ニ依リ自然休會トナツタ場合ニ請暇願ガ出マシタルニ於テ、ヤハリ前同様議長ニ於テ許可ヲ致シテ御差支ガゴザイマセヌカ」ト諮ヒ異議ナカリシヲ以テ自然休會ノ場合ニ於テモ議長之ヲ許可シタリ爾來之ヲ例トス

一〇五 請暇ハ其ノ理由正當ト認メサルトキハ之ヲ許可セス

第二十二回議會 明治三十九年一月二十五日議長(杉田定一君)ハ山下重威君ヨリ公務多忙ニ付
三週間ノ請暇願出アリタルニ對シ之ヲ許可スヘキヤヲ院議ニ諮ヘルニ異議アリ更ニ起立ヲ以
テ採決セルニ起立者無ク依テ許可ヲ與ヘサリキ

一〇六 請暇ハ議事日程ノ會議前若ハ散會ニ際シ之ヲ院議ニ諮フ

請暇ノ許否ヲ院議ニ諮フハ會議ノ始(停會明ノ會議ニ於テ亦然リ)第四回議會明治二十六年二月七日ニ其ノ事例アリ)若ハ散會ノ際ナルヲ例トシ會テ議事日程ニ掲載シタルコトナク又會議中之ヲ諮フコトアルモ議事日程ヲ變更セサルヲ例トス(第一回議會明治二十三年十二月八日議事日程ヲ變更シタルノ一例アリ)

參看 一三四號

一〇七 忌服ノ届出アルトキハ請暇ヲ要セス

第一回議會ニ於テ濱岡光哲君忌服届ヲ差出シタルトキ議長(中島信行君)ハ請暇ト同一ニ見ルヘキ

モノニ非ストシ之ヲ院議ニ諮フコトナク其ノ闕席ヲ認許シタリ忌服届ニ付テハ爾來此ノ例ニ依レ

一〇八 召集ニ應シ難キトキハ應召延期ノ届出ヲ爲ス

召集應セサル議員ハ從來本會議日毎ニ缺席届書ヲ差出サシメタリシモ右ハ議院法第九十九條ノ主旨ニ依リ召集ニ應シ難キ事由ヲ届出ツルヲ至當ナリトシ第五十二回議會ニ於テハ病氣療養中ノ議員(濱口雄幸君、吉田眞策君、石川長右衛門君)ヨリハ病氣快癒次第應召致スヘキ旨ノ應召延期届ヲ差出サレタリ爾來此例ニ依レリ

第三節 辭職、退職及除名

一〇九 議員ノ辭職願出ニ對シテハ議長ヨリ留職ノ勸告ヲ爲スヲ例トス但シ
特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

辭職ヲ願出ツル議員アルトキハ議長ヨリ先ツ其ノ議員ニ對シ書面若ハ口頭ヲ以テ留職勸告ヲ爲スヲ例トス然レトモ議長ニ於テ任官又ハ特別ノ事情ノ爲留職スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ

其ノ手續ヲ省略スルコト尠シトセス即チ會禰荒助君(第四回議會閉會後)星亨君(第十回議會)小倉
信近君(第十四回議會)(以上任官ノ場合)角田眞平君(第九回議會)植木致一君、喜多川孝經君(第十
五回議會閉會後)秋山定輔君(第二十回議會)武藤金吉君(第二十四回議會)田坂初太郎君(第二十五
回議會)臼井哲夫君、横井時雄君、栗原亮一君、村松愛藏君、秋山一裕君、青木新治郎君、森本駿君、小
澤愛次郎君、横田虎彦君、荻野芳藏君、立川雲平君(第二十五回議會閉會後)中村舜次郎君(第二十六
回議會閉會後)桑原伊十郎君、松本剛吉君、湯淺凡平君(第二十九回議會閉會後)山田禎三郎君(第三
十回議會閉會後)内山吉太君(第三十一回議會閉會後)守山又三君(第三十二回議會閉會後)難波作
之進君(第四十八回議會)(以上特別ノ事情アリシ場合)ノ事例ノ如キ是ナリ

一一〇 議員院議ヲ尊重シテ辭表ヲ提出ス

第二十回(臨時)議會 明治三十七年三月二十六日議院ニ於テ秋山定輔君ニ關スル調査委員會ノ
報告ヲ是認スルヤ小河源一君ヨリ同君ノ處決ヲ促スノ動議ヲ提出シ大岡育造君ハ「衆議院ハ
議員秋山定輔君ニ同君カ主宰スルニ六新報本月十六日發兌内閣彈劾問題ニ對スル論說ニ關シ
自カラ處決セラレムコトヲ望ム」トノ修正動議ヲ提出セルニ秋山定輔君ハ右修正動議本院ニ

容レラルルニ於テハ直ニ處決スル旨ヲ述ヘ院議之ヲ可決シタルヲ以テ同君ハ院議ヲ尊重シ翌
日辭表ヲ提出シタリ

一一一 議員其ノ辭職願ニ對シ理由ヲ述フ

第二十七回議會 明治四十四年二月十六日會議ノ始ニ於テ議長(長谷場純孝君)ハ藤澤元造君ヨ
リ辭職願ヲ提出シタルコトヲ報告シ次テ「是ニ付テ此辭職ノ理由ヲ一應辯明シ置キタイト云
フコトデアリマスカラ藤澤君ニ發言ヲ許シマス」ト告ケ同君ハ辭職願ノ理由ヲ述ヘタリ

一二二 當選訴訟中ノ故ヲ以テ議員ノ辭職ヲ許可セス

第一回議會閉會ノ後松山守善君辭表ヲ差出シタルトキ同君ハ當選訴訟ノ被告トナリ未タ其ノ訴訟
ノ判定前ナルヲ以テ議長(中島信行君)ハ左ノ理由ニ依リ其ノ辭職ヲ許可セザリキ
一 訴訟ノ目的タル議員ノ選舉確定裁判ノ效果ニ依リ無効トナルトキハ前キニ次點者ト看做サ
レタル者ハ直ニ正當ノ當選人トナルヘシ然ルニ訴訟中其ノ辭職ヲ許可スルトキハ假令其ノ實

辭職者ノ選舉無効トナルヘキ場合ト雖普通ノ議員其ノ職ヲ辭シタルトキト同一ニ看做サルルヲ以テ補闕選舉ヲ行ハサルヲ得ス從テ正當ニ最多數ヲ得タル者ハ直ニ當選人トナル能ハス故ニ其ノ正當ナル權利ヲ害スルニ至ルヘシ

二 訴訟中被告議員ノ辭職ヲ許ストキハ議院ハ暗ニ其ノ選舉ヲ有效ト認ムルニ均シキヲ以テ原告人ハ現ニ補闕選舉ノ施行アルニ拘ハラズ依然其ノ訴訟ヲ繼續スルコトアルヘシ若シ此ノ場合ニ於テ被告ノ選舉無効ナルノ判決アルトキハ一方ニ於テ原告人ハ正當ニ最多數ノ投票ヲ得テ議員タルノ權アリト主張シ他ノ一方ニ於テハ新ニ當選シタル者ハ補闕選舉ニ依リ議員タルノ權利ヲ得タリト主張シ紛騷ヲ醸スノ恐アリ加之議院法第七十九條ニ「裁判所ニ於テ當選訴訟ノ手續ヲナシタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルヲ得ス」トアルヲ以テ議院ハ自ラ議員ノ資格ヲ決定スルノ權アリト雖モ當選訴訟ノ起ルトキハ其權利ヲ行フコトヲ得ス是レ畢竟議院ノ決定ト裁判所ノ判定ト相牴觸スルヲ防止センカ爲メナリ勿論辭職ノ認可ト資格ノ決定トハ同一ノ事件ニアラスト雖モ其ノ議員ヲ進退スルハ一ナリ然ルニ審査ニ依テ議員ノ資格ヲ決定スル能ハサルトキ辭職ノ認可ニ由リ間接ニ暗黙ニ資格ノ有效ヲ承認スルハ同條ノ精神ニ適合セサルモノニ似タリ

三 訴訟中被告議員ノ辭職ヲ許可スル慣例ヲ作ルトキハ將來詐僞恐喝暴行又ハ賄賂等卑劣ノ手段ヲ以テ多數ノ投票ヲ得當選訴訟ノ起ルニ及ヒ種々ノ口實ヲ設ケテ裁判ヲ延期シ以テ一會期間列席ノ榮ヲ貪リ閉會ノ後突然其ノ職ヲ辭シテ一時ノ名譽ヲ僥倖セント欲スルノ徒或ハ續々現出スルナキヲ保セサルナリ苟モ斯ノ如クナルトキハ不正ノ競争ヲ獎勵シ貴重ナル議員ノ職務ヲ翫弄シ神聖ナル議會ヲ蔑如シ社會ノ大害ヲ醸スノ惡慣例ヲ貽スモ未タ知ルヘカラス是レ決シテ詐欺ヲ豫防シ議會ノ尊嚴ヲ保持スル所以ニアラサルナリ

第三十七回議會閉會後倉光藤太君辭表ヲ差出シタルニ議長(島田二郎君)ハ左ノ理由ニ依リ其ノ辭職ヲ許可セサリキ

本件ニ於テ被告議員若シ選舉法違反事件ニ付有罪ノ判決確定センカ選舉法第七十條ニヨリ次點者ハ當然當選者タルヘキニ拘ラス辭職ヲ許可シタルカ爲ニ更ニ補闕選舉ヲ行ヒ次點者ノ權利ヲ奪フコトトナルヘシ元來選舉法ニ違反シテ當選シタル者ハ初メヨリ其ノ當選ハ無効ニシテ次點者ハ當然ノ當選者ナルカ故ニ法律上ノ當選者ヲ差置キ更ニ補闕選舉ヲ行フカ如キハ矛盾シタル處置ト云ハサルヲ得ス

議員ノ辭職ハ退職ノ一ナリト云ヒ得ヘキモ其ノ自由ニ非ス議院法第八十三條ニ於テ「衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得」トアリテ其ノ反對ノ解釋ヨリ議員ハ辭職ヲ申出ツルコトヲ得ルモ其ノ許否ハ全ク議院ノ權能ニ屬シ若シ許可セラレサルモ之ヲ争フコトヲ得サルモノ

先例ニ於テ病氣其ノ他ノ理由ニヨリ辭職ヲ許可セラレタルコト枚擧ニ違アラスト雖選舉法違反事件ノ被告人ニ對シ而モ閉會中ニ許可シタル例ナク却テ第一回議會ニ於テ辭職願ニ對シ當選訴訟中ノ故ヲ以テ其ノ許否ヲ猶豫シタルコトアルノミ

一一三 資格審査中ノ故ヲ以テ辭職ノ許否ヲ延期ス

第二十五回議會 明治四十二年一月二十一日刑ノ宣告ヲ受ケ本院ニ於テ資格審査ニ付セラレタル田坂初太郎君ヨリ辭表ヲ提出セルニ依リ議長(長谷場純孝君)ハ其ノ許否ヲ院議ニ諮ヘルニ大岡育造君ハ「既ニ資格ニ對シテ異議ノ申立ガアル件デアリマスカラ今日ハ此議事ヲ御延バシニナルヤウニ希望シマス」トノ動議ヲ提出シ花井卓藏君ハ「資格調査ノ問題モアルカラト云フコトノナイ意味ニ於テ議事延期ニ賛成致シマス」ト述ヘ院議大岡君ノ動議ヲ可決シタリ
參看 一一八號乃至一二二號

一一四 辭職ノ許否ハ議事日程ノ會議前院議ニ諮フヲ例トス

議員辭職ヲ願出ツルトキハ開會中ニ在リテハ議長ハ議事日程ノ會議ニ入ルノ前之ヲ院議ニ諮フヲ例トス第一回乃至第五十四回議會ニ於テ開會中ノ辭職願出十八件アリ内二件即チ第一回議會(明治二十四年二月二十七日)中江篤介君、第二十五回議會(明治四十二年二月二十三日)田坂初太郎君辭職ノ件ヲ除クノ外孰レモ議事日程ニ掲載セス概ネ會議ノ初ニ於テ其ノ許否ヲ院議ニ諮ヘリ

參看 二三四號

一一五 議員被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

議員ニシテ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレ又ハ貴族院議員ニ任セラレ若ハ選舉法ニ記載シタル被選資格ヲ失ヒタルトキハ議院法第七十六條及第七十七條ノ規定ニ依リ退職者トス

議第七六條
議第七七條

一一六 議員ノ資格ニ關シ判決アリタル場合事務局ハ其ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ長ヨリ之カ通牒ヲ受ク

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニシテ開會中ナルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ議長ニ送付スヘキ規定アルモ閉會中ナルカ又ハ其ノ他議員ノ資格ニ關スル判決ニ付テハ何等ノ規定ナキニ依リ第二十五回議會ニ於テ書記官長ノ請求ニ依リ爾來議員ノ失格ヲ來スヘキ確定裁判アリタルトキハ其ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ長ヨリ書記官長宛通報ヲ受クルコトナレリ(明治四十二年三月五日平沼司法省民刑局長通牒、明治四十三年十二月九日同上局長通牒、大正八年十二月二十四日司法次官通牒)

一一七 除名ノ決議ハ之ヲ本人ニ通知ス

第五回議會 明治二十六年十二月十三日祕密會議ニ於テ星亨君ニ對シ除名ノ決議ヲ爲シタルトキ副議長(楠本正隆君)ハ直ニ之ヲ公開議場ニ報告シ即日同君ニ決議ノ旨ヲ通知セリ又同君ハ議長ノ職ニ在リタルヲ以テ内閣總理大臣ニ右決議ノ執奏ヲ請ヒタリ

參看 五八八號

第四節 資格審査

一一八 議員ノ資格ニ對スル異議申立書ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ資格審査委員ニ付ス

議員ノ資格ニ付異議ノ申立アリタルトキハ先ツ資格審査委員ノ選舉ヲ行ヒ直ニ其ノ申立書ヲ委員ニ付スルヲ例トス但シ第十九回議會明治三十六年十二月五日矢島浦太郎君外四名ヨリ東條良平君外二名ノ議員資格ニ付異議ヲ申立テタルトキハ委員ヲ設クル前解散セラレタル爲審査ニ付スルニ至ラサリキ

一一九 異議申立者當該事件ノ資格審査委員ヲ辭任ス

第二十五回議會 明治四十二年一月二十三日花井卓藏君ハ「資格審査委員ノ一人……鶴澤總明

君ハ田坂初太郎君、高野孟矩君ノ資格ニ關スル異議申立人デアアル、異議申立人ハ取リモ直サズ原告人デアアル、原告人ガ資格委員タル即チ裁判權ヲ有スルト同一ナル程ノ權力ヲ有スルモノヲ兼得ラルベキモノナルカ否ヤ……ト質疑シ議長(長谷場純孝君)ハ「此事ハ鶴澤君カラ此委員ヲ辭スルト云フ辭表ガ出テ居リマスカラ……後刻御諮リヲ致ス積リデゴザイマス」ト答ヘ後「議員資格審査委員鶴澤總明君ヨリ異議申立者デアアルニヨリ委員ヲ辭スルノ申出ガアリマシタ許可シテ差支アリマセヌカ」ト諮ヒ異議ナク之ヲ許可シタリ

一一〇 異議申立書ニ對スル答辯書ノ差出期日ニハ時間ヲ附ス

議長ニ於テ異議申立書ヲ受理シタルトキハ直ニ其ノ副本ヲ被申立議員ニ送達シ期日ヲ定メテ答辯書ヲ差出サシム其ノ期日ニハ時間ヲ附スルヲ例トス

一一一 資格審査期日ハ議長之ヲ定ム

被申立議員答辯書ヲ議長ニ差出シタルトキハ議長ハ之ヲ資格審査委員ニ付シ時日ヲ期シテ審査セ

シム而シテ其ノ審査期日ハ場合ニ依リ長短アリ左ノ如シ

第一回議會 二田是儀君及赤松新右衛門君資格審査ノ場合 明治二十三年十二月二十日ノ會議

ニ於テ奈須川光實君ハ本件ノ審査期日ハ未タ定メラレサルニ依リ其ノ期日ヲ本月二十四日ト

爲スヘシトノ動議ヲ提出セルニ議長(中島信行君)ハ「其ノ事……衆議院規則第六十八條(改

正第七十條)ニ議長ハ……委員ニ付シ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシムヘシトアルハ是ハ議長ノ

方デ定メル積リデアリマス左様御承知アリタイ」ト告ケ後其ノ審査ノ期日ヲ二十五日迄トセ

リ

第四回議會 西山志澄君資格審査ノ場合 明治二十六年二月十四日答辯書ヲ委員ニ付シ其ノ審

査ヲ同月二十日迄トセリ

第二十一回議會 佐竹作太郎君外一名資格審査ノ場合 明治三十八年一月三十一日答辯書ヲ委

員ニ付シ其ノ審査ヲ二月十日迄トセリ

第二十五回議會 田坂初太郎君、上出長次郎君、高野孟矩君資格審査ノ場合 明治四十二年二月

一日、五日答辯書ヲ委員ニ付シ孰レモ其ノ審査ヲ二月二十日迄トセリ

第二十六回議會 中村舜次郎君資格審査ノ場合 明治四十三年一月二十六日答辯書ヲ委員ニ付

シ其ノ審査ヲ二月四日迄トセリ

然ルニ動議ニ依リ審査期日ヲ決シタルコトアリ

第十八回議會 明治三十六年六月四日(會期終了日)高野孟矩君資格審査ノ場合ニ於テハ委員選舉ヲ行フニ際シ恆松隆慶君ハ其ノ選舉方法ヲ述ヘ且委員ハ本日午後六時迄ニ其ノ審査ノ報告ヲ爲スヘシトノ動議ヲ提出シ島田三郎君ハ時間ヲ限ルニ反對シタルモ院議多數ヲ以テ此ノ動議ヲ可決シタリ(答辯書ハ此ノ日午前中ニ到着セリ)

一一二二 議院ハ議員ノ被選資格ヲ審査スルモ選舉手續及投票ノ有效無效ヲ審査セス

議院ハ議員ノ被選資格ニ關シテハ之ヲ審査スルモ選舉ノ手續及投票ノ效力ニ關シテハ之カ審査ヲ爲サス即チ西山志澄君(第四回議會)、高野孟矩君(第十八回及第二十五回議會)、佐竹作太郎君、根津嘉一郎君(第二十一回議會)、田坂初太郎君、上出長次郎君(第二十五回議會)、中村舜次郎君(第二十六回議會)ニ對シテハ被選資格ニ關セルヲ以テ之ヲ審査シタルモ(内第十八回議會ニ於ケル高野君及第二十五回議會ニ於ケル田坂君ノ議員資格ニ付テハ委員會ノ審査ヲ終レルモ一ハ院議ニ付スルニ至ラス一ハ院議ニ付スル前辭職許可ニ依リ消滅シ他ハ第二十五回議會ニ於ケル高野君ノ無資

格トナレル外有資格ト決定セラル)ニ田是儀君、赤松新右衛門君(第一回議會)ニ對シテハ選舉ノ手續及投票ノ效力ニ關セルヲ以テ審査ヲ爲サザリキ

參看 附錄一〇ノ一

第五節 補闕

一一三三 議員ニ闕員ヲ生スルトキハ議長ハ其ノ補闕選舉ヲ請求スルモ任期滿

限ニ迫レルトキハ此ノ限ニ在ラス

辭職退職死去ニ依リ議員ニ闕員ヲ生シタル場合ハ議長ハ必ス補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求スルヲ例トス但シ第十六回議會閉會後明治三十五年三月二十八日横山富次郎君及利光鶴松君ノ資格消滅ニ因リ、又同年七月十二日前川楨造君同月十八日津野常君死亡ニ因リ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ孰レモ任期滿限(八月九日)ニ迫レルノ故ヲ以テ議長(片岡健吉君)ハ補闕選舉ノ請求ヲ爲サザリキ

又第二十八回議會明治四十五年三月十一日久保伊一郎君ノ資格消滅セルトキ議員ノ任期滿限(五

月十四日)ニ近キニ依リ三月十六日議長(大岡育造君)ハ之カ補闕選舉ノ請求ニ關シテ各派協議會ヲ開キタルニ協議ノ結果之ヲ請求セサルコトナレリ尙同會期閉會後即チ四月二日杉田定一君貴族院議員ニ任命、同月十日關矢橋太郎君、五月十二日丸山孝一郎君死亡ノ爲闕員ヲ生シタルモ補闕選舉ノ請求ヲ爲サザリキ

一一四 衆議院議員選舉法第七十八條但書ノ場合ニ議長補闕選舉ヲ請求ス

議員ノ任期滿了セルモ開會中ノ故ヲ以テ閉會ニ至ル迄在任セル場合ニ於テ而モ其ノ會期八十數日ヲ以テ終了セムトスルニ際シ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ之カ補闕選舉ヲ請求スヘキモノナルヤ否第二十四回議會明治四十一年三月十日武藤金吉君辭職シタルトキハ恰モ之ニ該當シ其ノ會期ノ終了迄十有六日ヲ餘スノミ而シテ補闕選舉ニ要スル日時ヲ法律ノ許ス範圍内ニ於テ最モ短縮シテ推測スルトキハ十四日ヲ以テ足レリトスヘキモ從來ノ實例ニ徵スレハ其ノ最短期ハ補闕選舉ノ請求ヨリ當選者ノ通牒マテ二十一日ヲ要セリ依リテ此ノ際補闕選舉ヲ請求スルモ補闕當選者ノ參院ヲ見ルコトハ實際不能ナルニ依リ其ノ手續ヲ爲スノ餘地ナキカ如シ然ルニ議院ハ同月十四日本件ニ關シ調査委員ヲ設ケ同月二十四日ヲ以テ委員會ノ報告(本件ノ場合ニ於テハ議長ハ内務大臣ニ

通知シ補闕選舉ノ請求ヲ爲スヘキモノト議決ス)ヲ是認シタルニ依リ議長ハ直ニ内務大臣ニ補闕選舉ヲ請求シタリ

參看 三三六號、三七二號

一一五 總選舉後議會召集日前議員ニ闕員ヲ生スルトキハ書記官長ヨリ其ノ補闕選舉ヲ請求ス

任期限ニ達シタル場合ノ總選舉後議會召集前ニ議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議院法第十五條ニ依ル議長又ハ副議長ヨリ其ノ補闕請求ヲ爲スモ其ノ他ノ場合總選舉後議會召集日前ニ議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ未タ議長又ハ副議長ノ就任ナキヲ以テ書記官長ヨリ之カ請求ヲ爲ササルヘカラス但シ大正九年六月二十八日奈良縣第二區選出議員森岡京次郎君ノ逝去セラレタル場合ハ時恰モ第四十三回議會召集日前日ナリシヲ以テ議長ノ就任ヲ俟ツテ補闕選舉ヲ請求セリ

第一回議會召集詔書公布前明治二十三年九月五日埼玉縣第三區選出議員間中進之君逝去ニ付九月十日附ヲ以テ又明治二十三年十月二日廣島縣第九區選出議員三浦義建君逝去ニ付十月十五日(召集日前)附ヲ以テ孰レモ會禰書記官長ヨリ議院法第八十四條(當時議院法ハ公布セラレタルモ未タ實施セラレス公布明治二十

二年十二月十一日、施行期日貴族院及衆議院成立ノ日）ニ依リ其ノ補闕ヲ内務大臣ニ請求セリ

同議會召集令公布後召集日前明治二十三年十月三十日富山縣第一區選出議員磯部四郎君判事ニ任セラレタルニ付十月三十一日附ヲ以テ會禰書記官長ヨリ議院法第八十四條ニ依リ其ノ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求セリ

第二回議會解散（明治二十四年十二月二十五日）セラレ明治二十五年二月十五日ノ總選舉後次ノ議會召集詔書公布前即チ三月十三日大分縣第六區選出議員是恒眞楫君逝去ニ付水野書記官長ハ三月二十五日附ヲ以テ議院法第八十四條ニ依リ其ノ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求セリ

第十七回議會解散（明治三十五年十二月二十八日）セラレ明治三十六年三月一日ノ總選舉後次ノ議會召集日前即チ三月三十日長崎縣郡部選出議員西村規矩君逝去ニ付林田書記官長ハ四月六日附ヲ以テ議院法第八十四條ニ依リ其ノ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求セリ

第三十五回議會解散（大正三年十二月二十五日）セラレ大正四年三月二十五日ノ總選舉後次ノ議會召集日前即チ四月二十五日静岡縣郡部選出議員村上太三郎君逝去ニ付林田書記官長ハ翌二月十六日附ヲ以テ議院法第八十四條ニ依リ其ノ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求セリ

第五十四回議會解散（昭和三年一月二十一日）セラレ昭和三年二月二十日總選舉後次ノ議會召集詔書公布前即チ二月二十八日兵庫縣第二區選出議員山邑太三郎君逝去ニ付中村書記官長ハ三月

月七日附ヲ以テ議院法第八十四條ニ依リ其ノ補闕選舉ヲ内務大臣ニ請求セリ

一二六 選舉ニ關スル訴訟ノ結果又ハ選舉ニ關スル罰則ニ依リ當選無効トナリタル場合ニハ其ノ補闕選舉ヲ請求セス

選舉ニ關スル訴訟ノ結果選舉無効若ハ當選無効トナリ又ハ選舉ニ關スル罰則ニ依リ當選無効トナリタル場合ニ於ケル補闕選舉ノ請求ニ關シテハ第二十五回議會閉會後明治四十二年六月十六日林田書記官長ヨリ一木内務次官ニ照會ノ上之カ請求ヲ要セサルモノト決セリ爾來選舉法改正セララルモ此ノ例ニ依ル

參看 附錄一〇ノ三

第六節 逮捕

一二七 會期前ニ逮捕セラレ開會後仍勾留中ノ議員ニ關スル動議並政府ノ覆

第一回議會 明治二十三年十二月四日末松三郎君ヨリ衆議院議員ニシテ會期前ニ逮捕セラレ開會ノ後仍勾留中ノ者ハ衆議院ノ許諾アルニ非サレハ引續キ勾留スルコトヲ得ストノ動議ヲ提出シ直ニ委員ニ付託セラレ翌五日院議多數ヲ以テ之ヲ可決セリ依リテ議長(中島信行君)ハ即日此ノ決議ヲ司法大臣ニ通牒シタルニ之ニ對シ山田司法大臣ヨリ左ノ覆牒ニ接シタリ議院ハ直ニ委員ヲ設ケテ其ノ處分方法ヲ審査セシメ委員會ハ勅裁ヲ仰クノ外他ニ良法ナシトノ報告ヲ爲シタルモ議院ノ議決ヲ經ルニ至ラザリキ

司法大臣ノ覆牒(明治二十三年十二月四日)

本大臣ハ憲法ノ明文ニ從ヒ司法權ノ施行ヲ爲サシムルノ外已ニ著手シタル刑事訴追ヲ停止セシムルノ權ヲ有セス從テ他ノ權勢ノ諾否ニ因リ司法權ノ必要ナル處分ヲ張弛セシムルコト能ハス故ニ議會ノ議決ニ對シテ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ

第四十九回議會 大正十三年七月十五日横山勝太郎君ハ議員ノ特權ニ關スル質問書ヲ提出シ政府ハ將來會期前ヨリ拘留中ノ議員ハ議會ノ召集ニ依リ之ヲ釋放スルノ方針ナルヤ否ヲ問ヒタルニ横田司法大臣ハ「會期以前ニ逮捕シタル議員ニ對シテハ會期始ツテ以來ト雖司法權ノ發動ノ必要上已ムヲ得ナイ場合ニ於テハ之ヲ繼續スルモ差支ナキモノト判斷シテ居リマス」ト答

ヘタリ

參看 附錄一二ノ(四)

第六章 歳費及旅費

一二八 歳費ハ通常會ノ場合ハ前半期分(自七月至十二月)ヲ開院式ノ、後半期分(自一月至六月)ヲ閉院式ノ當日又ハ翌日支給セラレ、臨時會、憲法第四十五條ニ依レル議會ノ場合ハ其ノ當月分迄ヲ閉院式ノ當日又ハ翌日支給セララル

旅費ハ歳費ト共ニ支給セララル
議員ノ歳費ハ通常會ノ場合ハ開會ノ後三十日以内ニ其ノ前半期分ヲ、閉會ノ後七日以内ニ後半期分ヲ支給シ臨時會又ハ憲法第四十五條ニ依レル議會ノ場合ハ閉會後七日以内ニ當月分マテヲ支給セララルヘキ規定ナルヲ以テ概ネ開院式若ハ閉院式ノ當日又ハ翌日支給セララルヲ例トス
旅費ハ上京ト歸郷トニ分チ其ノ上京旅費ハ通常會ノ場合ハ開會ノ後三十日以内ニ歸郷旅費ハ閉會ノ後七日以内ニ歳費ト共ニ支給シ臨時會、憲法第四十五條ニ依レル議會ノ場合ハ歳費ト共ニ支給セララル而シテ外國ニ住居地ヲ有スル議員ハ國內ニ於ケル居所ヲ以テ住居地ト看做シ其ノ地ヨリノ旅費ヲ支給シ又國內ニ住居地、居所共ニ有セサル場合ハ初テ國內ニ入りタル地點ヨリ旅費ヲ支給スルコトナレリ

一二九 議員當選ノ時期ニ依リテハ歲費ノ後半期分ヲ前半期分ト共ニ受ク
議員ノ歲費ハ當選シタル月ヨリ之ヲ受クルモノナルヲ以テ其ノ當選ニシテ歲費ノ後半期ニ屬シ閉
會中ナルトキハ開會ノ始ニ於テ其ノ後半期ニ屬スル分ハ前半期分ト共ニ之ヲ受ク

一三〇 通常會、臨時會若ハ憲法第四十五條ニ依レル議會タルヲ問ハス歲費年
度中一度召集ニ應シタル議員ハ歲費ヲ受ク

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ニ依レハ歲費年度中召集セラレタルニ拘ラス全ク之
ニ應セサル者ニハ歲費ヲ支給セストアルヲ以テ議員ハ通常會ハ勿論臨時會タルト憲法第四十五條
ニ依レル議會タルトヲ問ハス歲費年度中一度ヒ召集ニ應スレハ其ノ歲費ヲ受クルモノトス

一三一 議員召集ニ應シタル後死亡シタルトキハ歲費ハ相續者ニ旅費ハ相續
者又ハ遺族ニ支給セラル

議員召集ニ應シタル後死亡シタルトキハ其ノ死亡ノ時期如何ヲ問ハス歲費全額ヲ相續人ニ支給セ

ラル而シテ此ノ場合ニ於テハ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ相續人又ハ遺族ニ支給セラル

一三二 議員召集日ノ前日迄ニ死亡シタルトキハ當月分迄ノ歲費ヲ受ク

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ニ議員召集セララルコトナクシテ死亡シタル場合ニ
於テハ其ノ當月分マテノ歲費ヲ支給スル旨ヲ規定ス故ニ議會召集詔書公布前タルト公布後タルト
ヲ問ハス議會召集日ノ前日マテニ死亡シタルトキハ其ノ當月分マテノ歲費ヲ支給セララルモノト
ス

參看 一三〇號、一三二號

一三三 歲費受領後辭職、退職、除名又ハ解散セラレタルトキハ其ノ翌月以後
ニ係ル歲費ハ之ヲ返戻セシム

議長副議長及議員歲費ヲ受領シタル後辭職シ退職者トナリ若ハ除名セラレタルトキ又ハ解散セラ
レタルトキハ其ノ當月分迄ヲ受クルモノナルニ依リ以上ノ場合ニ於テハ孰レモ其ノ翌月分ヨリ歲

費ノ返戻ヲ爲サシメタリ

選第七八條
第五條

一三四 衆議院議員選舉法第七十八條但書ノ場合ニ於テハ其ノ在任ノ月割ノ
歳費ヲ受ク

議員ノ任期ハ四箇年ヲ以テ本則トスルモ開會中其ノ任期滿限ニ達スル場合ニハ閉會ニ至ル迄尙在
任スルモノナルカ故ニ其ノ在任期間歳費ハ月割額ニテ之ヲ受ク第二十四回議會開會中明治四十
一年二月二十八日ヲ以テ議員ノ任期滿限ニ達シタルモ三月二十七日迄在任セルニ依リ其ノ月分ノ歳
費ヲ受ケタリ

歳第八條

一三五 任期滿限ノ月ニ於テ再選セラレタル議員ニハ其ノ月割ノ歳費ハ重複
支給セラレス

歳費ハ選舉ノ月ヨリ計算スト雖其ノ選舉ノ期日カ舊議員ノ任期滿限ノ月ト同一ナル場合ニ於テ再
ヒ選出セラレタル議員ニ對シテハ其ノ月割ノ歳費ハ重複支給セラレス即チ第七回總選舉ハ明治三

十五年八月十日、第十一回總選舉ハ同四十五年五月十五日ヲ以テ執行セラレ任期滿限ノ月ト同シ
カリシ場合ノ如キ是ナリ

第七章 委員

第一節 全院委員長ノ選舉

一三六 全院委員長ノ選舉ハ議事日程ニ掲ケ開院式ノ翌日午前十時ヨリ行フヲ例トス

全院委員長ノ選舉ハ第一回議會ニ定メラレタル議長副議長候補者選舉手續及投票點檢心得ニ準據シテ之ヲ行フヲ例トス而シテ其ノ選舉ハ必ス議事日程ニ掲ケ通例開院式ノ翌日午前十時(第七回(臨時)、第十回及第二十九回(臨時)議會ハ午前九時ヨリ)ヨリ之ヲ行フモ左ノ場合ニ於テハ此例ニ依ラサリキ

(一) 他ノ緊急議事ノ爲選舉ヲ延期シタル例

第五回議會 開院式ノ翌日(明治二十六年十一月二十九日)開議劈頭ニ安部井磐根君提出議長信任ニ關スル件院議ニ付セラレ翌二十日ハ中村彌六君ノ動議ニ依リ休會シ十二月一日ニ至リ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒタリ

(二) 年未年始ノ休會ノ爲選舉ヲ延期シタル例

第二十二回議會 開院式當日(明治三十八年十二月二十八日)議長(杉田定一君)ノ發議ニ依リ翌二十九日ヨリ三十九年一月二十日迄年末年始ノ爲休會トナリタルヲ以テ一月二十二日ニ至リ
全院委員長ノ選舉ヲ行ヒタリ第二十三回及第二十四回議會亦同シ

(三) 開院式當日選舉ヲ行ヒタル例

第二十回(臨時)議會 開院式當日(明治三十七年三月二十日)議長(松田正久君)ハ「例ニ依リマ
スレバ全院委員長ノ選舉及常任委員ノ選舉ハ開院式當日ニ於テ行フコトハアリマセヌガ今期
ノ議會ハ誠ニ短期デモゴザイマスカラ本日ハ引續イテ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ後ニ常任委員
ノ選舉ヲ行ヒタウゴザイマス」ト告ケ異議ナカリシヲ以テ直ニ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒタリ
第五十三回議會(臨時)議會亦同シ

(四) 開院式翌日午後ヨリ選舉ヲ行ヒタル例

第三十七回議會ハ大禮觀兵式御舉行ニ付議員參列セシ爲午後二時ヨリ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ
第四十三回(特別)議會ハ午後一時ヨリ之ヲ行ヒ第五十回議會ハ副議長病氣ノ爲議長ノ職務ヲ執
ル能ハス議長ハ開院式勅語奉答書捧呈ノ爲參内(午前十一時)ノ要アリ依テ休憩ヲ爲シ午後一時
二十九分再會捧呈ノ顛末ヲ報告シタル後作間耕逸君ノ動議ニ依リ更ニ休憩ヲ爲シ(此ノ間貴族院
改革促進ノ決議案提出ノ議アリ)午後六時五十五分ニ至リ三度開會シテ之ヲ行ヒ第五十二回議

會ハ奉悼上奏案起草ノ件小委員會開會ノ爲第五十四回議會ハ議長副議長共ニ 大正天皇御靈代
奉遷ノ儀ニ參列ノ爲就レモ午後一時ヨリ之ヲ行ヘリ

參看 二五九號

一三七 臨時會ニ於テ全院委員長ノ選舉手續ヲ省略ス

全院委員長ハ通常會ト臨時會タルトヲ問ハス每會期開會ノ始ニ選舉スヘキモノナルモ左ノ場合ハ前
議會ニ選舉セラレタル全院委員長ヲ本期議會ニ於テ選舉シタルモノト認メ其ノ選舉手續ヲ省略セリ
第三十二回(臨時)議會 開院式當日(大正三年五月五日)勅語奉答文議了後議長(奧繁三郎君)
ハ「例ニ依リマスルト明日全院委員長及常任委員ノ選舉ヲ行ヒマス筈デゴザイマスガ此手續
ヲ省略致シマシテ前議會ノ全院委員長及常任委員ヲ本議會ニ於テ選舉セラレタルモノト致シ
タイノデゴザイマス御異議ハアリマスマイカ」ト諮ヒ「御異議ガナケレバ右ノ通り決定致シマ
ス」ト宣告シタリ第三十四回(臨時)議會亦同シ

參看 一四三號

一三八 全院委員長闕位トナリタルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フ

第五十一回議會 大正十五年三月九日ノ本會議日ニ全院委員長多木久次郎君ヨリ辭任ノ申出アリ院議之ヲ許可スルニ決シタル際議長(粕谷義三君)ハ「此全院委員長ノ職ハ御承知ノ如ク議會構成ノ重要ナル機關デアリマスソレ故ニ此補闕選舉ハ直ニ之ヲ行ハナケレバナラヌト存ジマス……」ト告ケ其ノ補闕選舉ヲ行ヒ熊谷五右衛門君當選セリ

【備考】

- 一 第十二回議會ニ於ケル全院委員長選舉ノ際ハ過半数ニ達セサルヲ以テ決選投票ヲ行ヒタリ
- 二 第十一回議會及第十九回議會ハ開院式ノ翌日解散ヲ命セラレタル爲全院委員長ノ選舉ヲ行フニ至ラザリキ

第二節 常任委員ノ選舉

一三九 常任委員ノ選舉ハ議事日程ニ掲ケ開院式ノ翌日午前十時ヨリ行フヲ例トス

議第二〇條
衆第四四條

常任委員ノ選舉ハ通例開院式ノ翌日午前十時ヨリ之ヲ行フ但シ第五回議會ハ緊急議事ノ爲延期シ第二十回(臨時)及第五十三回(臨時)議會ハ開院式當日之ヲ行ヒ第二十二回乃至第二十四回議會ハ年末年始休會ノ爲メ延期シ、第三十二回(臨時)及第三十四回(臨時)議會ハ選舉手續ヲ省略シテ前議會ノ委員ヲ本會議ニ於テ選舉セラレタルモノト看做シ又第七回(臨時)、第十回及第二十九回(臨時)議會ハ開院式翌日午前九時ヨリ、第三十七回、第四十三回、第五十回、第五十二回及第五十四回議會ハ開院式翌日午後一時ヨリ之ヲ行ヒタリ
尙第十一回及第十九回議會ハ解散ノ爲選舉ヲ行フニ至ラザリキ

一四〇 常任委員ハ各部ニ於テ選舉ス其ノ補闕選舉亦同シ

常任委員ハ各部ニ於テ總議員中ヨリ選舉スヘキ規定ナルニ拘ラス便宜ノ爲各部ニ於テ其ノ部員中ヨリ選舉スルノ慣例ナリシモ近時單ニ其ノ所屬部員ノミナラス他ノ部員中ヨリモ選舉スルノ例トナレリ

其ノ補闕選舉ヲ要スルトキ亦此ノ例ニ依ル而シテ補闕選舉ノ場合ニ於テ其ノ選舉期日ハ議長之ヲ

議第二〇條
衆第四五條
衆第四八條

指定スルヲ例トス

各部ヨリ選舉スヘキ常任委員ハ第二十七回議會ノ始メ即チ明治四十三年十二月二十一日各派ノ申合ニ依リ各常任委員數ヲ各派所屬議員數ニ按分シテ割當テ其ノ割當人員ニ依リ各派ヨリ豫メ候補者ヲ申出テシメ之ヲ各部ニ於テ選舉スルモノトス而シテ第三十回議會以後ニ於テハ二十五名未滿ノ團體ニハ之ヲ割當テサルコトトナレリ爾來此ノ例ニ依レリ

常任委員選舉ノ後其ノ所屬黨派ノ消長ニ依リ議員數ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ割當ハ之ヲ變更スルコトナシ

參看 一四三號、一四六號、一五一號

一四一 常任委員選舉ノ結果ハ當日議院ニ報告ス

各部ニ於テ常任委員ノ選舉ヲ了レルトキハ議長ハ當日其ノ結果ヲ議院ニ報告スルヲ例トス但シ第十回議會ニ於テハ當日豫算委員ノミヲ報告シ他ノ常任委員ハ當日散會後ニ選舉ヲ行ヘルヲ以テ次會ニ之ヲ報告シタリ

參看 二六二號

一四二 常任委員長及理事互選ノ結果ハ當日若ハ次會ニ之ヲ報告ス

委員長及理事互選ノ結果ハ議長其ノ報告ヲ受ケタル當日之ヲ議院ニ報告シ當日散會後ナルカ又ハ會議日ニ非サルトキハ次會ニ之ヲ報告スルヲ例トス

參看 二六二號

一四三 臨時會ニ於テ常任委員常任委員長及理事ノ選舉手續ヲ省略シ前議會

通繼續シタルコトアリ

臨時會ニ於テモ常任委員ノ選舉委員長及理事ノ互選ヲ爲スヘキ筈ナルモ左ノ場合ニ於テハ其ノ手續ヲ省略シテ前議會ノ通繼續シタリ

第三十二回(臨時)議會 大正三年五月五日議長(奧繁三郎君)ハ院議ニ諮ヒ常任委員ノ選舉常任委員長及理事ノ互選手續ヲ省略シ前議會通選舉セラレタルモノト決定シタリ

第三十四回(臨時)議會 大正三年九月四日常任委員ハ選舉手續ヲ省略シ前議會通之ヲ決定シタルモ常任委員長及理事ハ互選シタリ

參看 一四八號、一四九號

第三節 特別委員ノ選舉

一四四 特別委員ノ選舉ハ概ネ議長指名ノ方法ニ依ル
其ノ補闕選舉ハ前選舉ト同一ノ方法ニ依ル

特別委員ノ選舉ハ概ネ議長指名ノ方法ニ依リ其ノ補闕選舉ハ前選舉ト同一ノ方法ニ依ルヲ例トス
【備考】

特別委員ニシテ議場選舉ヲ行ヒタルハ僅ニ四回(第一回議會ニ三回、第二回議會ニ一回)ニシテ當日直ニ之カ選舉ヲ行ハシム而シテ議場選舉ノ場合時間ヲ要スル爲開票ヲ次會ニ延期シタルコトアリ即チ第一回議會明治二十三年十二月六日政府提出窮民救助法案ノ委員ヲ議場ニ於テ選舉スルトキ議長(中島信行君)ハ「是ヨリ開票スルハナカク五時間カ六時間デハ出來スマイ依テ諸君ノ同意ヲ得テ議長ハ之ヲ封印シテ次ノ集會デ開票致サウト考ヘマス」ト告ケ起立採決ノ結果之ヲ可決シタリ

一四五 特別委員ノ選舉ヲ議長ニ委任シタル場合ニハ議長ハ當日之ヲ指名スルヲ例トス

從來委員ノ指名ヲ議長ニ委任シタルトキハ議長ハ翌日會議ノ始ニ之ヲ指名シタルモ第十三回議會以來ハ概ネ即日會議ノ終ニ指名シ散會後指名シタルトキハ衆議院公報ヲ以テ報告スルヲ例トシ又急ヲ要スルカ又ハ會期切迫セルトキハ直ニ指名スルト同時ニ委員長及理事ノ互選ヲ行ハシム

一四六 議長ハ各黨派ヨリ申出テタル候補者ヲ特別委員ニ指名スルヲ例トス
議長ノ委員ヲ指名スルニ當リ往々物議ヲ惹起シタルコトアリタルニ依リ第十二回議會以來ハ各黨派ノ人員ニ比例シテ委員ヲ出スヘキ數ヲ割當テ其ノ數ニ應シテ各黨派ヨリ其ノ候補者ヲ申出テシメ之ニ依リテ指名スルコトナレリ而シテ第三十回議會以後ニ於テハ二十五名未滿ノ團體ニハ特別委員ヲ割當テサルコトナレリ但シ儀禮ニ關スルモノハ二十五名未滿ノ團體ヨリモ指名スルコトアリ

參看 一四〇號

一四七 特別委員ノ員數ノ増加ハ九ノ倍數ニ據ル